

站經理部長ヨリ來電參照)

五八二

八月七日 野戰鐵道提理部ヨリ電話

昨日營口發ノ三百二十七列大石橋ニテ貨車破損ノ爲メ鐵嶺行一車、遼陽行一車ヲ解放セリ。

右ノ内遼陽行ノ分ハ大連發二十一列車ニ連結シテ發車ス又大連發二十一列車(薪ヲ積載セルモノ)中ノ一車(九百七十五號)破損ノ爲メ大石橋ニテ解放ス。

同七日 大連へ一時宿泊ノ通行部隊用トシテ山ノ手倉庫第二十五、第二十六ヲ昨六日大連兵站司令部へ貸與セリ。然ルニ山田兵站司令官ハ本日兵站副官ヲ傳令トシテ更ニ依頼アリタルニ付山ノ手第九、第十ノ二倉庫ヲ貸與セリ。

但左ノ二件ハ特ニ注意セラレタキ旨司令官へ傳言セリ。

一 軍隊ノ爲ニ一時明倉庫ヲ利用スルコトハ軍隊ノ衛生上又經濟上頗ル利益ナルコト故快ク之ヲ貸與ス。

但火災等ノ注意ニ就テハ司令官ニ於テ十分保證セラル、ヲ要ス。

二 大小便ヲ倉庫附近ニ漏サザルコト。

同七日 三面船永松主計ヨリ電報午後九時三十分大連受

昨夜ヨリ増水ノ爲メ危險ヲ顧慮シ本日陸揚ダヲ見合セタリ。午後四時ヨリ増減ナシ。

同七日 奉天橋元支庫長ヨリ電報午後十時二十分大連受

本日午百九十六着ク内弱リ二十、外ニ途中預ケ二、斃レ一、行衛不明一。

八月八日 在小塔子前田支庫長ヨリ電報午前零時三十分大連受

本日(七日)船ノ現在二百此船ハ午後ヨリ夜ニカケテ揚陸中明日終ル豫定○三ノ二十一ノ後發隊着イタ。八ノ五ハ法庫門ニ在ルナラン○木崎主計ト計手ニハ本夕漸ク着イタ○本日午前七時ノ増水一米突五十八、午後七時一米突五十七ナリ○下官ハ明日立チ通江口ニ向フ豫定○三ノ二十八明日朝立チ鐵嶺ニ行ク。

右同日午前一時二十分遼東兵站監へ報告セリ。

五八三

八月八日 辻村遼東兵站經理部長ヨリ電報午前零時十分大連受

臺灣白米一石拾四圓立米拾圓ヲ標準トシ若干石奉天將軍へ賣附方申込ムニト、ナレリ○營口搗精所此際買上タキ兒玉總兵站監ノ意見○營口又ハ遼陽味噌製造所ハ此際鐵嶺ニ容易ニ移シ得ルヤ如何○委細書面。

右ニ付同八日遼陽支庫長へ電報午後二時十分大連發

縣技師ニ左ノ事ヲ傳ヘテ至急出發セシムベシ○鐵嶺ニ味噌製造所ヲ設クル爲メ該地ニ至リ至急調查報告スベシ○萬一鐵嶺ニテ不十分ナラバ馬蜂溝ニ適當ノ場所ハナキカ。

翌九日ニ至リ辻村遼東兵站經理部長ヨリ左ノ書面ニ接ス。

明治三十八年八月七日

於奉天 辻村主計正

日匹主計正殿

臺灣米賣却烏拉靴買收ニ關シ進行方尋ネタシトノ事ニテ昨日奉天ニ出張致候

烏拉靴ハ目下米田主計ヲ竊ニ天津ニ派遣シ又其他ニ於テモ夫々手ヲ廻ハシ進涉中ニアリ御配慮ヲ要セズト答へ置ケリ。

但シ奉天ニ於テ調辨着手ノ模様ナキハ如何トノ御尋ネニ對シテハ答ニ窮セリ。

臺灣米賣却ニ就テモ天津其他ノ方面ニ對シ夫々進行中ナリト答へ置ケリ。

(總司令部ハ最早内密ニスルノ要ナシト云ヒ居レリ)

曾テ奉天將軍ニ賣込方ノ件ハ目下將軍手許ニテ買入ノ南京白米ハ一石(約我一石四斗)ニ對シ拾圓ニシテ外ニ奉天迄ノ運賃拾壹圓ナリト故ニ我一石約拾五圓ニ當ルコト、ナル右ニ付臺灣白米一石拾四圓(原價拾六圓八拾壹錢)同立米拾圓(拾貳圓拾貳錢壹厘)以上ヲ標準トシテ談判ヲ開始スルコト、ナセリ。右ニ付貴官ノ進行シツ、アルモノ此標準價格以上大差アルトキハ奉天將軍賣込ノ分ハ義賑施米ナルヲ以テ割引セリトノ口實ヲ以テ終了セン見込ナリ外ニ豫テ御話セシ義賑米(營口兵站ニテ求メ分配スル分)ハ白米一石ニ付拾六

圓八拾五錢ノ原價ニテ買求ムルコト、セリ其石數六千石。

搗精所ノ件ハ總司令部ハ搗精中止(内地ヨリ玄米ヲ追送シテノ分)意見ナリシ
モ該備付ノ額既ニ拾萬圓ヲ費シタル件又兵站監部ハ追送玄米搗精ノ意見ナ
ルコトヲ開陳シタルニ兒玉大將ハ該家屋土地共内密ニ買收シ休止シ置クコ
トニ取極メ置カレタリ。

味噌製造所ハ今日ノ場合營口又ハ遼陽ニテ行フ時ハ鐵道輸送力ヲ減殺スル
ヲ以テ寧ロ鐵嶺ニ進メ同所ニ於テ調製セシメタシ輒ク行ヒ得ルヤトノ御尋
ネアリ本件ハ專任ノ技師ノ意見ヲ聞キ凡ソ何日間ヲ費シテ移轉シ得ルヤ等
復信スベキ旨答ヘ置ケリ。

以上ハ總兵站監列席ノ上ニ於テ決定シタル大要ナリ但我兵站監ニハ未ダ傳
達セザルモ不取敢及御通知候尤モ兵站監ニ於テ異存アル時ハ更ニ其旨通知
セシ。

明日鐵嶺ニ行キ一二泊ノ上遼陽へ歸任ノ豫定。

八月八日 在小塔子前田支庫長ヨリ電報午前九時四分大連受

今立チ水路通江口ヲ經テ歸ル。

同八日 鐵嶺支庫長へ電報午前十分大連發

小林二等計手ニ其支庫附ヲ命ジ昨日三十一列ニテ出發セリ。

同八日 營口金子支庫長ヨリ電報午前九時三十分大連受

答臺灣米賣方ニ付「ブツシユ」ハ天津ニ見本ヲ送レリ。賣値段ヲ電報シ來ル筈

○搗精ハ百石内外ナリ○目下「ウー」米ガ「ピ」ク「ル」五圓八拾錢ナリ。損セ
ヌ様ニ賣ルコトハ六ツカシ。

同八日 營口金子支庫長へ電報午前十分大連發

臺灣米調査ノ爲メ上田主計ヲ昨夜十時半佐野主計ヲ本日晝十時半貴地ニ出
發セシメタリ。

同八日 前田支庫長ヨリ電報午後七時五分大連受

午前十一時通江口ニ着ク。今三屯子ニ向ケ立ツ○當地船十五アリ○營口ヨ

リノ直通ハ何時ヨリ實施セラル、ヤ。今着シアル船ハ直通ト見做シ差支ナ
キヤ。豆ヲ下ス都合アリ。返ハ鐵嶺へ○通江口ヨリ下ス見込ノ豆ハ約十五
萬石(支那ノ)。

八月八日 奉天橋元支庫長ヨリ電報午後七時十分大連受

輕鐵ハ改築中ノ爲メ鐵道隊ニ人手ナク當支庫附輸卒ニテ輸送ス。之レガ爲
メ二十五名ヅ、ヲ馬三家子ト老邊ニ分遣シ、今日二十四名送りタルヲ始メト
ス。

同八日 遼東兵站參謀長ヨリ電報午後七時十分大連受

不日水路輸送ヲ直通トシ高力屯ヨリ發送スルモノハ三面船及小塔子ニ揚陸
セントス。就テハ關外鐵道輸送糧秣ニ各種ノ給養品種ヲ適宜配合シ日々六
師團分ヲ送ルコトニシタシ。御見込如何。尙營口支庫長ノ返電ニ依レバ例
ノ手段ニ依リ掛リ員ヲ手ニ入レ箱物類ヲ下積ミニスル如クセバ出來ル見込
ナリトアリ。參考迄。

右ニ對シ、左ノ如ク返電ス同夜二時大連發

答關外ニテ六個師團分送ルコト承知ス。配合等ノ事ハ本職ニ任サレタシ。

同八日 小塔子出張所吉井主計ヨリ電報午後八時十分大連受

本日午後五時第八師團第五補助輸卒隊全部到着セリ○之ニテ輸卒隊三隊共
到着濟ミ但第二十一隊和泉隊長ハ水路出發ノ爲メ未着ナリ○昨夕木崎主計
寺坂湯淺兩計手着任ス○前田支庫長今朝通江口へ出發今夜三屯子ニ一泊ノ
筈ナリ。

同八日 片山總經理部長ヨリ電報午後十一時十分大連受

七月第三旬撫順出張所ニ於テ鴨軍へ交付セシ干草ハ三千六百貫ニ過ギズ。
自今一萬二千頭ニ對スル日量三百匁ヅ、ナルベク引續キ交付アレ。

右ニ付撫順高橋主計へ電報午後十二時大連發

七日第三旬ニ於テ鴨軍へ交付セシ干草ハ三千六百貫ニ過ギズ。右ハ三萬六
千貫渡スベキ筈ナルニ何故ナルヤ理由申出デヨ。

右ニ對シ同夜二時三十七分左ノ返電アリ。

返草ノ渡高少キハ當地兵站司令部ニテ目下前送再來ザルヲ理由トシ受取ラザルニ由ル〇其他ノ糧秣モ日々約一個師團分ヨリ受取ラズ。高粱豆粕ノ如キハ如何ニ云フモ前同様ノ理由ニテ受取ラズ。先ニナレバ其代リ澤山受取リ前送スルト云フモ當テニナラズ。

依リテ總經理部長へ左ノ如ク返電セリ九日午前十時
五十分大連發

七月第三旬鴨軍へノ干草不足ニ關シ取調タルニ撫順高橋ヨリノ返電左ノ通りナリ。此上ハ鴨軍へ御掛合アリタシ(高橋ノ返電全文)

八月八日 萩原獸醫正ヨリ左ノ報告アリ。

柳樹屯支庫缺損馬料検査報告

一 大麥

大麥ノ缺損品ハ昨三十七年八月以前支庫設置ノ際第二軍大倉庫ヨリ引續テ受ケタルモノニシテ其數量二萬俵アリシガ本年七月迄ニ改俵シテ前送

セルモノ一萬餘俵ニ及ビ全ク馬糧ニ不適當ナルモノヲ除キ二等品トシテ現存スルモノ五千俵アリ。

此二等品ト稱スルモノヲ檢スルニ往々黴菌ノ附着セルヲ認ムレドモ概シテ品質中等ニ位シ黴化セルモノヲ除去シ黴臭ヲ去レバ馬糧トシテ差支ナキモノト認ム然レドモ茲ニ注意ヲ要スベキ事アリ何ゾヤ凡テ夏期ニ在テハ動物ノ胃腸ハ遲緩シ居ルヲ以テ此季節ニ供用セバ胃腸ノ疾患ヲ誘起スルコトナシトセズ故ニ今暫ク之ヲ貯藏シ置キ適當ナル時期ニ至テ供給スルヲ得策ト思考ス。

手入ノ方法ハ炎天日光ニ乾燥シ扇風器ニ依テ精選改装スルニアリ又扇風器ノ向フニ排出スル者ハ虫害品或ハ未熟粒等ニシテ全ク排除スベキ性質ノモノナリ其際若干ノ食鹽ヲ混ズルノ要アルガ如シ(多少ハ鹽モ殘リアルガ如キモ補足トシテ混入スル要アリ)

二 濠洲産壓搾切燕麥稈

壓搾切燕麥稈ノ相數ハ五千六百相アリト云フ之ガ變敗ヲ來セルモノハ二種ニ區分スルヲ得ベシ。

甲 下積トナリシ物

乙 上積トナリシ物

此等ハ何レモ半面水分ヲ吸收シテ黑變シ或ハ泥土附着セルアリ又ハ黃變シアルモノ等ニシテ之ヲ分解シテ檢スルニ一面ヨリ水分ヲ吸收セルアリ又周圍ヨリ水分ヲ吸收セルアリ其内面ハ黃色ノ微ヲ生ゼルアリ赤微セルアリ黑微セル等水分吸收ノ程度ニ依テ異レリ其區劃ノ多少モ程度ニ依テ差違アリ。

検査法トシテハ熟練セバ外面ノ汚染セル部分ヲ磨擦セバ程度ヲ判斷スルヲ得ベシ(即チ鎌或ハ魚ノ鱗搔様ノ者ヲ以テ磨擦セバ程度ヲ檢スルヲ得ベシ)

前送ノ可否ニ就テハ程度問題ニシテ一部分ノ變敗汚染モ缺損ト見做スラ

得ベキヲ以テ如何ナル程度迄ハ前送シテ差支ナシトノ判定ヲ下スノ要アルガ如シ愚見ハ左ノ如シ。

1 半呎以上變敗セリト認ムモノハ分解シテ呎入ニ改装スルコト

理由 濠洲産切燕麥稈壓搾ハ馬糧トシテ貴重品ナリ之レ乾草代用品タルノミナラズ含有スル燕麥及穀ハ穀物ノ代用タルニ足ル殊ニ蒸氣力ヲ以テ壓搾セルヲ以テ保存上ノ價值大ナリ其價格ハ明カナラザルモ必ズ高價ナルベシ平時ニ於テハ此種ノ馬糧ハ航海用馬匹輸送ノ際ニ供セラ

ル、ノミ。

2 周圍ノ變敗十分ノ三迄ノモノハ前送スルコト。

理由 野積或ハ雨露ノ爲メ外圍ノ多少變敗セル位ハ戰時ノ貯藏法トシテハ到底免カレ難カラシ此等ハ前送シテ差支ナキモノ、如シ夫レガ爲ニハ缺損比例ヲ見込ミ供給セバ可ナラン又一方ニハ此完全ナル壓搾ヲ分解シテ呎等ニ入ル、モ一朝降雨ニ濕潤セバ猶一層ノ缺損ヲ來シ勞シ

テ効ナカルベシ(過日大連ニ於ケル缺損倉庫ノ前ニ野積トナシアリシ以
 入品内地ヨリ送リシモノ多分集積倉庫ニテ改俵セルナラン)ニシテ下敷
 ニ近キモノハ全ク供用シ難キモノアリシ
 要スルニ給與部隊ニ於テ良否ヲ判別シ注意ヲ加ヘテ供用スルニ於テハ
 此貴重ナル飼料ヲ有利ニ飼養品トナスヲ得ベキモノト信ズ。
 右報告候也

三十八年八月八日

萩原 獸 醫 正

日 匹 倉 庫 長 殿

八月九日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前零時五分大連受

午後六時(八日)三屯子ニ着イタ、當地ノ陸揚ダヲ要スルモノ五十九艘○當地古
 城子間陸上交通絶エタル故日々到着船ノ積荷ヲ減ジ古城子ニ陸揚ダセシメ
 ツツアリ。今後減水シテ水上交通ノ出來ザル時期ニハ一時揚陸場ヲ他ニ變
 更セザルヲ得ズ○通江口、三屯子ニ遼東兵站ヲ置ク旨各地兵站司令官ノ話○

通江口ニハ大豆輸出ノ爲メ主計差遣ヲ要ス。一隊(輸卒隊)都合付カザルヤ。
 但、是非トハ云ハス。

同九日 鐵嶺前田支庫長へ電報午前一時大連發

各軍ニ要スル防寒被服及絨衣袴類總テ滿倉ニテ扱フ。交付ニ關スル詳細ハ
 書面ニテ送ル○現品ハ此節日々大連ニ着シツ、アリ。

同時ニ安東縣岡本支庫長へ電報。

冬季用被服品ハ宇品ヨリ其地へモ幾分輸送スル筈

同九日 在三屯子前田支庫長へ電報午前一時五分大連發

其筋ヨリノ意見ナリトテ遼陽及營口ノ味噌製造所ヲ鐵嶺ニ移スコトニ付今、
 縣(技師)ヲ鐵嶺ニ出發セシメタリ。鐵嶺ニテ適當ナラザレバ馬蜂溝ニテモ適
 當ノ地ナキヤ○鐵嶺馬蜂溝間ノ輕鐵ヲ復線トシ、倉庫ニテ管理スル必要ナキ
 カ○西川參謀長ヨリ「不日水路輸送ヲ直通トス高力屯ヨリ發送スルモノハ三
 面船及小塔子ニ陸揚ダセントス就テハ關外鐵道輸送糧秣ニ各種ノ給與品種

ヲ適當ニ配合シ日々六個師團分ヲ送ルコトニシタシ御見込如何ト。參考マ
デニ〇貴官ノ電文不明ナルガ、通江口ニ輪卒一隊入用ト云フノカ、更ニ電アレ。
同時ニ營口金子支庫長へ電報。

辻村部長ノ電報ニ依レバ臺灣白米一石拾四圓(玄米拾圓)ヲ標準トシ、若干石奉
天將軍へ賣付方申込ムコト、ナレリ。營口搗精所ハ此際買上ゲタキ旨兒玉
總兵站監ノ意見ナリト〇營口ト遼陽ノ味噌製造所ヲ鐵嶺ニ移シ得ベキカニ
就テ今夜縣技師ヲ鐵嶺ニ派遣シ調査ニカ、ラシム。

八月九日 在鐵嶺辻村遼東兵站經理部長ヨリ電報午前九時
大連受

奉天支庫ニアル戰利沸水車二臺試ミニ遼陽へ借リ行キタシ。異存ナクバ橋
元へ電報頼ム。今夕六時同地ヲ通過シ歸ル時積込ミ得レバ仕合セナリ。

右ニ付橋元支庫長へ電報午前十時五分
大連發

戰利沸水車二臺辻村部長ノ請求ニ應ジ遼陽へ送ルベシ。同部長ハ今夕六時
貴地通過ノ筈。其時ニ積込ム如ク準備アレ。

同時ニ辻村部長へ「答、戰利沸水車二臺今夕六時積込ム様橋元へ電報シ置ケリ」ト
返電セリ。

同九日 營口金子支庫長ヨリ電報午前九時
大連受

當支庫ニ使用スル苦力ノ爲メニ西貢米又ハ臺灣米ノ買手アリ〇「ピクル」ハ
圓四拾錢内外即チ一石ニ付約拾四圓位ニ當ル拂下差支ナキヤ。但差向キ五
百「ピクル」チレド漸次増加シ得ルナラン〇佐野、上田(主計)着イタ。

右ニ對シ、同日午前十時五十分「答、其直段ナラバ賣拂ヒテヨシ」ト返電シ、同時ニ辻
村遼東兵站經理部長へ其旨電報セリ。

同九日 遼東兵站監ヨリ電報午前十時
大連受

仙金寨撫順間輕鐵ノ内撫順停車場ト倉庫間及ビ各倉庫間ニ敷設シアル部分
及ビ之ニ要スル臺車ヲ除キ他ノ部分及ビ殘リノ臺車ハ第一手押輕鐵班ニ保
管轉換スベシ。但、右ノ部分ハ鴨軍ノ使用ニ供セシメラル、筈ニ付念ノ爲メ。

同九日 小塔子出張中ノ矢野主計ヨリ電報午前八時
大連受

揚陸場近クノ野積地餘積ナクナリ、一昨七日ヨリ山ノ野積地河岸ヨリ約千米突ニ運ブ故抄々シク行カザルモ職員總掛リニテ全力ヲ注ギ夜業迄ナシ居レバ平均一日百二、三十艘分迄ハ運ビ得ル見込。今ノ狀況ニテハ先日來ノ如ク船ノ停滯スル心配ナシ。

八月九日 通江口吉井主計ヨリ電報午前十一時三十分大連受

九日午後通江口ニテ船五隻ノ糧秣ノ受拂ヲナシタリ○當地ヘ陸揚グスル船十隻アリ○目下不良大麥ノ手入ヲナシツ、アリ。

同九日 遼東兵站監ヨリ電報午前十一時十分大連受

一 新タニ内地ヨリ到着スベキ第十二師團第二十一乃至第二十三補助輸卒隊ヲ一時當兵站ニ配屬セラル右ノ部隊大連ニ到着セバ一時貴官ノ使用ニ供ス此隊ハ昨日門司ヲ出帆セシ筈

二 第三軍ヨリ借リアル第五師團第十補助輸卒隊ハ前項ノ輸卒到着ト同時ニ第三軍ニ歸還セシムベシ其豫定時日報告セヨ。

右ニ付高力屯藤田主計ヘ電報午後三時大連發

第五師團第十隊ヘ左ノ事ヲ傳ヘヨ○貴隊ハ近日第三軍ヘ復歸セシメラル、コトニナリシ故營口ヘ轉進ヲ中止スベシ返○(八月六日記事藤田主計宛電報參照)

同時ニ金子營口支庫長ヘ電報

新ニ内地ヨリ到着シ一時本職ノ使用ニ供セラルベキ第十二師團ノ輸卒一個隊ヲ其支庫ニ配屬スベキ豫定ナリ。同隊ハ來ル十五(十六)日頃貴地ニ着シ得ルナラン○第五師團ノ第十輸卒隊ハ第三軍ヘ返スコト、ナレリ。同隊ヘ其旨ヲ達スル爲メ高力屯ヘ今發電セリ。

尙ホ鐵嶺前田支庫長ヘモ同時ニ左ノ如ク電報セリ。

今大連ニアル第三師團第二十七輸卒隊長ハ特務曹長ト新タニ内地ヨリ來リ一時本職ノ使用ニ供セラルベキ第十二師團ノ一個隊隊長ハ中(小尉以下ト見ルベシ)トヲ其支庫ヘ配屬スル豫定ナリ。右兩隊ハ來ル十五(十六)日頃貴地ニ着クコトニナルナラン。

八月九日 高力屯村岡主計ヨリ返電午後九時三十分大連受

答、藤田宛電見タ〇第五師團第十隊ハ昨日ヨリ行進シアル故馬三家子兵站都へ打電シ、隊長へ馬三家子ニ於テ待命スベキ旨命シ、同司令部へ待命中滞在ノ件依頼セリ。

同日 鐵嶺前田支庫長へ電報午後零時三十分大連發

第三軍送りノ高粱ハ輕鐵ニテ高力屯ニ送ラントスルモ目下修繕中故日々極メテ少數ノ外ハ送り得ズ〇其地へ送ラバ馬蜂溝ヲ經テ船ニテ小塔子へ前送シ得ベキヤ〇鐵嶺馬蜂溝ノ都合電報アレ。

同日 在營口支庫佐野主計ヨリ電報午後八時三十分大連受

臺灣米賣却ニ就テ支庫長ノ取調タル大要左ニ
行爲ヲ秘密ニスル爲メ三井ト「ブツシユ」ニノミ懸合ヲ始メ、一方ニハ自ラ當地市況ヲ探リ、領事ハ内地又上海地方ノ相場ヲ問合セ中未ダ確答ナシ。當市場ニテハ米質ノ不良ナルト、需要ノ少ナキト、數ノ多キ爲メ原價ニ實費ヲ合シタ

ル價ニテハ賣レ行キ望ミナシ。サレド予ノ意見ハ保管中生ズル減耗ヲ顧ミレバ寧ロ稍々低價ニテモ速カニ賣ルニ利アリ。又新民府ニ於ケル試ミノ賣出シハ今ニ「ブツシユ」ヨリ何等挨拶ナシ。多分望ミナカラントノ事ナリ〇小官等ハ支庫長ノ承認ヲ受ケ、貯藏玄米ト白米ノ現狀ヲ檢シ、一方ニハ當市場ノ相場ハ各自米店ニ就キ天津上海及ビ内地ノ相場ハ領事ニ依頼シ電報ニテ取調ベ貫ヒ三井「ブツシユ」ノ態度ハ取調中。

同日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後十一時大連受

一日ヨリ七日迄水害ノ爲メ夜間勤務ニ消費セシ薪三千貫拂出シ認可ヲ請フ。右ニ對シ、同日午後十二時答、水害ニ對シ夜間勤務ニ消費セシ薪三千貫拂出シ認可ス下返電セリ。

同日 小塔子吉井主計ヨリ電報午後十一時二十分大連受

第三軍當地兵站司令部ヨリ借受ケ使用ノ第一師團第十五補助輸卒隊一隊及ビ輜重監視隊十四名ノ内其半數ハ明日ヨリ兵站司令官ノ要求ニヨリ返ス

コト、ナレリ。

八月九日 小塔子吉井主計ヨリ電報時午後十二

九日陸揚ダ船二百十五隻ナリ〇水量一米突五十。

同九日 滿洲軍總經理部長へ電報午後五時三十分大連發

近衛第四野戰病院上陸シ瀘水器二個ノ要求アリ渡シテヨキヤ(現在二百五十
三アリ)

右ニ對シ左ノ返電アリ二十日午後十時大連受

答、近衛第四野戰病院ニ瀘水器二個交付シテヨシ。

同九日 是ヨリ先キ米田主計ヲシテ「ウーロー」靴及生牛等ノ調辨ニ關シ調査セ
シメシニ左ノ報告アリ。

報告

三十八年八月六日

三等主計

米田

寬

日匹倉庫長殿

一 旅行ノ經路七月二十五日新民府出發翌二十六日天津着八月一日天津出
發秦皇島着翌二日秦皇島出發八月三日新民府ニ歸着セリ。

二 天津ニ於ケル烏拉靴

天津地方ハ滿洲各地ト異ナリ烏拉靴ヲ使用スルモノ殆ンド之レ無キヲ以
テ天津ニテ之ヲ製造シ若クハ販賣ヲ業トスルモノナシ到ル處皮鞋(支那人
ノ用ユル)製造店ニ就テ見聞セシニ未ダ曾テ烏拉靴ヲ實見シタルコトナク
隨テ製造セシコトハ勿論之ナク甚シキハ其名稱サヘ知ラザルモノアリ唯
昨年日本人ノ注文ニ應ジ初メテ製造セシコトアルハ佛租界製靴店祥瑞豐
外四、五軒ニ過ギズ左レド孰レノ製靴店製鞋店ト雖モ見本ヲ與フレバ製造
ヲ受合フコトハ確實ナリ。

三 製造高 天津ノ主ナル製造者左ノ如シ。

東門内 益源永 一個月 約一萬足

佛租界 祥瑞豐 同 約一萬五千足

右ハ靴馬具、支那鞋ノ製造ヲ業トナスモノナリ。

製靴場(主宰者王來) 一個月 約一萬五千足

右ハ清國政府御用製造場ニシテ目下清國軍隊用改良靴製造中ナルモ注文ニ應ジ前記ノ如ク製造シ得。

北洋硝皮官廠 一個月 約二萬足

其他小店舖ヲ合スレバ一個月約十萬足ヲ製造シ得ベシ。

四 價格

紐付一足 約壹弗參拾仙

何レノ店舖モ殆ンド價格ハ一致シアリ。

五 注文ノ時期

時日切迫シテ注文スルトキハ管ニ粗惡品ヲ作ルノミナラズ價格モ騰貴スル虞レアリ故ニ成ルベク早ク注文スル方利益多シ。

六 材料

凡テ上海地方ヨリ輸入シ來ルモノニシテ天津ニテ製革場ト稱スベキハ右

北洋硝皮官廠アルノミ。

七 北洋硝皮官廠

總督衙門附近新築造幣廠ト運河ヲ隔テ、相對ス明治三十五年ノ創設ニシテ元、香港上海「バンク」ノ「コンブラド」タリシ吳調卿ヲ廠長トシ「マネー」ジャハ英人「カーター」ト稱シ專ラ工場ノ監督ニ任ズ工場ハ蒸氣力ヲ應用シ目下製革シツ、アルハ牛皮羊皮ノ二種トス別ニ製作場ヲ設ケ馬具、靴、帶革等一般革具ノ製作ヲナス職工ハ製革ノ製作ヲ合セテ二百五十人アリ外來ノ注文ニ應ジ必要ノ職工ハ何時ニテモ増加シ得ベシト云フ。

八 生牛ニ就テ

日々新民屯ニ輸入シツ、アル生牛ハ源產地タル山東省ヨリ出テ、昌黎、灤州、唐山附近ノ停車場ニ至リ此處ヨリ貨車ニテ輸送スルモノアルモ大部分ハ山東省各地ヨリ五日若クハ七日間ノ陸行ヲナシ天津ニ到リ貨車ニテ新

民屯ニ向フモノナリ。

九 積載

右ニ用ユル貨車ハ主トシテ二十噸貨車ニシテ一車約十六頭ヲ積載ス。

十 賣買

天津ニ於ケル相場一頭九百乃至千磅

平時ハ

六十五弗内外

現今

八拾弗乃至九拾弗

右ノ外天津新民屯間一頭ノ汽車賃及ビ雜費拾五弗ヲ加フレバ新民着ニテ一頭約百弗ノ元價トナル。

十一 小賣相場

右天津ニ於ケル一頭ノ相場ヲ以テ生肉百分ノ五十六(山東牛生肉ノ割合トシ算出セバ一斤ノ價格ハ左ノ如シ。

平時

一斤ニ付

拾五仙

現今

同

貳拾壹仙

而シテ實際天津市場ノ相場ハ左ノ如シ、

平時

一斤ニ付

拾八仙

現今

同

貳拾五仙

此ノ如ク騰貴セシ原因ハ云フ迄モナク多大ニ北方ニ輸出スルガ故ニシテ日々十幾頭若クハ數十頭群ヲ爲シ天津市街ヲ横行シ白河々岸ヲ過ギ停車場ニ向フノ状態ル盛ナルモノナリ天津地方ニ於ケル肉食者ハ此影響ヲ蒙リ日々生肉ノ騰貴ニ苦情ヲ唱フルハ實ニ無理ナラズ外字新聞モ亦往々此等ノ記事ヲ掲グルヲ見ル。

十二 公然ノ軍需品輸送

天津停車場ニ於テ試ミニ生牛宰領ノ清人ニ其牛ハ何處ニ行クヤト聞ケバ彼等ハ左モ得意ラシク大聲ニテ「新民屯ニアル備們糧臺ニ行クモノナリ」ト答ヘザルハナシ。

天津ヨリ關外ニ向テ發車スル貨車ニシテ一列車中二、三十噸ノ雜貨ヲ除キ
 生牛鶏卵、鶏ヲ滿載シタルモノ尠カラズ何人ト雖モ我軍ノ所用ニ供スルモ
 ノナルコト一見シテ知リ得ベシ列國ノ將校ガ我駐屯軍ノ將校ト汽車ニ同
 乗セバ生牛ヲ指シ貴軍用ノモノナラズヤト話スモノ往々之レアル由此ノ
 如ク我軍ノ需要品タルコトハ殆ンド公然トナリタル今日何等カノ故障ハ
 敵國ヨリ持チ出スナランカ、サレド曩ニ一旦山海關通過ヲ禁止セラレタル
 馬匹モ北京邊ニ於ケル其筋ノ運動奏效ノ結果愈近々再ビ滿洲地方土民ノ
 耕作用トシテ此禁ヲ解カル、ノ徵候アリ。

十三 天津停車場ヲ發車シ關外ニ向ヒシ生牛最近ノ數左ノ如シ。

- 七月二十一日 一七六頭
- 同 二十二日 六四頭
- 同 二十三日 一四四頭
- 同 二十五日 一七〇頭

- 同 二十七日 八〇頭
- 同 二十八日 一七頭
- 同 三十日 九二頭
- 八月 一日 四八頭

十四 秦皇島本年一月入港船左ノ如シ

- 一月十一日 二隻
- 同 十三日 三隻
- 同 十四日 二隻
- 同 十五日 三隻
- 同 十六日 一隻
- 同 十七日 四隻
- 同 十八日 二隻
- 同 十九日 四隻

一月二十日

二隻

一日平均

二隻四

以上ハ芝罘、上海、廣東ヨリ入港セルモノナリ。

十五 棧橋(秦皇島)

大棧橋 全長七百メートル 舟着場所約三百メートル

小棧橋 同五百六十メートル 同 約百メートル

十六 揚陸

二個ノ棧橋ニハ一時ニ三隻着シ得ベク小棧橋ニハ單線、大棧橋ニハ復線ノ軌道アルヲ以テ揚陸ハ容易ナリ。

十七 秦皇島新民間汽車輸送力

遼河白河ノ結氷ト共ニ目下運行シツ、アル營口發天津發ノ貨車ハ皆秦皇島若クハ湯河ニ集合セラルベク隨テ目下營口新民間ト同様ノ輸送力ハ又秦皇島新民間ニ於テ得ラルベシ。

十八 秦皇島湯河間

目下上海、芝罘、天津ヨリ入港シツ、アル運送船搭載貨物運搬ノ爲メ又客車運轉ノ爲メ(午前午後二回)小汽關車四輛アリ(軌引力約二百噸)

十九 秦皇島鑛務局 Chinese engineering and mining Co.

支那政府ト英人トノ共同會社ニシテ左ノ業ヲ營ム

1 倉庫業務

2 棧橋業務

3 稅關代理業務

二十 金鑛局(トランスバール移民會社)

秦皇島ニ在リテ苦力ヲ募集シ「トランスバール」ニ送リツ、アリ募集方法ハ先ヅ天津方面ヨリ秦皇島マデ汽車賃實費ヲ與ヘ愈、乗船ノ際船待チ迄居住スル家屋數棟アリ(新調支那服一式ヲ與ヘ別ニ手當金參拾弗ヲ給スルガ故ニ苦力ハ競フテ蝟集シ來ルモ先方ニ着スレバ食事ノ外ニ一個月給料拾

五弗ニシテ收入稍、可ナルモ凡テノ物價高キ爲メ困難スト云フ
本年一月以來秦皇島ヨリ乗船出發セシモノ左ノ如シ。

一月	四千六百名
二月	一千六百名
三月	一千一百名
四月	二千名
五月	七百三名
六月	四百名
七月	八百名
二十一	秦皇島ヨリ上海、龍口、芝罘、漢口ニ向ケ輸出セシ開平炭本年一月以降左ノ如シ。
一月	一萬六千八百噸
二月	七千六百噸

三月	一萬二千八百噸
四月	一萬一千三百噸
五月	一萬三千噸
六月	一萬二千噸
七月	八千三百十噸

右米田主計ノ報告ハ翌十日辻村遼東兵站經理部長へ通報セリ。

八月十日 在營口支庫佐野主計ヨリ電報午前一時五分大連受

野積臺灣玄米ノ狀況下敷外側米ハ濕氣ノ爲メ黒色ノ徴ヲ生シ(但シ俵ノ外部ニ面スル部分)其然ラザル分モ水氣ヲ帶ビテ質弱クナレリ。缺損俵ノ割合ハ二萬六千積ニテ百五十俵、一萬八千積ニテ三百俵ナリ。上部及ビ内部ニハ異狀ナケレドモ多少熱氣ヲ帶ブルヲ以テ米粒ノ外皮剝落シテ粉トナリ所謂新米ヨリ古米ノ境ニ入レリ。之ヲ現狀ノ儘久シク措クトキハ其結果虫蝕トナリ、粒ニ穴ヲ生ジ、目方ヲ輕クシ、減損ノ度大ナリ○野積中米質ノ良キモノヲ俵

裝セシニ一俵ノ目方二十三貫、枳入六斗二升八合、品質ノ劣レルモノハ二十三貫五、枳入六斗五升九合、後者ハ上田主計ノ量リシモノ、目方ト枳入ト前者ニ反比例ナルハ後者質惡シク、粃米ノ多ク混シアルニヨル。

搗精所ノ取調ニヨレバ、玄米一石ニ對シ白米八斗四五、糠九升八三五、粉米三升三六ナリ。一日ノ搗精高千石ト見做シ、之ニ要スル總費一石參拾八錢參、玄米ノ減高一斗五五(一石ノ代假リニ拾圓ト見做シ)ノ代壹圓五拾五錢、内糠及ビ粉米代ヲ拾五錢ト見做セバ、搗製ノ結果差引失フ所ノ代壹圓七拾八錢八トナル。○玄米ト白米ノ賣レ行キ差額ハ多クトモ壹圓五拾錢以内ト信ズル故寧ロ玄米ノ儘賣ル方得策ナラント信ズ。○俵ノ改装ハ見合シアリ。

八月十日 午前二時四十分鐵嶺前田支庫長ヨリ、夜一時三十分歸着ストノ電報アリ。

同日 遼東兵站經理部長ヨリ電報午後二時二十七分大連受

今後第三軍ニ用ユル追送糧秣ハ當分ノ内三面船へ二日、通江口へ一日、小塔子

へ三日、合計六日分ノ標準ニテ前送セラレタシ。

同日 遼東兵站經理部長ヨリ電報午後二時五十分大連受

過日見本トシテ送付シタル毛皮膝當ハ寸尺等未ダ全ク確定シ居ラズ。近々正確ノモノ送付スル筈ニ付、念ノ爲メ。

同日 午後四時三十分小塔子吉井主計ヨリ、第三師團第二十一輪卒隊泉隊長十日午後一時到着セリトノ電報アリ。

同日 在鐵嶺支庫岡田技師ヨリ電報午後八時五分大連受

九日ノ出來形

第一號倉庫屋根鐵板葺四分五厘樋箱取付濟ミ。○母屋九分通り、地均シ三分通り。○周圍下水掘立中。

第二號倉庫母屋三分五厘通り置渡シ。○下拵七分五厘本日鐵板葺始メタリ。○周圍下水同シ。

第三號同亞鉛葺約三分六厘。○母屋置渡シ七分五厘。○周圍下水同シ。

八月十日 通江口出張所長ヨリ電報午後四時三十分大連受

十日當地ニテ一隻後通江口ニテ八隻陸揚セリ○今荷積ミノ船ナシ○目下麥ノ手入ヲナシ居レリ。

同日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後零時十分大連受

鐵嶺ニ味噌製造所ヲ設クルコト見込ミアリ。遼陽ハ其儘トシ、營口ノ諸器具ヲ移轉セシメラル、コト、シテハ如何○馬蜂溝ニ糧秣ヲ集積スルコトハ將來ノ作戰ト水結後此糧秣ヲ前送スルコトヲ顧慮セザルベカラズ。然ルニ新民法庫門間ノ輕鐵敷設セラル、モノトセバ小塔子ニハ二百乃至二百五十日間(輕鐵ノ力三個師團ト見積リ其冬期間ノ不足一個師團半ト見ル)ニテ可ナラシ。其殘部ヲ馬蜂溝ニ積ムコトハ同意見ナリ○馬蜂溝ニ積ム爲メニハ同地鐵嶺間ニ鐵道支線ノ敷設ヲ要ス。尙諸運搬ノ爲メ更ニ輕鐵ノ復線敷設取計ハレタシ(三軍ノ線ハ目下同軍ニ入用ナリ)○通江口ニハ目下輸卒隊ハ入用ナシ。大豆ヲ下ス爲メ爲シ得レバ主計一ノ派遣ヲ要ス(九日午前一時五十分發電參

照

八月十日 在營口支庫佐野主計ヨリ電報午後八時三十分大連受

一 支那米價格査定參考ノ爲メ昨日當地領事ヲ介シテ「ラングウ」「ウーファー」西貢臺灣米各品等ノ市價需要ノ景況ヲ天津、上海領事ニ打電シテ取調方依頼セリ。

二 營口ノ支那人ニシテ廣ク穀類ヲ取引セル「ウウセイソ」ト「ウエイモ」ノ二人ヲ喚ビ支那米ニ就テ其意向ヲ尋ネシニ其言フ處一致セリ。其大要ハ營口ニテハ需用者少シ。依テ他ノ消費者多キ場所ニ顧客ヲ搜ガス要アリ。其場所ハ南部支那ヲ最トス。故ニ香港ノ市價ヲ標準トシテ相談ニ預カルコト。見本トシテ一升位米ヲ渡シテ貰フコト。其米ヲ香港ニ送り其價格ハ返電次第通知スルコト。之レガ爲メ十日乃至二週間掛ル。相場ハ百斤ヲ單位トシテ立テルコト。其他ノ取引ニ就テノ細事ハ着電ノ後協議スルコト。見本ハ今日渡セリ。

三 三井物産ニテ取調ベシ當地ヨリ神戸港ニ至ル運賃、揚陸、船積ミ、保険料、税金ヲ合シテ約壹圓貳拾錢ヲ要スト、先方ノ申出値段ハ牛家屯渡シ臺灣白米百斤貳圓六拾貳錢〇是ハ餘リ安キ様思ハル。併シ右ハ搗精場ノ搗精ナル故内地向キトスレバ更ニ精製ヲ要ス。其費用及ビ自己ノ手數料其他諸掛リヲ引去リ、尙内地ニテ賣捌ノ模様及ビ將來ノ相場ヲ顧慮シテ最低價格ヲ割出セシナラント恩ハル。更ニ交渉ヲ重ネ十分ノ値段ヲ見積ラセル積リ〇小官等ノ考ハ若シ内地へ持歸ルモノトスレバ運搬ヲ當方持トシ運賃ト税金トヲ免カレシメ之ヲ賣價ニ加フル方宜シカラント信ズ〇玄米ハ現品ヲ見タル後値段申出デシムル筈〇三井支店長ハ依田治作ナリ「ブツシユ」ハ旅順ニ往キ不在。

八月十日 之レヨリ先キ撫順出張所長ヨリ庫手缺乏ニ付補充方申出デアリ。依テ遼陽支庫ヨリ轉屬ヲ命ジタルニ午後十一時二十分「庫手一」若本治定今遼陽ヨリ着ク又三原主計貴地病院マデ後送トナルトノ電報アリ。

同日 在營口支庫佐野主計ヨリ電報午後十二時大連受

今日牛家屯倉庫内白米及ビ玄米ヲ調査ス。

臺灣白米

三斗入り

八七、九六一捆

袋入

六三、八九四捆

内 俵入

二四、〇六七捆

五斗入り

五、五一六袋

六斗入り

一、四三四袋

内一、一〇一捆ハ支庫ニテ整理中故其結果多少ノ缺損アルベシ

二斗入り

二、一〇二袋

總數

九七、〇一三捆

米質上十分ノ搗精ヲナシ得ザル故多少ノ粃米ヲ存シ、粉末附着シ、又赤米交リ、中ニハ黃色ノヤケ米アルヲ見受クルモ總計通ジテ品質ニ大差ナシト思ハル

○品位ハ二等乃至三等位ナラン○格納上品質ニ影響スル所ナキガ如シ。

西貢米總計

八七、四四二袋

能ク乾燥シ粉末ナシ。中ニ臺灣米ノ混合シアリト思ハル、品アリ。之ニハ少シノ粉末附着シアリ。品位ハ前同様ナラント信ズ○荷造ハ完全ニシテ運搬等ノ爲メ米ノ漏ル、恐レナシ。詳細ハ書面ニテ報告ス○倉庫内ノ臺灣立米ハ

六斗入り

五、八〇六袋

二斗入り

一五、二〇八袋

品質ハ明日搗精所野積ノ品ヲ取調べ共ニ報告ス。

營口金子支庫長ヨリ左ノ報告アリ(八月十日附)

一 西貢米臺灣米賣却ニ關スル調査ノ爲メ若手(佐野上田兩主計)ヲ派遣セラレ熱心ニ調査シ居ルヲ見受ケマス昨日佐野主計ノ報告ニ下官ノ意見ヲ加ヘ置キタル如ク目下ニ於ケル情況ニテハ最初ノ買値段ニテ賣ルコトハ六

ツカシク存ジマス何故ナラバ直隸省邊ハ昨年來米ノ豐作加フルニ今年ノ高粱亦甚ダ豐作ノ見込アル趣ニテ是レハ直接當支庫ノ米價ニ影響ヲ及ボスノ大原因ト存ズレバナリ目下天津ニ於ケル相場ハ次ノ如シト云フ但シ上海ノ一等品一擔(日本ノ約五斗四升)ニ付(天津ニテ受渡シ)

立米

參弗五拾仙

白米

五弗五拾仙

小賣白米

七弗參拾仙

「ブツシユ」商會ガ通知シ來レルハ「ウー」フ「白米上海ニテ受渡シ五弗五拾仙ナリ一日モ早ク賣拂フコトガ利益ト存ズレドモ買手ノナキニハ閉口シマス下官ノ意見トシテ若干ハ當地ニ賣リ其他ハ爲シ得ル丈御用船ニテ宇品爲シ得レバ大阪ニ運ビテ賣却スル方却テ利益ナラント存ズ是レハ通信官衙トノ交渉ヲ要スルコトニシテ下官共ノ企ツベキ所ニアラザレドモ御參考迄ニ申上候

二「ウーラー」靴ハ今一週間過ギナラデハ正確ナルコトヲ申上ゲ難ク甚ダ緩漫ノ段恐縮ニ存ジマス但此靴ニハ天津製ト滿洲製トアリテ天津ハ偽物ナリ即チ皮ノ製法ガ違フト申ス事ニ有之候隨テ滿洲モノハ價格ガ低廉デアリマセヌ。

八月十日 第十二師團第二十一補助輸卒隊々長砲兵特務曹長山下英爾大連本倉庫ニ來リテ曰ク

小官ハ今般倉庫長ノ指揮下ニ屬セリ命ヲ待ツト。

又曰ク第二十一ハ昨九日第二十二ニ本日大連ニ着セリ。第二十三ハ明日着スルナラント。

右等ノ輸卒隊ハ瀋車若クハ汽船便アリ次第前送スルコトニナルナラン。其迄ハ大連ニ在リテ倉庫業務ニ服セシムルコト、ナセリ。

同日 在營口英國總領事「サンモン」同國人「ローツタムソン」夫妻並ニ「ブッシユ」米人「サーゼント」等十人ハ瀨川營口日本領事ノ案内ニテ其筋ノ許可ヲ得テ大連

ニ來レリ。依テ倉庫長ハ之ヲ倉庫本部ニ招待シテ晝餐ヲ饗シタリシニ英國總領事以下非常ナル満足ノ意ヲ表セリ。

關外鐵道輸送ノ圓滿ニ行ハレアルコト、並ニ新民府ニ於テ生牛ノ購買ヲ始メ我倉庫業務ガ故障ナク行ハレアルコトハ、他ニ幾多ノ原因アルベキモ英國領事等ガ非常ナル同情ノ力亦預リテ多キニ居ルコト明ナリ。即チ本日ノ招待ニ於テ彼等ニ大ナル満足ヲ與ヘタルコトモ又將來一層如上ノ業務上ニ裨益アラシカ。同日 之ヨリ先キ前田支庫長ヨリ左ノ報告アリ。

其一

三十八年八月一日

於小塔子 前田主計正

日 匹 倉 庫 長 殿

遼河商船航行取締規則ニヨリ輸出貨物取扱細則別紙ノ通相定候間此段及報告候也

追テ遼東兵站監ヘハ貴官ヨリ報告相成度候

輸出貨物取扱細則

第一條 輸出貨物積込ミ地區ヲ通江口別紙略圖ノ地點トス

第二條 輸出ヲ爲サントスルモノハ左ノ事項ヲ書面ニ認メ滿洲軍倉庫小塔子出張所若クハ通江口出張所ニ申出ツベシ

一 貨物ノ種類數量

二 所要船數

三 届先地點

四 貨物管理人ノ姓名

第三條 出張所ハ前條申出ニ依リ輸出品検査ノ上船ノ配當ヲナシ輸出者ニ

ハ輸出許可證ヲ附與シ船頭ニハ送り狀ニ裏書ヲナシテ之ヲ交付スルモノトス

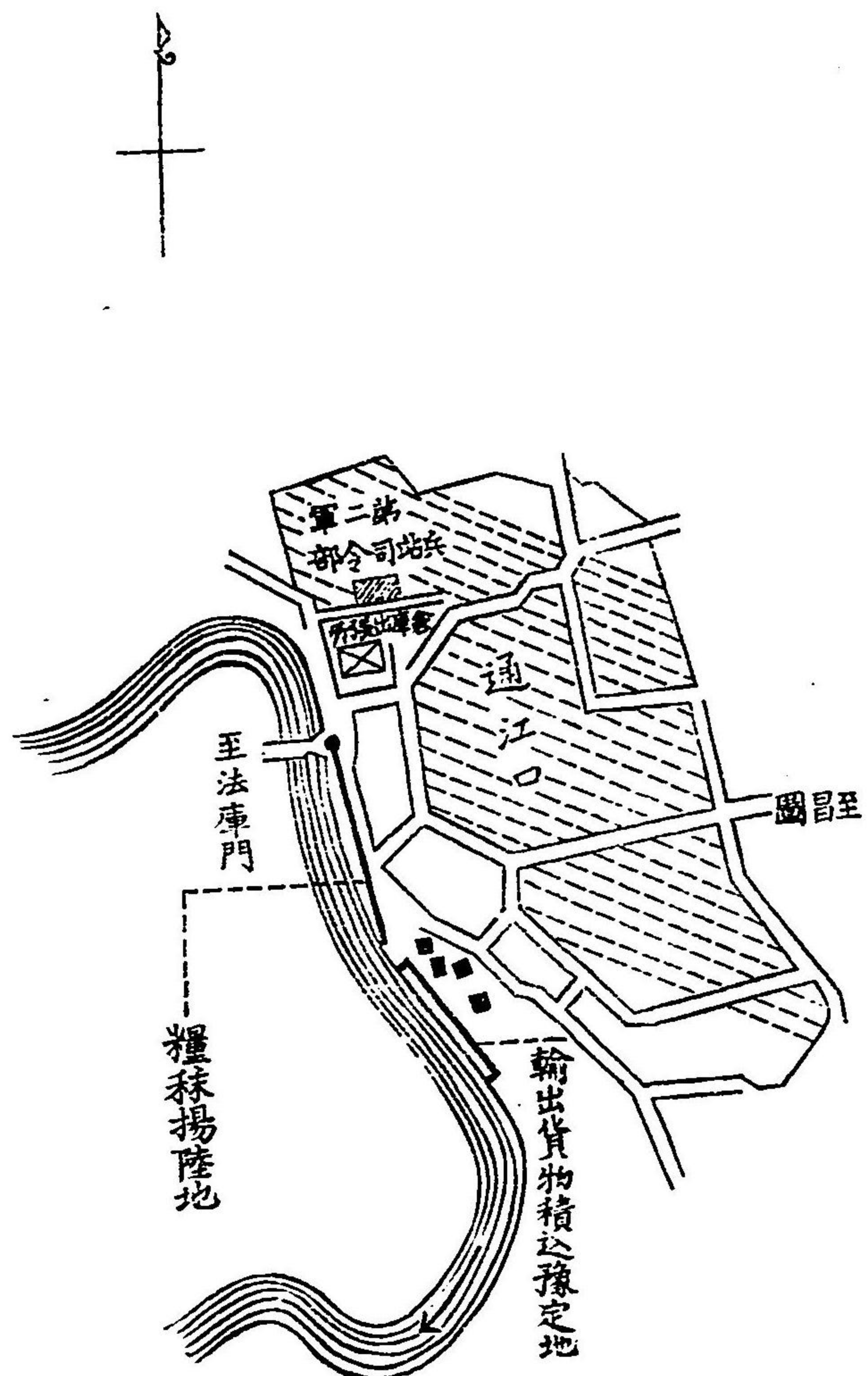
第四條 輸出者ハ到着地點ニ着セシ時ハ輸出許可證ヲ以テ到着地ノ支庫又ハ出張所ニ荷卸シヲ請求スルモノトス

第五條 輸出貨物ノ損害ニ對シテハ其責ニ任セズ故ニ輸出者ハ各船又ハ數

船毎ニ輸送率領者ヲ附シ其保管及ビ船夫ノ取締ニ任ゼシムルモノトス

第六條 輸出貨物ノ爲メ軍需品輸送ノ妨害ヲナスト認ムルトキハ其輸出ヲ停止シ又許可以外ノ物品ヲ輸出シタルトキハ該物品ヲ沒收スル等適宜ノ處分ヲナス可シ

通江口河岸略圖



第何號

輸出許可證

品目	數量	届先地點	管理人住所氏名
大豆	百捆	營口	通江口 何某
豆餅	百捆	營口	

明治 年 月 日

滿洲軍倉庫

小塔子(通江口)出張所

(糧秣品送り状裏書ノ例)

本船ニハ左ノ輸出荷物ヲ積込ミ回漕ス

品目	數量	届出地點	管理人住所氏名

明治 年 月 日

小塔子(通江口)出張所

官 姓 名 印

(此裏書ハ別紙トシテ送り状ニ貼付スルモ妨グナシ)

其二

三十八年八月三日

日 匹 倉 庫 長 殿

於小塔子 前 由 主 計 正

糧秣輸送船ノ歸リニ大豆等ヲ積込ミ輸送スル件ニ付所見

一 輸出點ヲ通江口ト定メタル理由

A 小塔子ハ寒村ニシテ從來ノ輸出地ニアラズ從テ同地ヲ輸出地ト定ムルトキハ一旦通江口ヨリ小塔子ニ逆送シ更ニ輸出セザルヲ得ザル不便アリ

B 小塔子ハ最終ノ糧秣貯藏所ナルヲ以テ此地ヨリ輸出スル時ハ我軍情ノ洩ル、恐アリ

二 輸出ヲ獎勵スルニハ通江口營口間ヲ直航セシムルヲ要ス通江口荷主等ノ意向ヲ綜合シテ判斷スルニ中間地ニ於テ中繼ヲナストスレバ殆ド輸出ヲ欲セザルモノ、如シ其原因ノ主ナルモノハ

A 轉載ノ爲メ費用ヲ要スルコト

B 轉載ノ爲メ盜難其他ノ事故ニヨリ減耗アルコト

C 曾テ輸出途中某兵站部ニテ船ヲ徵用セラレ積込物品ヲ途中ニ陸揚グセシ爲メ非常ナル困難セシ前例アリ

三 輸出ヲ獎勵スルコトハ我軍ノ不利ナリ

本邦ニ雜穀ノ輸出ヲ要スル經濟上ノ理由ヲ別問題トスレバ我軍ニ不利ナリ其理由ノ重ナルモノ左ノ如シ

A 物資ヲ減ズ

目下軍ハ馬糧ノ一部ヲ地方物資即チ高粱豆餅ニ取リツ、アリ之ヲ輸出スルトキ物資ヲ減ズ

B 物價ヲ騰貴セシム

物資減少ノ結果ハ物價ヲ騰貴セシムルコトヲ免カレズ

C 運搬費ヲ騰貴セシム

物價ノ騰貴ハ延テ運搬費ヲ騰貴セシムベシ

苦力及ビ支那車輛ヲ給養スルモノハ主トシテ高粱豆餅類ナリ此必要品ヲ輸出スル時ハ馬糧及ビ食料ノ騰貴ヲ來シ勢ヒ運搬費ヲ騰貴セシムベシ支那苦力及ビ車輛ヲ麾下ニ集合スルノ要訣ハ糧食ヲシテ豊富ナラシムルニアリ糧食ナクンバ一日モ之ヲ一地ニ集ムルコトヲ得ズ而ルニ此食料ヲ輸出シテ其資源ヲ涸渴セシムルトキハ軍ニ必要ナル車輛ヲ四散セシムルカ又ハ支那車輛ノ給養ヲ部隊ニ於テ負擔セザルヲ得ザルコト、ナル

四 結論

以上ノ理由ニヨリ雜穀ノ輸出ヲ獎勵スルコトハ却テ我軍ノ不利ニ歸スベシ但シ雜穀中大豆ハ我軍ノ爲メ比較的の必要少ナキモノ、如シ強テ輸出ヲ獎勵スルトセバ此等ノ如キ不用ノ品種ヲ限定スルヲ有利ナリト信ズ

右意見書ニ對シ左ノ如ク返信セリ。

三十八年八月十日

於大連

日 匹 倉 庫 長

貴官御意見ノ

甲 遼河水止倉船ノ件(八月七日訃事前田ヲ遼東兵站監ヘ)

乙 貨物ヲ輸出スルハ我軍ノ不利ナリトノ件ヲ同經理部長ト金子ト藤田ヘ
送付シ置ケリ

申ハ奇論ナルモ實行ハ六ツカシカラシ

乙ハ理由明瞭ニシテ吾人ノ大ニ同意スル處ナリ
貴官ノ勞ヲ謝ス。

八月十一日 鐵嶺前田支庫長ヨリ九月午後零時三十分大連發ノ電報ニ對シテ
左ノ返電アリ午前一時十分大連受十

馬蜂溝ニハ當支庫ノ割麥加給品等前送當テ千艘ノ準備アリ高粱ハ毎日二百
乃至三百石位ハ前送シ得ル見込船ハ入用ニ從ヒ増スヨトヲ得○小塔子發ノ
三ノ二十輪卒隊十日午後四時着ス。

同十一日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後一時十分大連受

當支庫ヘ配屬セラルベキ輸卒二隊ノ内奉天ニ在ル九ノ二輪卒隊ト新ニ來ル
ベキ一隊トヲ配屬セラル、様變更セラレタシ(來ルベキ馬蜂溝ノ作業ヲ顧慮
シテ)馬蜂溝ニハ軒高サ十二尺長サ五十間ノ河岸荷揚ダ倉庫二棟(五百坪)切組
ヲ終リ本日ヨリ地均シニ着手セリ。尙同一ノモノ一棟(二百五十坪)建築スル
コト承認アリタシ。

同十一日 安東縣岡本支庫長ヨリ電報午後一時十分大連受
懷仁方面ヨリ逆送糧秣ノ内船十九隻着荷揚中。米麥箱物酒等約八千個廢物
ニ屬スル品少カラズ。

同十一日 遼東兵站經理部長ヨリ電報午後五時大連受
新設第二第四第五遼東兵站司令部十三日鐵嶺通過任地ニ向フ。右ニ付鐵嶺
支庫在庫品中ヨリ左記ノ通交付アリタシ。但受領人ヲ同支庫ヘ差向ク。
屋形天幕 第一第四へ三十三枚 第五へ九枚

雨覆 (大) 第二第四第五各十枚宛

右十一日午後七時鐵嶺支庫長へ電命セリ。

八月十一日 撫順高橋主計ヨリ電報午後五時十分大連受

新倉庫五棟(九百二十坪)完成今引渡シ受ケタリ○右報告ス。

同十一日 野戰經理長官へ電報午後七時大連發

倉庫ノ準備ニ必要アリ。今後追送セラルベキ防寒服及ビ冬服等ノ總相數知ラサレタシ。

右ニ對シ左ノ返電アリ五十二日午後五時大連受

答、今後追送スベキ防寒被服ハ約十六萬人分ナリ。冬服ハ記載命令數ニテ一段落トス。

同十一日 在營口支庫佐野主計ヨリ電報午後十一時十分大連受

上海領事ノ返電ニ依レバ同地白米ノ價ハ左ノ如シ。

一	等	二	等	三	等
---	---	---	---	---	---

西貢米	五、〇〇	四、七〇	四、五〇
蘭貢米	四、八〇	四、五〇	四、三〇
臺灣米	四、七〇	四、五〇	四、二〇
上海米	五、〇〇	四、九〇	四、五〇

右ハ何レモ百五十斤ノ代ナリ上海ヲ除ク外ハ波止場渡シ○當地ノ模様ハ値段ノ都合ニ依リ全部賣口アル見込○玄米ハ凡テ白米ノ八掛ケナリ。

天津領事ノ返電ニ依レバ同地ハ

上海白米百六十斤

七弗七拾仙

同玄米

五弗六拾仙

其他取引ナク相場ナク賣捌ノ見込モナシ。

同十一日 大江第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後十二時大連受

六月十九日前送方辻村へ申入レタ酒千石之ニ適應スル煙草甘味品ハ七月十五日頃ヨリ鐵嶺ヲ發シ初メタ。先月末迄七分通り着シ残り三分通りハ未ダ

着シタル報ヲ得ズ。然ルニ軍ニテハ少ナクモ一週ニ一回ハ加給命令アル爲メ何時モ不足勝ニテ着スルヲ待受ケテ給與スルニ付兵站ニハ殆ンド貯藏品ナク常ニ困難シツ、アリ。就テハ前記請求ノ残り三分通リト更ニ十二萬人ノ一ヶ月分(一人一升宛煙草甘味品之ニ適應ス)二ト一ノ比例ニテ小塔子ト三面船ニテ受取り得ル様頼ム。

八月十一日

營口支庫長ヨリ電報午後十二時大連受

今日野積立米全部取調ベタ○米質通ジテ大差ナシ。臺灣米トシテハ概シテ劣等ナラズト思フ○粘着質少ナキ爲メ質脆シ。是レ臺灣米トシテノ性質ナリト信ズ。

野積ノ日面ニナリアル側ノ分ハ外被ノ剝落スルモノ多ク日裏ハ米尙新ラシキ様思ハル。太陽ノ爲メ熱氣ヲ受クルノ多少ニヨリ斯ル差ヲ生ゼシナラン○現在高集積三十二個所其外二個所取リシ殘約八千個俵數計二十萬七千九百十個ノ石數約(一捆六斗三升入ト見做シ)十三萬九百八十三石ナリ。三井へ

立米見本交付セリ。

三井ニ再考ヲ促ガセシニ支店長曰ク現今内地ハ在米倉庫ニ滿チ米況一般氣重ナル故全部買取ルトスレバ若干月持越シ諸掛リ金利及ビ將來ノ危險ヲ見越ス故申出値段ハ安キニアラズト。支那白米ニ就テハ詮議中ノ由○當方ヨリハ北京天津方面ニ賣レ口ヲ搜スコト及ビ糠粉米、掃寄米ノ値段書ヲ提出スルコトニ交渉シタリ。

八月十二日 遼東兵站參謀長ヨリ左ノ通牒アリ(八月九日附)

鐵嶺ニ於ケル地區衛生ニ關シ貴倉庫鐵嶺支庫ノ將校相當官一名ニ鐵嶺衛生委員ヲ命ジ同委員長澁谷少將ノ指示ヲ受ケシメラレタシ。

同十二日 辻村遼東兵站經理部長ヨリ左ノ通牒アリ(八月九日附)

第二軍兵站經理部長ヨリ三屯子滿倉出張所ニ於テ受領ノ糧秣ニハ精米ニテ一割八分割麥ニテ二割強ノ腐敗アリトノ報告アリタル旨片山部長ヨリ通知アリタリ。

八月十二日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報連受^{午後大}

昨日石井部長ニ會見ス〇八千坪ノ倉庫ハ鐵嶺へ四千八百四十八坪(一棟八百八坪ノモノ六棟)馬蜂溝陸揚ダ倉庫千坪小塔子七百五十坪ヲ建テ殘リ千四百二坪ハ新民屯高力屯ニ急ギ建テル必要ナケレバ尙千坪ヲ馬蜂溝へ四百二坪(附屬倉庫)ヲ鐵嶺ニ建テルコトニシタシ部長ト相談ノ都合アリ。直グ返。

右返電^{午後二時四十分大連發}

答、高力屯新民屯等ニハ急イデ建テル必要ナシ。八千坪ハ皆鐵嶺管區ニ建テ
テヨシ。

同十二日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報^{午後七時三十分大連受}

味噌製造所北門外ニ選定シタ修繕工事ハ石井部長へ協議濟ミ。梱包用箱板
其他必要ナル材料取調べ報告ノ爲メ明日縣(技師)ヲ其地ニ遣ル〇同家屋ノ宿
營兵ハ他ニ轉シ又家主ノ品物等ハ今後一週間内ニ形付ケシムル筈ナリ。

同十二日 遼東兵站經理部長へ電報^{午前九時大連發}

大工道具二十組倉庫用トシテ交付取計ハレタシ。

右ニ對シ總經理部長ヨリ左ノ電報アリ^{午後三時三十分大連受}

大工道具二十組ノ請求アリ。右ハ各軍ヨリノ請求多ク目下内地へ準備請求
中ナリ。二十組ヲ渡セバ殘リ五個トナル。倉庫ニ多數ヲ要スル理由聞キタ
シ。

依テ左ノ如ク返電セリ^{午後七時大連發}

答、當部ハ現ニ鐵嶺ニ在テモ建築班以外ニ於テ倉庫ノ建築ヲ實行シツ、アリ。
其他各地ニ於テ些細ナル大工仕事甚ダ多シ。

同十二日 營口金子支庫長ヨリ左ノ電報アリ^{午後零時五十分大連受}

鳴綠江軍同兵站後備第一師團第十一師團各經理部行キ冬服到着セリ。

右ニ付大野宇品貨物廠長へ電報^{午後二時十分大連發}

冬服ノ中一部ヲ營口へ送ラレシヤ。斯ノ如キハ前以テ本職ニ通知アリタシ。
返。

右ニ對シテ左ノ返電アリ午後九時大連受

答送リシコトナシ。但シ鴨軍行キノ分ヲ送リシハ特別扱ノモノニテ其筋ノ命ニ依リ保管及ビ輸送方ヲ營口支庫へ依託セリ。

八月十二日 營口支庫長ヨリ電報午後九時大連受

鴨綠江軍經理部長ヨリ左ノ電アリ。發送シテヨキヤ○當部宛羅紗衣袴冬襦袢袴下急グ。何時頃發送ノ豫定ナルヤ。返。

右ニ對シ午後十時三十分答送リテヨシト返電セリ。

同十二日 在營口支庫佐野主計ヨリ電報午後十時五分大連受

今日北京天津ニ買手ヲ搜ガス見本トシテ三井ニ白米ヲ渡セリ○内地ノ相場ヲ知ル爲メ大阪上田彌太郎宛見本トシテ白米二種ヅ、送レリ○東生和ニ對シテハ事大主義ノ支那人故軍政官ノ前ニテ明日再交渉ヲナス豫定。

八月十三日 遼東兵站經理部長ヨリ電報午前十一時十分大連受

新設第五遼東兵站司令部用トシテ屋形天幕九枚鐵嶺支庫ニテ受領スベキノ

處更ニ又二十四枚同支庫在庫品中ヨリ同司令部へ交付アリタシ○大工道具

二十組ハ貴庫準備品中ヨリ受領アリタシ

同十三日 遼東兵站經理部長ヨリ電報午前零時四十分大連受

蓋平ノ變敗大麥輸送ノ爲メ三貨車該地へ到着シアルヲ以テ此分丈ヶ當地遼陽支庫へ醬油製造用トシテ送付セシムルコト、セリ。御承知アリタシ。

同十三日 蓋平兵站司令部ヨリ電報午前十一時十分大連受

貴地へ送リツ、アル大麥二千五百九十石ハ本日第二十列車ニテ輸送終ル。

右ニ付遼陽兵站經理部長へ電報午後零時十分大連發

蓋平兵站ヨリ多數ノ大麥ヲ大連へ逆送ノ理由聞キタシ。此品勿論不十分ナレドモ敢テ給養ニ充テラレザルニモアラズ。返待ツ。

右ニ對シ、左ノ返電アリ午後四時十分大連受

蓋平兵站ヨリ貴地へ送リタル大麥ハ當糧餉部派出所宛ニ送付方ヲ命ジタルモノナリ。逆送ノ理由ハ大麥ヲ精選シタルモノニシテ一重梱包ナルヲ以テ

野戰軍ノ給與ニ宛テ難ク依テ貴地屯在ノ馬匹及近來上陸セル師團馬匹ノ給與ニ宛テ一日モ早ク使用スル目的ニ出シモノナリ。故ニ受取ラレタシ。大麥ハ當派出所(在大連)へ交付アリタシ。

依テ「大麥ノ件承知ス」ト返答セリ。

八月十三日 蓋平兵站司令官ヨリ左ノ電報アリ。

過日來貴庫へ宛輸送セシ大麥二千五百九十石ハ貴地兵站糧餉部派出所宛送付スベキヲ誤テ貴庫行トシテ送付セシコトヲ發見セリ。御承知ヲ乞フ。

同十三日 遼東兵站參謀長ヨリ電報午後二時五分大連受

遼東兵站監部付一等計手羽田豊ハ十一日發令貴倉庫付主計職務取扱ヲ命ゼラル。

同十三日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後二時五分大連受

「ウーラー」靴ノ製作力ハ一日三百足ニシテ十一月半迄ニハ約三萬ノ見込ミナリ。但シ原料タル皮ノ輸入都合ヨケレバ五萬位ニ増加シ得ベシ。代價ハ曩

ニ調査セシ頃ヨリハ糶シ材料タル粟稈、石灰、工賃ノ騰貴ノ爲メ一兩拾五錢〇當地現在ノ原料ハ二萬足分ノ生牛皮アリ。返。

右ニ對シ、左ノ如ク返電セリ午後五時五分大連發

答、値段ハ實物ニ伴フモノナル故實用ニ適スル品ヲ至當ト認ムル相場ニテ買入ルベシ。但シ各地トモ一兩拾參錢位ヨリ。

同十三日 奉天橋元支庫長ヨリ十二日付ヲ以テ左ノ報告アリ。

保管被服現況

保管被服中左ノ品目ニ付上、中、下層解梱ノ上各層毎ニ二、三梱ヲ檢セシニ絨衣襟ニ僅ニ微ノ斑點ヲ認メタルモ格別地質ヲ害スル程ニモナキヲ以テ時々梱包ノ儘日光ニ曝ラシ積替セバ差支ナシト認ム右報告ス。

但毛布毛皮類(靴)モ別ニ虫ノ發生シタル如キモノヲ認メズ唯幾分ノ臭氣ヲ發セリ。

左記

絨衣袴 各襦絆袴下 毛布 毛皮足袋 絨靴

八月十三日 辻村經理部長ヨリ左ノ通牒アリ。

其一 八月十二日付 經發第一、八三〇號

來ル九月四日遼陽占領ノ一週年紀念日ヲトシ我戰死者ノ臨時招魂祭執行ニ付各地兵站司令部ニ於テ貧民賑恤トシテ施與セラルベキニ就テハ兼テ御協議ニ及ビ置キタル營口ノ臺灣米ヲ取敢ヘズ二千石營口兵站司令官ヘ賣却方取計相成度

其二 八月十二日付 經發第一、八一九號

第十六師團及ビ野戰電信隊來十三日頃ヨリ約十日間ニ亘リ逐次内地出發大連ヨリ日々六列車ノ割ニテ鐵嶺ニ向ケ汽車輸送セラル、ニ付此間糧秣列車ハ減削セラル、筈トアリ

同十三日 鐵嶺前田支庫長ヘ電報午後四時五分大連發

第二軍兵站經理部ニテ調達セル左ノ品ヲ同部ヨリ受領シ保管スベシ(經理部

長ノ指圖ナリ)全部白毛布千二枚半部各色毛布一萬九千八百八十五枚、鐵線六千九百貫。

同十三日 第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後四時三分大連受

當軍ノ爲メ醬油約二百石出來得レバ前送方頼ム。受取場所ハ三面船三十石、通江口六十石、小塔子百十石。

右返電午後五時五分大連發

答、醬油ノ在庫品ナシ。依託購買ナレバ前送出來ル返〇加給品鐵嶺支庫ニ澤山アル、送ル事ヲ前田ヘ命令シ置ケリ。

然ルニ同日午後十二時左ノ電報アリ。

醬油ハ偶々、軍經理部ヨリ請求ト重複セシニヨリ取消ス〇加給品御配慮ノ件了知セリ。

同十三日 遼東兵站參謀長ヘ電報午後五時五分大連發

鐵嶺ト馬蜂溝間ニ輕鐵ノ復線ヲ要スルコト、ナレリ。材料サヘ渡サルレバ

工事ハ我倉庫ニテ出來ル。至急御配慮アリタシ。

八月十三日 遼東兵站副官ヨリ電報午後八時三十分大連受

貴庫附命ゼラレシ第十二師團第二十一、二十二、二十三ノ三補助輸卒隊長ノ役種官姓名ヲ至急取調べ返アリタシ。

右返電十五日午前一時大連發

答、十二師團二十一隊長ハ後備砲兵特務曹長山下英爾、豫備三等軍醫荒木菊太郎、同二十二隊長ハ豫備歩兵特務曹長岡村忠夫、豫備三等軍醫湯川茂、同二十三隊長ハ豫備砲兵中尉佐伯貞之助、豫備三等軍醫平位茂雄。

同十三日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後九時大連受

本日午前二時輕鐵ノ修繕了リ只今迄五百臺發車セリ○天候ハ續イテヨシ。

右直ニ遼東兵站監ヘ電報セリ

同十三日 三屯子出張所白井主計ヨリ電報午後十二時大連受

目下當地古城子間ハ日々約四個師團分ヲ水路輸送シツ、アリテ遼河ノ溢レ

ハ自カラ一條ノ水道トナリ、今後遼河約二尺減水スルモ尙水上輸送出來得ル見込ミニテ目下此水道ノ堤防ヲ造リ、且ツ遼河ノ水ヲ引クコトニ力メツ、アリ。然シ古城子ハ一帶ノ高地ニテ陸揚ダ野積共最モ適當ナルニヨリ當地ニ三十石以下ノ小船約三十ヲ配付セラレ、當所モ又古城子ニ移轉セバ今後ノ輸送ハ永ク此水道ニ依ルヲ得、業務ノ關係好都合ナラント思考ス。右特報ス。

同十三日 吉田第三軍經理部長ヨリ電報午後六時三十分大連受

與倉中佐ノ通知ニ依レバ營口ニ麥味噌二千貫アル由腐敗ノ恐レナク味ヨキモノナレバ給養品ニ當テタシ。都合出來ザルヤ。

右返電午後六時五十分大連發

答、味噌ノコト依託購買ナレバ品ト値段ヲ調べタ上ニテ買入レ送ル。

右ニ對シテ左ノ返電アリ午後九時三十分大連受

依託購買ニアラズ、給養品トシテ追送アリタキ希望ナリ。

八月十四日 倉庫長ハ遼河ノ水路輸送及「ウーラー」靴ノ購買等ニ關スル業務ニ

付遼東兵站監部ニ打合セノ爲メ竹下主計ヲ隨ヘテ午前十時大連出發同十五日
午前十時遼陽ニ到着セリ。

是ヨリ先キ遼東兵站參謀長ヨリ送付セラレタル水路輸送ニ關スル書類左ノ如
シ。

遼兵監參第三三一號

明治三十八年八月十日

遼東兵站參謀長

西川 虎次郎

滿洲軍倉庫長日匹信亮殿

別冊要領書ニ依リ營口小塔子間水路輸送ハ直通ノ法ニ依ラシメラル、コト
ト相成候間御承知相成度又同要領第三條ニ依リ高力屯ヨリ發送スルモノハ
各給養品種ヲ適當ニ配合(師團ヲ單位トシ)スルヲ要スル儀ニ有之候就テハ營
口ヨリ關外鐵道ニ依リ輸送スル糧秣ハ從來米麥ヲ主ト致居候處將來ハ高力
屯ヨリ上流ノ輸送ニ適應セシムル爲メ各種ノ給養品種ヲ適當ニ配合シ日々
約六師團分ヲ輸送スルコトニ改正方御取計相成度此段申進候也

遼兵監參第三一七號

遼河水路輸送要領別冊ノ通り定メ來ル八月十六日ヨリ實施ス

本要領ノ實施ト同時ニ遼河水路輸送ノ方針草案ヲ廢止ス

明治三十八年八月十日

遼東兵站監

井 口 省 吾

(付箋)三面船馬蜂溝間ハ三面船ニ兵站司令部ヲ設置スル迄ハ高力屯兵站司令

部ノ擔任トス

遼河水路輸送要領

- 一 目的 遼河ノ水運ヲ利用シ營口小塔子間糧秣其他軍需品ノ水路輸送ヲ爲ス
- 二 輸送ノ方法 水路輸送ニ要スル船舶ノ徵收並ニ輸送ハ一切商人等ヲシテ受負ハシムルヲ許サズ凡テ我官憲ニ於テ直接實施スルモノトス
- 三 輸送區 營口ヨリ發送スル糧秣船ハ三屯子通江口及小塔子ノ各地ヘ向ケ直通輸送シ高力屯ヨリ發送スルモノハ三面船及小塔子ニ向ケ直通輸送

スルモノトス

但其各地行糧秣ノ數量ハ必要ニ應ジ其時々決定スルモノトス右ノ外必要ニ應ジ馬蜂溝、通江口、三屯子、小塔子等各地間軍需品及患者ノ輸送ヲ行フ三面船、三屯子及通江口ニ向ケ發送スル糧秣ハ各其發送地ニ於テ各給養品種ヲ適當ニ配合シ發送スルヲ要ス

四 輸送糧秣ノ節調 各地ニ揚陸スル糧秣ノ配合適當ナラザル場合若クハ各地ノ揚陸力足ラズシテ糧秣積載船停滯スル場合ニハ馬蜂溝ニ於テ之ヲ節調シ要スレバ糧秣ノ一部ヲ同地ニ揚陸ス

五 輸送數量 營口ヨリ發送スルモノハ日々平均十師團分ノ糧秣ヲ主トシ外ニ酒保品其他臨時輸送ヲ要スル軍需品若干トス高力屯ヨリ發送スルモノハ主トシテ關外鐵道ニ依リ同地ニ到着セル糧秣品ノ全部及酒保品其他ノ地方調辨品等トス

六 輸送ニ任ズル官憲 左ノ地點ニ兵站司令部ヲ置キ輸送業務ヲ擔任セシ

ム

營口、高力屯、三面船三面船ニハ當分兵站司令部ヲ置カ三屯子、通江口、小塔子

營口兵站司令部及高力屯兵站司令部ハ各其地ヨリ發送スル糧秣其他軍需品ノ積込並ニ輸送一切ヲ擔任シ其他ノ兵站司令部ニアリテハ主トシテ其地ニ到着スル貨物ノ揚陸ニ任ズルモノトス但馬蜂溝ニアリテハ必要ニ應ジ其地ヨリ發送スル軍需品ノ積込並ニ輸送ヲ擔任ス

七 患者及還送品ノ輸送 糧秣船ノ歸航ヲ利用シ小塔子、通江口、三屯子等ノ各地ト馬蜂溝トノ間患者ノ輸送ヲナス又必要ノ場合ニハ還送品ノ一部ヲ本水路ニ依リ輸送スルコトアルベシ此場合ニ於ケル積込及輸送ハ各其發送地ニアル兵站司令部ノ擔任トス

八 輸送ノ掩護 水路輸送掩護ノ爲メ左ノ各地ニ守備兵ヲ配置ス
各兵站司令部所在地、八家子、金家窩棚、太灣、對頭灣、

右ノ外軍需品積載ノ船舶ニハ發送地兵站司令部ニ於テ若干ノ護衛兵守備兵又ハ銃器ヲ携帯スル補助輸卒ヲ附シ兼テ輸送貨物ノ宰領ヲナサシムルモノトス

九 巡邏船 前項ノ外各兵站司令部及八家子、太灣、對頭灣守備隊ニハ遼兵監參第三一五號ノ規定ニ依リ巡邏船ヲ設ケ規則違反者ノ取締並ニ輸送船ノ監視保護ヲナサシムルモノトス

十 搭船揚陸地ノ設備 糧秣其他軍需品ヲ積載若クハ揚陸スル地ニハ其地ニ於テ日々取扱フ船舶ノ員數ニ應ジ所要ノ設備ヲナシ以テ積載揚陸ヲ遲緩セシメザルヲ勉ムルモノトス

十一 船舶ノ積載量 各船舶ノ積載量ハ適宜ニ制限ヲ加ヘ船足ヲ淺クシ上流ノ航行ニ支障ナカラシムルヲ要ス又積載貨物ヲ濕潤セシメザルコトニ關シテハ特ニ注意ヲ要ス

十二 輸送賃銀 輸送賃銀ハ概略附表第一ノ標準ニ依ルベシト雖モ勉メテ

之ヲ輕減センコトヲ努メ其増減ヲ要スル場合ニハ豫メ兵站經理部長ノ承認ヲ受クルヲ要ス

歸リ船ヲ利用スル還送貨物ノ運賃ハ第一表ノ二割減トス患者輸送ノ船賃ハ追テ之ヲ定ム

十三 賃銀仕拂 賃銀仕拂ハ輸送船歸着ノ後發送地兵站司令部ニ於テス但シ還送輸送ニ在リテハ到着地ニ於テ仕拂フモノトス而シテ此賃銀ハ如何ナル場合ニアリテモ必ズ輸送證票ト引替ニ直接船長ニ交付スルモノトス船長若シ輸送證票ヲ毀損又ハ喪失シタルトキハ賃銀ノ仕拂ヲナスベキ兵站司令部ハ發送地又ハ到着地ノ兵站司令部ニ照會シ輸送品目員數ヲ確メタル後仕拂フモノトス

十四 下航船ノ利用 軍需品輸送ニ障害ヲ及ボサル範圍ニ於テ輸送船ノ歸航ヲ利用シ各揚陸地ヨリ大豆其他地方物資ノ輸出ヲ許ス但シ其實施法ハ遼兵監參第一二二號ノ規定ニ依ルモノトス

十五 輸送證票 貨物發送地ノ兵站司令部ハ輸送證票(附表第二)ヲ發行シテ輸送ニ際シ其(甲)ヲ控トシテ保存シ(乙)ヲ船長ニ交付ス

輸送證票ハ品質堅牢ナル紙製ニシテ要件ノ記入ハ必ず墨汁ヲ用ヒ數字ハ壹、貳、參、拾等改書シ易カラザル字體ヲ選用シ兵站司令部名ハ地名ヲ冠スルモノトス

輸送證票ニハ必ず發送地兵站司令官ノ檢印ヲ要ス

到着地兵站司令部ニテ輸送貨物ヲ受領シタルトキハ輸送證票ニ照シ過不足ヲ調べ之レニ所要ノ記入ヲナシ主任官捺印ノ上再ビ船長ニ交付スルモノトス

但輸送證票ヲ毀損又喪失シタルトキハ到着地兵站司令部ハ實際受領セシ品目員數ヲ記載セル假證票ヲ調製シ船長ニ交付スルヲ要ス

還送品又ハ患者發送ノ兵站司令部ニ於テハ之レニ準ジ輸送證票ヲ調製スルモノトス

積込賃トシテ若干ノ額ヲ輸送前船長ニ仕拂ヒタルトキハ運賃ノ内ヨリ之ヲ控除ス又此場合ニハ證票中適宜ノ位置ニ其旨ヲ朱書シ置クモノトス

十六 待命費 官ノ都合ニヨリ輸送船舶ヲシテ長時間待命セシムル場合ニハ輸送船歸着ノ翌日ヨリ起算シテ第四日目ヨリ船夫一名ニ付一日貳拾錢宛ヲ給ス

十七 各機關相互ノ連絡 水路輸送並ニ其掩護ニ任ズル各機關ハ電信又ハ巡邏船ニ依リ相互ノ連絡ヲ取リ其情況ヲ明ニシテ船線リニ便ヲ與ヘ輸送ヲ遲滯セシメザルコトヲ勉ムルヲ要ス

特ニ節調ニ任ズル兵站司令部ハ常ニ其上流ニアル各兵站司令部ノ狀況ヲ明知スルヲ要ス

八 船舶ノ配當 本要領實施ノ爲メ所要船舶ヲ左ノ通り配當ス但シ從來船舶ヲ徵用シアル兵站司令部ハ本條指定ノ船舶ヲ其地ニ殘シ殘餘ハ悉ク營口ニ護送シテ同地兵站司令部ニ交付スルモノトス

一 高力屯兵站司令部

一千二百二十九隻

一 馬蜂溝兵站司令部

百隻

一 各兵站司令部(高力屯馬蜂溝ヲモ含ム)及八家子、太灣、對頭灣守備隊ハ巡邏船(舳舻又ハ其他小ナル船)

若干隻

一 營口兵站司令部

右各地ノ所要ヲ引キ去リタル殘餘ノ船舶(現在第三軍ニ於テ通江口附近ニテ徵用シアルモノヲ除ク)悉皆

但各兵站司令部ニ於テ正當ノ理由ニヨリ船舶ニ不足ヲ生ジ附近ニ於テ徵用シ得ザル場合ニハ營口兵站司令官ニ請求ス可シ

十九 徵用船ノ標識 各兵站司令部ノ徵用船ハ各特別ノ標識ヲ附シ他ノ徵用船ト識別シ易カラシムルヲ要ス

二十 船舶積載貨物ノ免稅 兵站司令部徵用ノ船舶及貨物ハ何レノ場合ト雖モ河防稅ヲ徵收セラルヽコトナシ

二十一 罰則 兵站司令部ノ許可ヲ得ズシテ私ニ輸出荷物其他ノ商品ヲ輸送シタルトキハ貳百五十圓以下ノ罰金ニ處シ情狀ニ依リ輸送貨物ヲ沒收ス第十九項ノ標識ヲ湮滅シテ徵用ヲ免レント欲セシモノ及徵用船ニアラズシテ徵用船ノ標識ヲ摸擬シタルモノハ其船舶ヲ沒收シ或ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

二十二 審判 犯則者ヲ發見シタル兵站司令部ハ遼東守備軍令達第一〇號(拘留料ノ即決ニ關スル規則)ニ依リ審判ス若シ犯則者ヲ發見シタルモノ獨立守備隊ナルトキハ護送ニ便ナル兵站司令部ニ送付シ送付ヲ受ケタル兵站司令部之ヲ審判ス

二十三 損害賠償 天災地變其他不可抗力ニ因ルニ非ズシテ輸送貨物ニ損害ヲ生ジタルトキハ船長等ヲシテ其損害ヲ賠償セシム賠償額ノ決定及徵收ハ運賃仕拂ノ兵站司令官之ニ任ズルモノトス賠償金ノ徵收ニ就テハ遼兵監副第四九八號ヲ適用ス

(參考)

遼河水路輸送所要船舶數

營口、三屯子間 2600×32×3 253 _馬	999 ㄣㄣㄣ 割ヲ加ノ 1099.	千九十九隻
營口、通江口間 2600×33×1 250	344 ㄣㄣㄣ 割ヲ加ノ 379.	三百七十九隻
營口、小塔子間 2600×35×6 250	2184 ㄣㄣㄣ 割ヲ加ノ 2403.	二千四百三隻
高力屯、三面船間 2600×6×2 250	125 ㄣㄣㄣ 割ヲ加ノ 138.	百三十八隻
高力屯、小塔子間 2600×20×4 250	832 ㄣㄣㄣ 割ヲ加ノ 916.	九百十六隻
馬蜂溝、小塔子間	營口ニ	五百隻
外ニ酒保品及商品用トシテ	營口ニ	五百隻

賠償金ノ徵收ニ就テハ遼兵監副第四九八號ヲ適用ス

附表 第一

貨物等級區分表	
第一等	第二等
米 貳斗入 麥 參斗入 干 野 菜 薪 炭 酒 貳斗入	麥 貳斗入 調味品類 酒 壹斗入
鹽 乾 魚 肉 干 草	罐 詰 肉 漬 物

追送品還送品酒保品其他特別ノ物品ニ對スル第一第二種ノ區分ハ本表ニ準ジ
定ムルモノトス

水路輸送運賃標準 (一梱ニ付キ)

管 口	高力屯	三面船	馬蜂溝	三屯子	通江口	小塔子
四拾五錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢
五拾五錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢
六拾七錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢
七拾七錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢
八拾七錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢
九拾七錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢
十拾七錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢
十一拾七錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢
十二拾七錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢
十三拾七錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢
十四拾七錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢
十五拾七錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢
十六拾七錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢
十七拾七錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢
十八拾七錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢
十九拾七錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢
二十拾七錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢	拾參錢

備考

- 一 各區畫内右方ハ第一種ノ貨物左方ハ第二種ノ貨物ヲ示ス
- 二 本表ハ概略ノ標準ヲ示スニ過ギザレバ狀況ニヨリ多少變更スルヲ得但シ此場合ニハ豫メ經理部長ノ承認ヲ要ス

同

高力屯ニ

百七十五隻

各地巡邏船用

三十隻

合計 五千七百四十隻

現在數五千六百四十隻

(加藤渡邊兩少尉ノ貸査セシ遼河々上ヲ浮ルミアルニテ五隻ノ内九十)

差引不足 百隻

此不足數ハ營口ニテ毎日商人ニ使用ヲ許可スベキ十隻ノ内日々若干

隻ヲ減シテ之ヲ補フ

八月十四日 奉天橋元支庫長へ電報午前零時三十分大連發

「ウーラー」靴ノ件ニ付明日遼陽へ來レ。

同十四日 奉天橋元支庫長ヨリ電報午前十一時四十分大連受

昨日着ノ牛百四頭鐵嶺送り百六頭鴨軍渡シ四十頭残り四十七頭ハ前途ノ見込ナシ。斯ノ如ク近頃成績不良ナルモ獸醫ナクテハ其原因等詳シク分ラヌ。

金森獸醫ノ代リ是非派遣アリタシ。

右ニ付翌十五日遼陽支庫附三等獸醫中島龍夫ニ奉天へ出張ヲ命ゼリ。

八月十四日 鐵嶺支庫長ヨリ電報午後一時二十分大連着

「ウーラー」ノ原料トシテ前線ヨリ還送シ來ル生牛皮ヲ應用スルコトノ取計ヒアリタシ。之ヲ利用セバ一兩匁約七錢以内ニテ出來得ル見込○還送スベキ牛皮約二千枚アリ。一萬足ノ爲メニ一千枚ヲ要ス。

右電報ヲ大石橋ニテ接手スルト同時ニ大連本倉庫磐井藥劑正へ電報。

今大連ニ集リアル牛皮ハ倉庫ニ留メ何分ノ命アル迄還送スルナカレ。イクラアルカ返。

右ニ對シテ大連本倉庫ヨリ左ノ返電アリ午前十一時十分遼陽受

答、牛皮ハ三千三百三十捆アリ(一捆ハ一枚乃至二枚)

翌十五日鐵嶺前田支庫長へ返電午後四時遼陽發

答、其地ニアル牛皮ヲ以テ先「ウーラー」靴ノ製造ヲ開始スベシ

同十四日 高力屯藤田主計ヨリ電報午後一時十分大連受

遼河水路輸送要領ニ依ルトキハ糧秣ノ責任ハ全然兵站司令部ニアルモノ、如ク今日ノ輸送方法ト其趣ヲ異ニス。直通ノ説行ハレタル結果水路ノ業務ハ事實上倉庫ノ手ニ歸シタルモノト思フニ全ク之ニ反ス○要領書ニ拘泥セズ、業務ヲ實行スル考へ。御意見返。

同十四日 遼東兵站上田參謀ヨリ電報午前八時大連受

輕鐵材料ノコトハ既ニ手筈整ヒ目下高力屯ニアル工兵中隊長ノ當地ニ來ルヲ待テテ諸事決定スル筈○此頃貴部ニ配屬サレタル第十二師團補助輸卒三隊ハ近日中再ビ總兵站監部へ取上ダラル、様子、目下引留方種々交渉中ナルモ見込少ナシ。豫メ還シ得ル様準備ナシ置カレタシ。

同十四日 滿洲軍總司令部尾野參謀ヨリ電報午後十時五分大連受

貴官ノ指揮ニ屬セラレタル第十二師團第二十一乃至第二十三補助輸卒隊ハ總テ大連へ到着セルヤ。又何レニ使用セラル、計畫ナルヤ。返待ツ。

右返電 時五十分午後三

第十二師團第二十一乃至第二十三ノ輸卒隊ハ總テ大連ニ到着シ左ノ如ク各地ニテ使用スル爲メ二十一ハ撫順へ昨日、二十二ハ鐵嶺へ本日共ニ汽車ニテ出發セリ。二十三ハ柳樹屯へ本日陸路出發ノ筈。

八月十五日 鐵嶺前田支庫長へ電報

十二ノ二十二隊ハ多分本日十三列ニテ貴地へ送ラル、ナラン。二十三ハ都合出來タ故柳樹屯ニ遣レリ。貴地へノ代リハ當分ナイ○遼河輸送ニ付根本的意見ヲ兵站監ニ述ブル積リ。一時繰合せ直グ遼陽ニ來レ○新規定實施期迫レリ○水路輸送要領書持參セヨ。

右ニ對シ同日午前十一時左ノ返電アリ。

答、去ル十二日ヨリ「マラリヤ」ニテ時々發熱シ、旅行出來難シ。昨日ノ最高熱度四十二度餘。

依テ更ニ左ノ如ク電報ス午前十一時十分遼陽發

貴官病氣ナラバ此地へ來ルニ及バズ。左ノ事ヲ至急電報アレ○新タニ發布セラレタル遼河水路輸送要領書ニ對スル貴官ノ意見。

同十五日 鐵道提理部武内副提理へ電報

下官ハ各支庫巡視ノ爲メ今遼陽ニ來レリ。豫テ御依頼セシ左ノ件至急御着手ヲ乞フ。又何時頃著手セラル、ヤ御豫定聞キタシ(一)馬蜂溝ト鐵嶺間ノ支線(鐵嶺支庫長ヨリ申出ノ分)(二)營口大倉庫内へ引込線。

右ニ對シ、午後四時五十分遼陽ニ於テ左ノ返電ニ接ス。

鐵嶺馬蜂溝線新設ニ付テハ御依頼ヲ受ケタルコトナシ。該線御希望ナラバ總兵站監部ヲ經テ照會セラレタシ○營口倉庫線ハ二十日頃竣工ノ見込

同十五日 大連本倉庫へ電報

撫順ニハ各品種九十日分溜マレバヨキ計畫ナリ。鹽干魚ト罐詰ハ同日數ニ數フルコト故昨夜ノ現在表ニ依レバ既ニ滿數トナレリ。尙米ハ三十六日麥ハ二十二日送レバヨキ筈ナリ。其他トモ現在數ト比較シ送ルコトニセヨ。

八月十五日 安東縣岡本支庫長ヨリ電報午後三時五分遼陽受

寬甸子ヨリ第二回逆送糧秣船七十艘着揚陸中個數約二萬。

同十五日 第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後二時五分遼陽受

四日電ニテ照會セシ通リ十二日ヨリ三面船へ船輸送再興セラルベキ筈ノ糧秣ハ未ダ發送セラレズ。至急發送セラレタシ。何日頃ヨリ始メラル、カ。

返○村岡へハ請求濟ミ。陸揚ノ日量ニ付テハ九日三軍經理部長ヨリ遼東兵站へ交渉シ日量二日分宛トナリ居レリ。

右ノ件ニ付、村岡主計ヨリ左ノ電報アリ。

大江ヨリ高力屯三面船ニ糧秣輸送方請求シ來レリ。差支ナシト思フ故明日ヨリ輸送ス○右報告ス。

同十五日 在營口支庫佐野主計ヨリ電報午後三時五分遼陽受

一昨日ヨリ昨日ニ亘リ倉庫白米再調及營口市ノ主ナル白米商五箇所ニテ小賣狀況取調べタリ○市中ノ主ナル上海白(支那石ニテ)一石拾八圓乃至貳

拾五圓、チンコウ「白拾四圓乃至拾六圓、遼陽白拾四圓乃至貳拾參圓、「ウーフ」白拾壹圓乃至拾參圓ナリ○「ウーフ」米需用多ク上海米ハ極少量ナリ。値段高キ故ナラン○倉庫品ハ外見上「チンコウ」米位ノ品ニ相當スル如ク思ハル、モ實際賣ルトスレバ拾壹圓乃至拾參圓位ナラネバ買ハズ。且ツ當商人ハ臺灣米ヲ扱ヒタルコトナキ故確ナル値ヲ付ケルモノナシ○以上ノ狀況ナル故市中小賣値ニテハ十分ノ標準ヲ立ツル能ハズ○支那一石ハ三百七十五斤半、一斤ハ約百四十匁ナリ。

臺灣現地ノ相場ヲ知ルノ必要ヲ認メタルニ付、昨日同民政廳へ相場問合セタリ。

同十五日 大連本倉庫磐井藥劑正へ郵書ノ大要。

- 一 新政府ニ兵站司令部ヲ開設ノ件(新政府兵站司令部ト名ツケラル)
- 綏陽門邊ニアリシ兵站司令部撤去ノ件
- 鴨綠江運搬材木ニ關スル警戒ノ件

二 講和談判ニ關スル外電一束

八月十五日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後九時十分 遼陽受

牛皮ノ糝シハ當地ニ於テ種々故障アリ。奉天ニ於テスルヲ得策ト思考ス。

松野主計ヲ今夜同地ニ出張セシメ、調査ノ上貴地ニ至リ報告セシム。

同十五日 鐵嶺前田支庫長へ電報午後九時三十分 遼陽發

鐵嶺馬蜂溝間ノ本鐵道支線ノコトヲ決定スルニハ多分ノ時日ヲ要スルニ付右兩所間ニ輕鐵ノ復線ヲ架ケルコトニ決定セリ。何レカラ何レヘ架ケテヨキカ。詳細大至急返電アレ。又長サハ片路幾何アルカモ知ラセ。

此件ハ早速實施ニ掛ル筈。主任トシテ工兵大尉ニ若干ノ人員ヲ附シ派遣セラルベシ。倉庫ヨリ輸卒隊ト器具等一切ヲ出シ且ツ貴官之ヲ監督スルコト勿論ナリ。

同十五日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後九時三十分 遼陽受

三面船以北ノ揚陸點ニ兵站部ヲ新設スルノ不必要ナルコトハ既ニ上申セシ

如シ併シ開設ノ今日又言フモ詮ナシ但遼東兵站ト倉庫トノ關係ハ運搬具ノ供給ヲ程度トシ即チ舟ノ供給ヲナスニ止メ兵站部ノ輸卒隊ヲ倉庫ニ轉屬セシムルコト。其理由ハ遼東兵站ガ荷揚グシ其品ヲ倉庫ガ受入レ其レヲ又遼東兵站ニ渡シ同兵站ヨリ各軍ノ兵站ヘ交付スルコトハ徒勞ナリ。然シテ其實際ハ荷揚グハ船頭ノ負擔ナレバ之レガ爲メ兵站ノ手ヲ要セズ手ノ掛ラヌ兵站ニ輸卒隊ヲ置キ手ノ入ル倉庫ニ輸卒隊ナキハ不經濟ナリ。故ニ左ノ通り改正ヲ望ム。

A 兵站ハ船ノ出入其他警戒監視ニ任シ

B 倉庫ハ受入レ其他物品ノ取扱ヲナシ

C 倉庫ハ直接各軍ヘ交付ス

輸送ヲ營口ヨリスルモノハ船脚深キモノヲ成ルベク後方(三面船、三屯子、通江口)ニ陸揚グシ高力屯ヨリスルモノヲ前方(小塔子、通江口)ニ送ルコトニシタシ。但大豆ノ輸出ヲ顧慮セズ。

八月十五日 倉庫長ハ遼東兵站監部ニ出頭シ、同兵站參謀長及ビ經理部長ニ會見シテ遼河水路輸送ニ關シ左ノ商議ヲ爲セリ。

水路輸送要領書第六條ニ關ハラズ船ノ積込ハ兵站司令官ト支庫長又ハ出張所長ト協議ノ上從前通り倉庫ニテ是レヲ爲スコト。又倉庫品ハ甲倉庫ヨリ乙倉庫ヘ送狀ヲ附シテ送付シ最終ノ倉庫ニテ之レヲ各軍ヘ交付スベキモノナリ。兵站司令部ハ唯之レヲ輸送スルニ止マルノミ。故ニ其内容物品ハ依然倉庫ノ管理ニ在リ。

右ニ付同十五日營口鐵嶺高力屯ノ各支庫出張所長ヘ左ノ如ク電報セリ午後三時
陽發五分 遼

水路要領書第六條ニ係ラズ支庫長又ハ出張所長ハ兵站司令官ト協議ノ上是迄ノ通りニテ積ミ込ムコトニナル様參謀長ヨリ通知セラル、コトニナル筈故是迄通り實施セラレ然ルベシ。

倉庫品ハ到着地點ノ倉庫出張所ニ送り保管ノ關係ハ他ニ移轉セズ兵站部ハ

單ニ輸送スルニ止マル。軍ヘノ交付ハ無論倉庫ノ手ヨリスルコトナリ
以上ハ參謀長及ビ經理部長ト協議濟ミ。

右ニ對シ鐵嶺前田支庫長ヨリ左ノ電報アリ午後十一時
陽發五分 遼

電見タ。積込ニ止マラズ陸揚ダモ倉庫ニテスル様通達方取計ヒアリタシ。

尙兵站部ヘ配屬ノ輸卒隊ヲ全部或ハ半分以上使用スルコトニ取計ハレタシ

同十五日 第四軍兵站經理部長ヨリ八月十二日付ヲ以テ左ノ依頼アリ。

今般當兵站ニ於テ支那車輛千輛購買候處其馬匹ニ要スル蹄鐵及ビ釘ハ現地調辨スベキ旨相達セラレ候ヘ共當地附近ニ於テハ價格非常ニ貴キノミナラズ全ク其需用ヲ充スヲ得ザル次第ニ候然ルニ新民府ニ於テハ其價廉ニシテ又供給力モ充分ナリトノ事ヲ傳承致候就テハ右蹄鐵一萬二千頭分(大五千中五千小二千個釘共購買ヲ依託致度此段御依頼候也

追テ新民府ニ於テ蹄鐵ノ價ハ大小取合セ釘共金參拾錢ノ趣ニ候御參考迄申添候也

右ニ對シ左ノ如ク回答ス。

八月十五日付滿倉庶第七九二號
 八月十二日附貴軍兵經第一四六六號ヲ以テ御照會ノ件了承右ハ無論支那製
 蹄鐵御需要ノ事ト被存候得共果シテ大中小取混ゼ一萬二千頭分新民府等ニ
 於テ調辨シ得ル哉否ヤ一應實地調査ノ必要モ有之從テ至急ノ事ニハ運ビ兼
 ネ候ヤモ難計候尙又御所要ノ蹄鐵ハ支那製ニ限り候哉日本製ノモノニ候ハ
 バ一號乃至二號ハ丁度支那產馬匹ニ適當ノモノ我在庫品ニ有之候故夫ニテ
 御差支ナクバ一般蹄鐵ノ受授法ニ依リ御請求次第當庫ヨリ御渡可申候間一
 應御詮議ノ上更ニ御回答相成度右及復牒候也

八月十五日 新民屯藤田主計ヨリ八月十三日付ヲ以テ同月第一旬間ノ業務ニ
 關スル報告アリ其主要ナル件々左ノ如シ。

自八月一日 至八月十日 關外鐵道輸送糧秣噸數表

精米(斗)	大麥		割麥		燕麥(斗)	酒(斗)	甘味品(斗)	煙草(斗)	噸數
	(二斗入)	(三斗入)	(二斗入)	(三斗入)					

計	一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日
九九七噸	二、七三八	四、七五三	六、九二三	三、二四六	六、七四四	八、二六四	一、七五〇	九、二三七	一〇、八三一	五五、四八四
三、七六四噸	一、七四一	二、一九〇	四、九九六	六、二八〇	六、七三六	五、〇三四	七、五二二	一、五〇〇	一、五〇二	四一、二六五
〇噸	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二、六八六
〇噸	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一、二四六
五九九噸	八八四	二、一九七	五、三二〇	五九九	五九九	九三六	一、五三一	三〇〇	〇	一、二二六六
一、三三六噸	一、九八八	二、四九三	〇	五二六	〇	一三	四九六	〇	〇	五、七四二
一〇二噸	〇	二〇〇	六〇〇	二九九	一、〇四二	四〇〇	一、二一七	一、五九九	一、五三五	六、八九四
一〇〇噸	〇	〇	四五〇	三九五	一九九	〇	〇	〇	三五二	一、四九五
一〇〇噸	〇	〇	六〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	五四九	一、五四九
二八〇	二九〇	四八〇	八〇〇	四七〇	六八〇	五八八	六〇二	六二〇	七八四	五、五九四

備考

5594 = 5594
 10 一日ノ平均噸數

125,627 = 5 一日ノ平均師團數

自八月一日 至八月十日 關外鐵道ニ依ル地方物資輸入噸數表

日	生牛	雞	支那車臺	干草	蓆子	騾	豚	薪	紅糧	雜貨	噸數
一日	二八〇	一〇	四〇	二〇	二〇	〇	〇	〇	〇	一〇〇	四四〇
二日	二〇〇	〇	一〇	二〇	二〇	〇	〇	〇	〇	一七〇	四二〇
三日	二〇〇	〇	〇	〇	〇	二〇	〇	〇	〇	二〇〇	四四〇
四日	三〇〇	三〇	一〇	四〇	〇	〇	〇	〇	〇	八〇	四六〇
五日	二二〇	三〇	二〇	〇	〇	〇	一〇	〇	〇	一一〇	四〇〇
六日	二八〇	一〇	〇	〇	〇	〇	二〇	〇	二〇	一一〇	四〇〇
七日	二六〇	二〇	〇	〇	〇	〇	一〇	二〇	〇	一一〇	四四〇
八日	二六〇	一〇	一〇	〇	〇	二〇	〇	〇	〇	一〇〇	四一〇
九日	一八〇	一〇	三〇	〇	〇	八〇	〇	〇	二〇	一五〇	四七〇
十日	二〇〇	二〇	〇	二〇	〇	二〇	〇	〇	〇	一七〇	四三〇

計	二三八〇	一六〇	一三〇	九〇	二〇	一六〇	四〇	三〇	四〇	一三二〇	四三五〇
---	------	-----	-----	----	----	-----	----	----	----	------	------

備考 十噸積貨車ノ積載量左ノ如シ

- 生牛 大ナルモノハ七頭乃至八頭、普通ノモノハ八、九頭
- 雞 一籠五十羽入十二籠
- 支那車臺 四十臺乃至四十一臺
- 干草 一萬三千斤(支那斤)
- 蓆子 一千二百五十枚
- 騾 二十四頭乃至二十五頭
- 豚 四十五頭乃至四十六頭
- 薪 一萬八千斤(支那斤)
- 紅糧 五十三石乃至六十石(支那石)
- 雜貨 一樣ナラズ

自八月一日起至八月十日 新民高力屯間輕便鐵道ノ輸送力			
大	酒	煙	甘
麥		草	味
計	品	品	品
三〇	〇	八二	〇
四六〇	七二	二七八	五〇四
半	〇	五日半	三日半
數	數	數	數
師團日數	師團日數	師團日數	師團日數
一三二四	一三二四	一三二四	一三二四
臺	車	數	相

備考

本旬ハ一日ヨリ五日ニ至ル當地附近ノ大雨ト遼河上流ノ降雨ニヨリ輕便鐵道線路浸水シ交通杜絶セル爲メ前旬ニ比シ輸送力非常ニ減少セリ。
新民高力屯間出水ノ狀況

當地雨季以來時々降雨アリタルモ激烈ナリシハ七月三十一日ヨリ三日ニ亘レル降雨ニシテ新民高力屯間ノ輕便鐵道ハ全ク輸送ヲ杜絶セリ加之五

日ニ至リ天空ニ一點ノ雲ナキニ拘ラズ遼水上流ノ氾濫ハ延テ此地ニ及ビ一層水量ヲ増加シ最モ深キハ五尺ニ及ベリ
是レガ爲メ此ノ間輸卒一隊第九師團第十八隊ト苦力六百ヲ以テ修理ニ從事セルモ浸水ノ深キ處ハ修繕意ノ如クナラズ積土及橋梁架設ノ實距離三千米突ニ及ベリ幸ニシテ九日ヨリ減水ノ兆ヲ呈シ工事モ大ニ進捗シ十三日午前一時漸ク開通ノ運ニ至レリ。

水路輸送ノ狀況

一 各地輸送力左表ノ如シ

高力屯ヨリ下流	總	船	平均一隻搭載量	一日平均輸送力	備考
小塔子	相	數			
一七八九〇〇	數	六四九	二七七	七師團分	$\frac{178,900}{2,500 \times 10} = 7.1$
八、五三九	數	二八二	二八七	三師團分	$\frac{81,539}{2,500 \times 10} = 3.1$
三屯子	數	二〇七	二八四	二師團分	$\frac{58,861}{2,500 \times 10} = 2.1$

流上リヨ	
通江口	三、三三七
三面船	五八、〇四三
	一七〇
	三四一
一師團分	31,337
	2,500 × 10
二師團分	58,043
	2,500 × 10 = 2,1D

二 上流ニ停滯船アルコトハ前旬ニ異ナラズ最近歸來ノ宰領者ノ言ニ據レバ小塔子ニ四百艘通江口ニ三百艘三屯子ニ五百艘アリ而カモ降雨氾濫ノ爲メ揚陸ヲナシ得ザルモノ、如シ。

三 水深ト輸送力ノ關係 本旬間ノ平均ニ因ルトキハ高力屯上流ハ却テ其下流ニ優ル之レ一時出水ノ結果ナリ。

又雨季後ニ於ケル水深ハ河ノ諸部ニ於テ著シク變ズルハ船夫ノ「遼水ハ毎年出水ノ後航路一變シ殆ンド航行ニ支障ヲ來スコトアリ」ト言フニ徴シテモ明カナリ之レガ爲メ平水ニ復舊スル後ニ於テ或ハ航路變更ノ爲メ水路輸送上大頓挫ナキヲ保セズ。

將來ニ於ケル川ノ狀況ニ就テハ更ニ偵察報告セントス。

生牛ノ調辨

一 購買ノ狀況 生牛ハ成ルベク直購ヲナシ無益ニ仲買者ニ利益ヲ貪ボラル、ヲ避クルノ方針ヲ採リタルニ清人ノ習慣トシテ購買ニハ仲買者ヲ介スルヲ以テ常則トシ仲買者ニ與フル口錢ノ如キハ毫モ吝ナラザルガ如シ然レドモ購買ノ當初ニ於テハ牛ノ輸入ヲ減少スルヲ願慮シ徐々土地ノ習慣ヲ打破セントシ直接間接ニ賣主ノ客棧ニ就テ説キ或ハ現場ニ於テ説カシメタルニ漸ク其理ヲ解セルモノ、如ク又一方ニ於テ仲買者(宰取人)ヲ見附ケ次第ニ現場ヨリ退去セシメ若クハ仲買者ヲ介スルモノヲ拒絕スル等ノ方法ヲ取リタルニ其効驗少シク現ハレタルモノ、如ク一時一ポンド拾參錢迄騰貴シ引續キ一ポンド拾貳錢五厘ノ高價ヲ現ハセルモノ拾貳錢貳厘トナリ十一日遂ニ拾壹錢五厘トナレリ尙拾壹錢以内ニ低下セシムル考ヲ以テ購買ヲ續行セントス。

然ルニ聽ク所ニ因レバ開原其他ノ地方ニ於テ生牛ノ調辨ヲナスニ窃カニ清人ヲ使用シテ新民附近ノ牛ヲ内地ニ招誘シ比較的高價ニ購買スルモノ

アルガ如シ以上述べタル方法ヲ以テ價格ヲ低廉ナラシムルコトニ努ムト雖モ前方ニ於テ此ノ如キ購買法ヲナストキハ遂ニ我ガ計畫ヲ畫餅ニ歸セシムルノ恐レアリ況ンヤ又次ノ理由ニ依リ生牛ノ輸入ヲ減ズルノ傾向アルベキニ於テヲヤ。

A 新民府ニ於テ牛ヲ賣買シ得ルトキハ短少時日ニ數回原產地ヨリ曳キ來リ得ルヲ以テ從テ利益多キコト

B 陸路長途ノ損害ヲ牛ノ持主ガ負擔スルヲ以テ價格ヲ騰貴セシメザレバ割ニ合ハヌコト

C 内地ニ入込ム牛ハ我ガ検査不合格ノモノカ又ハ代價ノ協定纏マラザルモノニシテ進退谷マリタルモノ多カラシ

要スルニ内地ニ入込ムハ彼等ノ止ムヲ得ザル窮策ナリ此等ハ所謂賣リ腰強キ商人ナルヲ以テ此ノ輩ヲシテ慾望ヲ達セシムルハ我ガ經濟ノ全般上不利ナラン。

其他斯ノ如キ營業者ヲ直接遠ク我ガ軍ノ行動地區内ニ入ラシメサルヲ要スルナラン當地ニ間諜ノ多キハ當局官ノ語ラル、所ナリ

清人中ニハ前方ノ軍附近ヲ往復スルモノニシテ我ガ高等司令部及ビ團隊ノ位置等ヲ實ニ驚クベキ程知得セルモノアリト云フ此等ノ清人果シテ他言ヲナササルヤ否ヤ。

二 輸送ノ狀況 當地ヨリ奉天ニ至ルノ間ニ於テハ斃死數多カラザルガ如キモ前送ノ路程遠ク且ツ時日ヲ増加スルニ從ヒ斃死數ヲ増加スルハ氣候炎熱道路不良ノ害ヲ受クルニ依ルナランモ尙ホ一層飼養ト保護ニ注意ヲ拂ハントス。當地ヨリ發送スル牛ハ必ズ二日間ヅ、飼養スルコト、ナセリ。

八月上旬生牛受拂左ノ如シ

本旬間買入レ生牛總數二千九十三頭總磅數百八十二萬八千百六十磅代價

總計貳拾貳萬參千五百五拾圓五拾錢

平均一頭八百七十四磅弱一磅ノ代價拾貳錢貳厘一頭平均百六圓八拾錢八

厘強ナリ

其受拂表左ノ如シ

名	稱	越高	受高	計	拂				殘高
					奉天送り	遼瀋塔	送高力屯	支給	
生	牛	二、三九二、〇九三	二、三三二	一、五三八	三〇七	三〇	二七一、九〇二	四三〇	

備考

- 一 支給二十七頭ハ附近駐屯部隊へ給養セシモノナリ
- 二 本句中前送途中斃死四頭逃走一頭預託二頭アリ但シ七日以後ノ分ハ次旬ニ掲グ

八月十六日 鐵嶺前田支庫長へ電報午前零時五分遼陽發

鐵嶺馬蜂溝間輕便鐵道敷設地ノ意見今晚中ニ返電アリタシ。十六日朝七時ヨリ此事ニ就テ會議アル筈故○其地大倉庫出來上リ景況返。

右ニ對シ、左ノ返電アリ午前三時遼陽受

答、當地馬蜂溝間ノ輕鐵ハ東清鐵道ヲ横ギラザル可ラズ。之ガ爲メ本鐵道線下ニ通路ヲ開穿スルヲ要ス。是レ一ノ難工事ナリ。線ノ延長ハ往復四哩臺車約四百ノ見込。約四個師團分ノ輸送力ト概定ス。

倉庫ハ三棟略ボ亞鉛板葺終ル。一棟小屋組六分通り上リタリ。建築班ノ倉庫ハ二棟亞鉛葺終リ、一棟小屋組略ボ成ル。二棟地割着手中「ブラットホーム」西側丈土盛リトモ略ボ完成ス。

同十六日午前八時三十分倉庫長ハ前項鐵嶺馬蜂溝間輕便鐵道敷設ノ件ニ付協議ノ爲メ遼東兵站監部へ出頭セリ。

同十六日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前一時遼陽受

今後内地ヨリ追送セララル、雨覆及天幕ハ「カーキ」色ニ改正セラレタキ意見ナリ。

右ニ付營口金子支庫長へ電報午前六時十分遼陽發

此地ニアル雨覆又ハ天幕ヲ「カーキ」色ニ染ムルコトヲ谷口ニ研究セシメラ

レタシ。

右ニ對シ左ノ返電アリ午前九時五分遼陽受十

答、雨覆ノ「カーキ」染ニ付テハ過日來山下藥劑官ト谷口ヲシテ研究セシメアリ。矢張、單寧酸ト重格魯譚酸加里ヲ用キルカ。又ハ番茶ヲ用ユル外簡易法ナシ。

八月十六日 鐵嶺前田支庫長へ電報午前九時十分遼陽發

本日ヨリ遼陽支庫酒保ノ酒煙草ノ賣價ヲ下ゲ左ノ如クシタリ○ビール貳拾錢、澤龜四錢、ソリー參錢、スター四錢、チエリー參錢五厘、大和五錢、朝日四錢五厘、貴地ニテモ勉メテ安價ニシ、兵卒ニ便利ヲ與ヘラレタシ。

同十六日 在營口支庫佐野主計ヨリ電報午後一時五分遼陽受

臺灣民政長官ヨリ問合セニ對シ左ノ返電アリ。
北部ト中部産ノ玄米臺北渡ニテ百斤ニ付一等四圓貳拾錢、二等四圓五錢、三等參圓九拾五錢ナリ。白米ハ之ニ約一割増トス○日本榭一石ハ二百二十八斤

ナリ。

右ニ比シ上海相場ノ安キハ同地ニハ他ノ外國米多キ故ナラン。

同十六日 是ヨリ先キ陸軍省軍務局長ヨリ倉庫ニテ購買セル生牛中ノ病牛ノ件ニ關シ問合セアリテ回答シ置キタルニ今又左ノ電報アリ午前二時遼陽受

生牛購買ニ關スル萩原獸醫正ノ報告ハ既ニ承知シアリ。然ルニ買牛ノ内ニ鷺口瘡ニ罹リ斃死スルモノ多キ由ナレバ其原因及ビ實況取調べ更ニ返電アレ。

右ニ對シ、左ノ如ク返電セリ十九日午前一時四十分遼陽發

答、萩原獸醫正今鷺口瘡ノ調査中結了次第報告ス。

同十六日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後七時二十分遼陽受

馬蜂溝鐵嶺間輕鐵ハ本鐵道トノ關係上迂回ヲ要スル故八哩ヲ要スル見込ナリ○昨電ノ四哩ヲ八哩ト更正アリタシ。又右ノ外倉庫線ト各軍トノ前送線ノ間ヲ輸送スル爲メ輕鐵二哩ト臺車六十臺ヲ更ニ追加請求ス。

八月十六日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後十一時五分遼陽受

西川參謀長ヨリ星田司令官ヘノ命令ニハ左ノ通り○荷物ノ積込輸送並ニ賃金支拂ハ輸送要領書第六條及ビ第十三條ノ規定ニ依ル可キモ荷物ノ受授ハ勿論從來ノ通り倉庫ヘ轉送シ又ハ倉庫ヨリ各軍ヘ受授スルモノト承知アレ以上ニ依ルト昨夜ノ命令中第六條ノ取消ニ於テ反對ナリ。目下兵站部ト協議纏ラズ。御指揮ヲ仰グ。本件ノ纏マル迄ハ從來ノ通り實施ス。

右返電十七日午前零時十分遼陽發

答第六條ニ拘ラズ積込ミハ倉庫ニ於テ是迄ノ通り行フテヨシ。此事ニ就テ別ニ參謀長ヨリ兵站司令官ヘ通牒アル筈。

翌十七日ニ至リ遼兵監參第三五五號ハ都合ニ依リ取消シ別紙ト引換ヘラレタキ旨照會アリ。

(別紙)

遼兵監參第三五九號

三十八年八月十六日 遼東兵站參謀長 西川虎次郎

滿洲軍倉庫長 日 匹 信 亮 殿

今回發布ノ水路輸送要領書第六條ニヨレバ貨物ノ積込ハ凡テ兵站司令部ニ於テ擔任ノ事ニ規定相成居候得共滿洲軍倉庫保管ノ物品ニ限リ滿洲軍支庫長若クハ同派出員ト協議ノ上滿洲軍倉庫ニ於テ其積込ヲ實施スルモ差支ナシ尙又右輸送貨物ハ倉庫ヨリ倉庫ニ轉送シ若クハ倉庫ヨリ各軍ニ交付スルモノニシテ輸送擔任ノ兵站司令官ヘ其保管ヲ轉ズル儀ニハ無之隨テ要領書第八條末項宰領ノ職務ニ就テハ滿洲軍倉庫品ニ限リ滿洲軍倉庫支庫長又ハ同出張所長ノ指示ヲ受ケシムル儀ト承知有之度

同十六日遼東兵站監部會報要領

- 一 馬車徵發ノ爲メ娘同溝ヘ出張セシ三名ノ消息不明故搜索依頼ノ事兵站司令部提出
- 一 滿倉附補助輸卒隊三隊(十二師團)ノ配分

二十一撫順 二十二鐵嶺 二十三柳樹屯

一 八月二十七日ヨリ列車回數改正大連ヨリ日々十六列車(一列車三十貨車) 營口ヨリ四列車(一列車二十貨車)

右ノ内二列車ハ撫順行其他ハ鐵嶺行

一 九月一日ヨリ旅順大連遼陽牛莊野戰郵便局ニ於テ普通郵便事務取扱ヒノ豫定

一 外電一束(構和談判)

第一ノ談判トシテ朝鮮問題

八月十七日 遼陽支庫ニアル支那米鑑定ノ爲メ在營口支庫ノ上田主計ヲ遼陽ニ招致シ同主計ニ左ノ事ヲ命ズ。

一 九月四日招魂祭ノ節管内へ施與セラル可キ救助米ノ件

二 右招魂祭用二千石ヲ遼東兵站經理部へ賣却スル件

三 遼陽ニアル支那米又ハ臺灣米ノ鑑定

四 將來ヲ顧慮シ何レノ品ヲ賣却スルヲ利益トスルカ

右二千石ノ分ハ營口遼陽海城蓋平(金州大連並ニ安東縣へ分配ヲ要ス。

五 別ニ四、五萬石ヲ奉天將軍ニ賣却ノ相談ニ掛ル件

同十七日 營口金子支庫長ヨリ電報午後零時十分遼陽受

貧民救助用トシテ臺灣白米千八百五十石遼東兵站經理部長及當地兵站司令

官ヨリ請求アリ、交付スルコトニセリ。

右ニ付左ノ如ク返電ス午後一時二十分遼陽發

營口ハ交付スベキ四百石丈ヲ渡シ後ハ命アル迄待テ○既ニ交付ノ百五十

石ハ差引クベシ。

次デ又左ノ如ク電報ス午後七時十分遼陽發

臺灣白米ヲ營口兵站へ渡スベキ總高ハ三百石ニ極マレリ内百五十石ハ先ニ

渡セル故残り百五十石丈ケ交付アレ○後ノ臺灣白米ハ遼陽在庫品ヲ交付ス

ルコトニ約定濟

八月十七日 安東縣岡本支庫長ヨリ電報午後七時五分遼陽受

二三回此地ノ狀報呈シタルモ、貴地ニ行カレ、マダ御覽ナシト存ズ。貯藏ノ清酒四千八百石アルモ不完全ノ亞鉛葺倉庫ニ長ク格納シアルヲ以テ損敗ノ懸念アリ。今ノ内他ニ使用ノ道ナキカ。既ニ給與ニ適セザルモノハ取調中ナリ。今良キ品モ今後數月持ち耐ユルヤ懸念ナリ。○着以來毎日倉庫ノ現數根本的検査中、過不足アリ。確定ノ上更ニ報告ス。

同十七日午後九時奉天ニ歸任スベキ橋元支庫長ヲシテ總經理部長ニ左ノ報告ヲ爲サシム。

一 「ウーラー」靴ノ件

關外方面ニテ二十五萬奉天鐵嶺遼陽方面ニテ十五萬ノ見込ナルモ或ハ二十萬得ラル、ヤモ知レズ。

鐵嶺ハ既ニ製造ニ着手ヲ命ジ還送ス可キ牛皮ヲモ用ユルコトニセリ。大中
小ノ比例ハ二十五、六十五、十ノ割合一足ノ價ハ約貳圓。

草ハ價格ト暖氣トノ點ニ於テ「ウーラー」草ヲ用ヒズシテ藁ヲ用ユル見込。

右ハ本日辻村經理部長ト協議濟。

總テ居ナガラ商人ニ命ズル様ノ事ナク倉庫長主任者ト共ニ實地製造所ニ就テ調査シツ、進行スルヲ以テ多少時間ヲ要スルモ其結果ニ於テ良好ナルヲ信ズ。幸ニ安心セラレタシ。

毛皮ノ膝掛モ取調中ナリ「ウーラー」同様時機ヲ失セズ調達シ得ラル、見込。

同十七日 總經理部坂井主計ヨリ左ノ電話ニ接ス。

各軍ヨリ預リシ「ウーラー」靴ハ倉庫品同様手入ヲナシ置カレタシ。

右奉天支庫長及ビ遼陽支庫長へ命令セリ。

同十七日午後九時鐵嶺支庫へ歸任スベキ松野主計ヲシテ前田支庫長へ左ノ事ヲ傳ヘシム。

- 一 都合着キ次第遼陽大倉庫ノ修繕ニ着手スル様岡田技師ニ命ゼヨ。
- 二 其地ニ在ル酒ノ變敗ノ傾キアルモノハ適當ノ値段ニテ酒保等へ賣却ノ

方法ヲ講ゼヨ 其取締ト出納ハ十分嚴重ナルベシ。

八月十七日 大連本倉庫磐井藥劑正ヨリ電報午後九時四十分 遼陽受

本日提理部福井少佐來話ノ要領ニ

是迄大連鐵嶺間不定期運轉ノ三列、七列、十一列、十五列、十九列、二十三列、二十七列、三十一列ノ八回ト更ニ五列、九列、十七列ノ三回増加セラレ、内三列ト十一列ノ二回ハ撫順行トナル。故ニ大連ヨリハ毎日鐵嶺二十九回、撫順へ二回〇營口三百十九列、三百二十七列、三百三列、三百一十一列四回ノ内三百十九列撫順行ハ止メニナリ、三百三列ノ内糧秣以外ノ軍需品若干ヲ積ムコトアリ、又是迄一列三十車ヲ二十三車(營口ノミ)ニ減少セラレルトノコト。
右營口、鐵嶺、撫順へ夫々通知セリ。

同七十日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後十一時五分 遼陽受

三屯子へハ三個師團分水路前送方御取計ヒアリタシ。但シ同地ニハ麥ニ對シ米三十日不足ニ付送出ノ際斟酌ヲ乞フ。小塔子ニハ米ヨリ麥約百五十日

多シ。

同十七日 倉庫長ハ上田主計ヲ伴ヒ、遼東兵站經理部ニ出頭シ、上田主計ヲシテ麥ニ就テ詳細ナル説明ヲ爲サシメタリ。

同十七日 萩原獸醫正ハ鷺口瘡調査ノ爲メ營口へ向ヒ大連ヲ出發セリ。

同十七日 豫テ病氣入院中ノ水島主計退院セリ。

八月十八日 營口金子支庫長ヨリ左ノ報告アリ八月十七日付

豫テ御下問ニ對シ調辨困難ナル越報告セシ干草ガ此頃ニ至リ顔ヲ出シ掛ケ無責任ノ報告ヲナシタル段重々恐縮ニ奉存候左リトテ之ヲ黙々ニ附シ去リ責任ヲ逃ル、ハ又吾人ノ爲ス可キ處ニ無之候故茲ニ改テ報告シ且至急御詮議ノ上要否御通達アラシコトヲ希望致候

產地 シンテンチー 營口ヲ距ルコト東方二里半

同 馬家店 遼河ノ西岸ニシテ營口ヲ距ルコト十二里餘

同 金前所 大凌河ノ東岸ニシテ營口ヲ距ルコト水路約三十里

草ノ種類 禾本科

收穫期 必要ト定マレバ直ニ開始シ十月下旬ニ了ル

收穫量 百五十萬貫

價格 壓搾梱包費トモ百貫ノ付拾參圓五拾錢以內

梱包 六貫ノ一梱包トシテ之ヲ約二分ノ一ニ壓搾シ横四個所鐵線

ニテ結束ス

壓搾器

木製ニテ甚ダ簡易ナルモノ支那大工ニテ幾何ニテモ作り得ベ

シ

梱包ノ大サ 横二尺九寸縦一尺七寸高サ一尺一寸

右報告ハ其後遼東兵站經理部長ヲ經テ總經理部長ヘ提出セシニ同二十三日兵站經理部長ヨリ左ノ通牒アリ。

營口ニ於ケル干草調辨ノ件ニ付金子支庫長ヨリノ報告御提出相成候ニ就テハ買收シタキ旨總經理部ヘ申出候處今二十三日別紙ノ通リ返電有之候間右

様御了承相成度候也

別紙返電

辻村部長宛

片山總經理部長ヨリ

乾草購入ハ暫時見合ハサレタシ。

八月十八日 新民屯藤田主計ヘ電報午前七時五分遼陽發

水路ノ善後策ト牛ト「ウーラ」靴等ニ付キ面議ヲ要ス。至急此地ヘ來レ〇積込ハ倉庫ニテ爲スコト、護衛兵ノ中宰領ニナルモノニ倉庫員ヨリ指示スルコトヲ參謀長ヨリ兵站司令官ヘ通牒ニナル筈〇倉庫ヨリ到着點ノ倉庫ニ宛テタル送狀ヲ此宰領ニ持參セシムベシ。返。

右返電午後二時三十分遼陽受

今日汽車ナシ。明日關外ニテ急行ス。

同十八日 滿洲軍總經理部長ヨリ電報午後零時五分遼陽受

遼陽味噌製造所ヲ鐵嶺ニ移スコト。未着手ナラバ暫時見合ハサレタシ。

右ニ付、直ニ鐵嶺前田支庫長へ其地味噌製造所ハ追テ何分ノ命アル迄着手スル勿レト電命シ、且ツ總經理部長へ鐵嶺ニテ味噌製造所未着手ニ付見合セ方命ジ置ケリト返電セリ。

八月十八日 柳樹屯毎田支庫長ヨリ電報午後五時十分遼陽受

只今(午後三時)二十三輸卒隊へ總兵站監ヨリ左ノ電○其隊ハ本官ノ隸下ヨリ脱シ、第四軍兵站部ニ編入セシメラル○右報告ス。

同十八日 遼東兵站監ヨリ左ノ命令アリ。

監參第三六〇號

明治三十八年八月十八日 遼東兵站監 井口 省 吾

滿洲軍倉庫長 日 匹 信 亮 殿

一時當兵站ニ配屬セラレ貴官ノ指揮ニ屬シアリシ第十二師團第二十一補助輸卒隊ハ第二軍兵站部へ、同第二十二、第二十三隊ハ第四軍兵站部へ轉屬セシメラル成ルベク速カニ新所屬部へ至ラシム可シ。

右ニ付、大連本倉庫磐井藥劑正へ電報午後五時三十分遼陽發

一時配屬セラレアル第十二ノ第二十一ハ第二軍へ、同二十三ハ第四軍へ轉屬セシメラレタリ。速ニ出發セシメヨ○鐵嶺へハ傳達濟ミ、撫順ト柳樹屯へハ通達セヨ。輸卒隊ノ不足ノ善後策ハ今講究中。

是ヨリ先キ鐵嶺前田支庫長ヨリモ第十二ノ二十二隊ハ總兵站監部ヨリ第四軍へ轉屬セシメラレタル旨電報アリ。依テ前項ト同時ニ左ノ如ク返電セリ。

答、十二ノ二十二ハ總兵站監部ノ命アリタル以上ハ速ニ第四軍へ送ルベシ○

善後策ハ今講究中。

同十八日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後五時五十分遼陽受

出張所ヨリ兵站部ト倉庫トノ關係問合セアリ。松野へノ傳言ニ基キ船ノ取扱陸揚ハ兵站部ノ擔任トシ、其レカラ先キノ扱ヲ倉庫ノ擔任トスルコトニ各出張所へ示シ差支ナキヤ。然ルトキハ荷物ノ格納整頓交付ノ爲メ輸卒隊ヲ要ス。是ハ遼東兵站ノモノヲ使用スル様セラレタキ意見ナリ。返。

右ニ付、遼東兵站參謀長へ左ノ如ク照會ス。

別紙前項電報全文ノ通り鐵嶺前田主計正ヨリ申來リ候ニ就テハ三屯子通江口ノ兩所ニアリテハ糧秣格納整頓及ビ交付ノ爲メ輸卒隊ヲ滿倉出張員ノ使用ニ供セシメラル、様御示達相成度候也

追テ鐵嶺支庫長へ回電ノ都合有之候ニ付御諾否御示シ相成度候

右ニ對シ、翌十九日遼東兵站參謀長ヨリ左ノ通牒(要領)ニ接ス。

古城子及ビ通江口揚陸ノ糧秣ヲ整頓格納シ及ビ各軍へ交付ノ爲メ滿倉出張所ノ請求ニ應ジ補助輸卒隊ヲ供給ス。

八月十八日 撫順出張所長高橋主計ヨリ電報午後七時四分遼陽受

第十二師團二十一補助輸卒隊長へ總兵站監ヨリ左ノ電アリ○其隊ハ本官ノ隸下ヨリ脱シ、第二軍兵站部ニ編入セラル。

同十八日 遼陽支庫ニ於テ辻村遼東兵站經理部長(土屋)主計通話ヨリ左ノ電話ニ接ス。

一 滿倉現在ノ牛皮及ビ將來集ル處ノ牛皮ニテ「ウーラー」靴製造ニ著手セラレテヨシ。

二 各軍ヨリ依托ノ「ウーラー」靴ハ此際滿洲軍倉庫ニ保管轉換ス。依テ冬期ノ補給品ニ充ツルコト。

但シ之レガ爲メニ四十萬ノ調辨數ヲ減ズルコトナシ。

同十八日 營口金子支庫長ヨリ電報午後七時三分遼陽受

倉庫天窓ノ修繕ハ窓枠出來上リ五分、取付完成一分ナリ。之レハ職工ガ來ルトテ十數日間空シク待チタレドモ來ラズ。依テ當地ニテ日本人十人ヲ雇ヒ、支那人ヲ以テ補助トナシツ、アリ。

谷樋ハ六分通り完成、支那職工十二人ヲ使用シアリ。

雨漏ハ極メテ僅少ナリ○「ハンダ」職工日本人一、支那人四ニテ釘穴ヲ繕ヒツ、アリ。

坂東主計へ御傳命ニヨリ、明日ヨリ大ニ職工ヲ増加シテ至急竣工セシムル手

答ヲナシ居ル。

六九六

八月十八日、遼東兵站經理部長ヨリ左ノ通牒アリ八月十七日付

今十七日及御協議候臺灣米拂下高二千石ノ内三百石百五十石ハ既ニ交付濟
ニ付其殘高ハ營口支庫ヨリ營口兵站司令部ヘ千三百石ハ遼陽支庫ヨリ遼陽
兵站司令部ヘ交付方御取計相成度

逐テ本文數量ノ殘高四百石ハ安東縣ヘ送付ヲ要シ候間貴庫ヨリ同地兵站
司令部ヘ輸送方可然御配慮相煩ハシ度候

右ニ付、大連本倉庫盤井藥劑正ヘ電報午後四時二分發

十八日四列ニテ支那白米四百石遼陽ヨリ送ル着次第安東縣ヘ發送シ報告セ
ヨ。此件ハ豫メ碇泊場ト提理部ヘ打合セ貨車ノ儘波止場ヘ引込ム方法ヲ取
レ。

同時ニ安東縣岡本支庫長ヘ電報

大連ヨリ支那白米四百石送ル。着次第貴地兵站部ヘ渡セ。

同十八日 鐵嶺前田支庫長ヘ左ノ趣旨ノ書面ヲ送付ス。

- 一 吉井、白井(主計)ハ都合上永松ト交替ヲ望ム。
- 二 永松(主計)ノ下ニ下級主計一名附スルコト。
- 三 建築部ヘ依頼ノ八千坪ノ建築ハ貴官ノ隨意ニ任ス、成ル可ク早ク。
- 四 酒保ヲ出張所ヘ分ツコト差支ナシ。
- 五 第十二師團ノ輸卒三個隊取ラレ困ル。今後貴地ニ何隊ヲ要スルカ、返。
- 六 第六隊ノ幹部丈殘スコト遼陽支庫長ヘ命令ス。
- 七 松野(主計)能クヤル、教育シ置ケ。
- 八 小塔子ハ三個隊ニテ可ナラン。
- 九 滿倉式倉庫ハ早クヤレ、且軍務局長ヘ出ス爲メ寫真ヲ撮レ。

同十八日 鐵嶺支庫長ヨリ電報午後十一時三十分遼陽受

當地ニ到着スル生牛ハ鷺口瘡ニ罹ルモノ多ク又一般ニ疲勞セリ。途中給養
所ノ情況實視ノ上意見申出タキモ遊佐獸醫ハ少シ病氣ノ爲メ出張シ難シ○

六九七

飼料トシテ豆粕二貨車奉天ヨリ送付セシメラレタシ。

右ニ付奉天支庫長へ電報二十九日午前零時

牛ノ飼料トシテ豆粕二貨車鐵嶺へ送レ。

八月十八日 倉庫長ハ左ノ専門技術員ヲ隨へ遼東兵站經理部へ出頭シ酒、罐詰
麥ニ關シ各其説明ヲ爲サシメタリ。

一 清酒ニ就テ

雇員 木 寺 三 平

二 罐詰類ニ就テ

雇員 中 島 昌 二

三 麥類ニ就テ

雇員 卿 右 近 良 助

同十八日 遼陽支庫貯藏ノ糧秣新陳交換ノ方法ニ付同支庫長へ左ノ如ク訓示
セリ。

一 遼陽支庫ニ現在セル糧秣中新陳交換ヲ要スルモノハ米ノミトス。其數
左ノ如シ。

精米

四百八十六日分

此相數

二十九萬千六百捆

一貨車ニ付百八十捆トスレバ其貨車數

千六百二十車

一列ヲ三十車トスレバ

五十四列車

毎日三列車宛ノ交換トシテ

十八日間

二 大麥副食物ハ大連ノモノト大差ナシ。交換ノ必要ヲ認メズ。

三 交換品ハ主トシテ大連ヨリ取ルコト。

但鐵道ノ都合ニ依リ營口列車ヲ若干交ヘルコトモアラン。

四 交換ノ爲メニ要スル列車ノ配當ハ倉庫長ヨリ鐵道提理部へ請求ス。

局地ニ於ケル積込荷物ニ付テハ遼陽支庫長ヨリ直接其地停車場司令官ト

協議スルヲ要ス。

五 交換ノ爲メ積込荷卸ノ開始ト其後ノ列車番號及日割ハ倉庫長ヨリ遼陽

支庫長へ通達ス。

六 日々ノ交換量及ビ前送ト到着品ノ品質並ニ其他ノ情況ハ遼陽支庫長ヨ

リ倉庫長へ報告スルコト。

八月十九日 營口金子支庫長ヨリ電報午前一時遼陽受十

兵站部ニテ船ノ準備未ダ十分ナラズ。爲メニ日々豫定ノ貨車ヲ前送スル能ハズ。過渡ノ際止ムヲ得ザル事ト思ヘド前送氣遣ハシ。

同十九日 第三軍兵站經理部長へ電報午前八時大連發

貴軍用冬服及防寒服ヲ何處ニテ貴軍ニ交付セバ便利ナルヤ。品ハ續々大連へ着シツ、アリ。當倉庫ノ便利ヲモ願慮セラレ御意見聽キタシ。

右ニ對シ左ノ返電アリ。

答防寒被服及冬服受取場所希望ハ第一通江口第二鐵嶺ナリ。何時頃受取人出シテヨキカ返。

同十九日 遼陽兵站經理部長ヨリ左ノ照會アリ。

大麥三十石貴庫三屯子出張所ヨリ同地兵站司令部へ交付方電報ニテ御取計相成度。

右ニ付三屯子出張所長へ大麥三十石其地遼東兵站へ渡セ「ト電命セリ。

同十九日 第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後六時五分遼陽受十

將來ノ活動ニ當リ當軍ニテハ多數ノ車必要アリ。現ニ三面船以北ニテ使役シツ、アル車ヲ維持スルモ尙約千輛以上ヲ要スル見込ナリ。然ルニ現在使役ノ車ハ七月末以來三面船ニ停滯セシ糧秣輸送ノ爲メ遠方ヨリ集メタルモノ多ク、今ヤ此糧秣モ殆ンド輸送シ盡シタルノ有様ニ付、車引留策トシテ不經濟ヲモ願ミズ三面船へ五個師團分揚陸シ、法庫門方面ノ給養ニ宛テタル外ハ陸路小塔子へ送ルコトニ情ヲ盡シ辻村ニ協議シアルモ未ダ返事ナシ。就テハ差當リ約四百輛ノ車ニテ三面船ヨリ高力屯迄一回ノ糧秣受領ニ遣リタシ。狂ゲテ御承諾ヲ乞フ。至急返。

右電報ノ趣旨ニ就テハ是ヨリ先キ辻村部長ヨリモ既ニ協議アリ。依テ鐵嶺支庫長へ左ノ如ク電報セリ午後零時三十分遼陽發

大江ノ電ニハ三面船ニテハ毎日五日分ノ前送力アリ。此馬車ヲ逃ガス時ハ

今後前進ノ場合ニ困ル故ニ同地ニテ五日分宛ヲ毎日受取リタシト云フ。今調査中○此馬車ヲ小塔子ニ持行ケバヨカルベシトハ當兵站監ノ説ナリ。

冬服防寒服ハ既ニ到着ヲ始メタリ。寒氣ノ迫ラザル前ニ各軍ニ交付シタシ。就中面倒ナルハ第三軍ニ渡スコトナリ。如何ニセバヨキヤ。意見聞キタシ。

右ニ對シ、左ノ返電アリ午後六時三十分遼陽受

答、第三軍防寒服ハ豫メ大江部長ト協議シ、陸路馬蜂溝ヨリ双樹子ヲ經テ法庫門ニ前送スルヲ早道ト考フ。兵站ノ馬車ハ五十乃至百集ムルコトヲ得ルナリ。

八月十九日 營口金子支庫長ヨリ電報午後一時五十分遼陽受

當地兵站諸部隊用トシテ本日生牛八十頭購買セリ。一ポンド拾壹錢○獸醫ニハ支那人ヲ臨時雇ヒ入レタリ。

同十九日 大連本倉庫磐井藥劑正ヨリ電報午後二時四十分大連發

内地ヨリ補充トシテ一等計手森田新次、同中村平一郎、三等計手外山直太郎皆

豫備ノ三名只今到着セリ○大連ニハ波止場ト倉庫係宛トシテ出來得レバ二名貰ヒタシトノ事○野砲十二ノ補充隊ヨリ三等計手一名配屬ノ通知アリ。之レデ計手ノ缺員ハナシ。

右返電午後四時二十分遼陽發

答、森田計手ヲ鐵嶺へ、他二名ハ當分其地ニテ業務ヲ見習ハス可シ○森田ハ直グ立タセヨ。

同十九日 倉庫長ハ午後十一時二十分遼陽ヲ發シ、撫順出張所ヲ巡視シ、二十日午後十時撫順發汽車ニテ遼陽ニ歸着セリ。

同十九日 鐵道提理部武内副提理へ電報午後四時遼陽發

遼陽ノ糧秣(玄、白米)ヲ新陳交換ノ爲メ之ヲ鐵嶺ニ送り其跡へハ大連ヨリ補填シタシ之レガ爲メ貨車千六百二十即チ三十車ノ列車トシテ五十四回ヲ要ス、大連ヨリ毎日三列車以上ヲ豫テ配當セラレアル糧秣貨車ノ内ヨリ發送セラレ、之ヲ遼陽ニテ卸シ、更ニ同數ノ列車ニ遼陽ニテ積込ミ、鐵嶺ニ輸送セラレタ

夕御協議ニ及ブ。右御承諾ノ上ハ何日ヨリ始メラル、ヤ。返待ツ。

右ニ對シ、左ノ返電アリ二十日午前十一時遼陽受

遼陽ノ糧秣新陳交換ノ件承知。毎日主トシテ第二十三、第三十一ノ二列車ヲ用キ、二十五日ヨリ實施ス。

八月十九日 滿洲軍總經理部ヲ代表セル今井主計正ト左ノ事項ヲ電話ニテ約束セリ。

一 本年ノ冬服及防寒服ハ經理長官部ヨリ申來リシ區別ニ因リテ各軍ヘ渡スコト。

二 冬服ハ鴨軍ノ爲メニハ撫順ニテ交付シ第一、第二、第三、第四軍ノ爲メニハ鐵嶺ニテ交付スルコト。

三 概略ノ處總經理部ヨリ各軍經理部ヘ通知シ且ツ交付方法手段ニ付テハ滿倉ト各軍經理部トノ間ニ相談スルコト。

四 交付時期既ニ迫レル故更ニ何方ヨリノ指示ナクモ滿倉ハ目下ノ便ヲ計

リ成ル可ク早ク各軍ヘ交付ノ手段ヲ取ルコト。

右大連本倉庫及營口、撫順、鐵嶺ノ各支庫、出張所長ヘ通達セリ。

同十九日 鐵嶺前田支庫長ヘ電報午後十時發

防寒服モ冬服モ第一、二、三、四ノ各軍トモ皆貴地ニ送ル○大江ヨリ貴地ニテ第三軍ノ分ヲ受取ルトノコトナリ、念ノ爲メ○大連ニテ整理ツキ次第先ヅ冬衣袴ヨリ送ル。

八月二十日 鐵嶺支庫長ヨリ電報午前零時受

當地「ウーラー」靴製造力三萬トナレリ。本日約束セリ。此以上六ツカシ。

同二十日 宇品貨物廠長ヘ電報午前十一時發

既ニ送ラレシ分ト今後送ラルベキ分トヲ合シ冬衣袴、下着類及防寒服等總テノ梱包數幾何アルカ。大略折返シ返電待ツ。

右ニ對シ左ノ返電アリ午後十時遼陽受

答、追送スベキ總梱數約十四萬四千梱ナリ。

八月二十日 第三軍經理部長へ電報午後零時十分順發

冬衣袴及防寒服引渡ニ關シ左ノ件御承知アリタシ。

一 交付ノ場所ヲ鐵嶺トスルコト。

二 現品ハ明日大連ヨリ發送ヲ始ムル故遅クモ來ル二十三日ニハ鐵嶺ニ着シ始ムルナラン。何時全部鐵嶺ニ輸送シ終ルカハ未定ナレドモ凡ソ三週間位ニテ略ボ輸送ヲ終リタキ考ヘナリ。右御含ミノ上實際ノ受渡ニ就テハ鐵嶺支庫長ト打合サレタシ。

同二十日 大連磐井藥劑正營口金子支庫長へ電報午後一時順發

冬衣袴ト防寒服ノ前送ニ付テ間違ナカラシメントスルハ甚ダ困難ノコトナリ。故ニ其宰領ニハ責任アルモノ即チ士官輸卒隊長ト倉庫員トヲ合セ用ヒ特務曹長又ハ選抜セル下土ヲ用ヒ之ニ必要ナル助手ヲ加ヘ此人員ハ積込前ニ於テ十分ニ梱包ト員數ノ調査ヲナシ到着地ニ於テ送狀ト照シテ其品ヲ支庫長又ハ出張所長ニ引渡シ受領證ヲ持歸ラシム可シ。

同二十日 大連磐井藥劑正ヨリ電報午後二時十分大連發

第四軍兵站電信部ヨリ一等計手岡田祐二轉入ノ通知アリ○又内地ヨリ二等計手天堀忠治三等計手岩堀信志ノ二名今到着セリ。右ハ何レハ配屬ス可キヤ(以上三名共現在定員外トナル)

右ニ對シ左ノ如ク返電セリ二十一日午後三時遼陽發

新來ノ計手三ハ古參ノ順ニテ左ノ如ク配屬ス可シ。鐵嶺一、遼陽一、大連一。

同二十日 鐵嶺前田支庫長へ電報午後二時十分順發

馬蜂溝ニアル輸卒一隊ヲ我倉庫へ轉屬セラル、コトニ參謀長ト協議濟ミ。此隊ハ貴庫ニ屬スル筈○本鐵道ノ枝線ヲ鐵嶺ヨリ馬蜂溝ニ敷クコトハ未ダ何人ヨリモ照會ヲ受ケシコトナシト副提理ハ言ヘリ。故ニ此事ハ問題外トスベシ。

同二十日 後備第一師團經理部長ヨリ電報午後五時十分遼陽受

貴庫勤務ヲ命ゼラレタル花井麓三八何レニ赴任セシメテ可ナルヤ。

右ニ對シ、二十二日「花井計手」主計職務取扱ヲ鐵嶺支庫へ赴任セシメラレタシト返電セリ。

八月二十日 第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後五時五分撫順受

辻村ヨリ返アリ○結局日々三面船へ五個師團分、通江口へ一個師團ツ、揚陸シ、其代リ小塔子ヨリハ特ニ不足ヲ生ジタルモノ、外受ケヌコトニシタ。御承知アリタシ。又増加糧秣陸路小塔子へ届ク迄ハ小塔子ヨリ從來ノ通り補給ヲ受ケ又車ヲ遊バサヌ爲メ一、二回三面船ヨリ高力屯ニヤル○關係倉庫へ御達ヲ願フ。

右ニ對シ、左ノ如ク返電セリ。

答、三面船へ五個師團ヲ送ルコト、五個師團ヲ貴軍へ渡ス迄ハ元ノ通り小塔子ニテ交付スルコト、一、二回貴官ヨリ馬車ヲ以テ請求アラバ、高力屯ニテ適宜糧秣ヲ交付ス可キ旨高力屯藤田ト鐵嶺前田へ電報シ置ケリ。斯クテ同時ニ鐵嶺前田支庫長及ビ高力屯藤田主計へ其旨電報セリ。

同二十日 安東縣岡本支庫長ヨリ電報午後九時五分遼陽受

今冬期間此地部隊支給ノ防寒用及燃料薪約八十四萬貫、木炭九萬貫準備ヲ要ス。指名入札ニテ購買契約シ宜シキヤ。味噌製造ノ件同ジク指揮ヲ待ツ。

右ニ對シ、左ノ如ク返電セリ三十一日午前九時三十分遼陽發

答、木炭ハ大連ニアルモノヲ送ル積リナリ○薪炭共ニ契約スルコトヲ見合ス可シ。但値段ト品ノ有高又ハ出來ル見込量ヲ取調べ報告スベシ。

右ニ對シ、岡本支庫長ヨリ左ノ返電アリ二十二日午後五時二十二分遼陽受

薪炭ノ電報承知當地値段等左ニ

松薪 一貫匁 四錢參厘

堅木 同 六錢

木炭 同 拾五錢五厘

納期十月中 有高薪百萬貫炭十萬貫

同二十日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後十一時四分遼陽受

今旬牛買入總數千八百七十六頭、百五十萬千二百二十三磅、總代價拾七萬參千七百九拾圓六拾錢ナリ。

八月二十日 被服率領者心得ヲ定メ、大連本倉庫及各支庫出張所へ通達セリ。

被服率領者心得左ノ通相定ム。

第一 被服率領者ハ汽車積込前ニ於テ被服ヲ梱包ノ儘被服掛主任者ヨリ受領ス可シ受領ノ場合ニハ左ノ件々ヲ取調ブルコト。

梱包上ニ記サレアル名稱毎ニ其梱包數ノ調査、例セバ略衣袴何百何十梱包、冬襦袢袴下何百何十梱包ト云フガ如シ。

第二 積込ノ場合ニハ率領者殘ラズ立會ヒ、其受領セシ被服梱包ヲ間違ナク積込ムカ否カラ監視スベシ。

被服ヲ積込ムニハ成ルベク有蓋貨車ヲ選ムベシ。例セバ同列車有蓋十五無蓋十五アル場合ニハ無蓋貨車ニ他品ヲ積ミ有蓋車ニノミ被服ヲ積込ムベシ。止ムヲ得ズ被服ヲ無蓋貨車ニ積込ム場合ニハ「ロップ」ノ數ヲ増加シ

「アンペラ」及雨覆ヲ十分行キ渡ラシメ、以テ梱包ノ露出セザル様注意ス可シ。同一貨車ニハ同一種類ノ梱包ヲ積込ムコトニ注意ス可シ。○有蓋貨車ニハ必ズ錠ヲ下ス可シ。

第三 途中停車毎ニ時間ノ許ス限リ被服貨車ヲ見廻リ積載品ニ異狀ノ有無ヲ注意シ、萬一梱包ノ露出若クハ墜落ノ恐アルモノハ速ニ手當ヲナシ、率領者ノ力ニ及バザル場合ニハ途中停車場司令部若クハ車掌ニ協議シ、被服梱包ノ保護ニカム可シ。

第四 到着地ニ着セル時ハ其地倉庫專屬輸卒隊ニ依テ被服品ヲ貨車ヨリ卸下ス可シ。此場合ニ於テ率領者一同ハ眼ヲ被服梱包全體ニ注ギ、紛失等ナキ様注意スルヲ要ス。

到着倉庫ヘノ引渡シハ卸下セシ場所ニテ之ヲナスベシ。

第五 引渡終レバ支庫長又ハ出張所長ノ捺印セシ受領證ヲ受取り、之ヲ發送セシ倉庫へ持歸リ、報告書ト共ニ倉庫長又ハ支庫長ニ提出スベシ。

八月二十一日 新民屯出張所西田主計ヨリ電報午前十一時 遼陽受

(牛鷺口瘡ニ付萩原獸醫正ノ意見當地ニ病牛ナシ。病毒ハ多分奉天以北ニア
ルナラン。此地ニハ其徵候ヲ見ズ。是迄通り購入差支ナシト。

同二十一日 遼東兵站監ヨリ左ノ命令アリ午後三時 遼陽受

遼兵監參第三六六號

命令

第六師團第二十八補助輸卒隊ハ自今馬蜂溝兵站司令官ノ指揮ヲ脱シ貴官ノ
指揮ニ屬ス

明治三十八年八月二十一日 遼東兵站監 井口 省 吾

滿洲軍倉庫長 日 匹 信 亮 殿

右ニ付第六師團第二十八補助輸卒隊長へ電報午後三時五分 遼陽發

其隊ヲ鐵嶺支庫ニ配屬ス○速カニ同支庫ニ出頭シテ指示ヲ受ケヨ。

同時ニ鐵嶺前田支庫長へ電報。

馬蜂溝兵站司令官ノ指揮ヲ脱シ本職ノ指揮ニ屬セラレタル第六師團第二十
八補助輸卒隊ヲ其支庫ニ配屬ス。將來ノ業務ヲ顧慮セバ該隊ハ現在ノ宿營
地ヲ換ヘザルヲ便利トスルナラン。此等ハ馬蜂溝兵站ト協議アレ○安東縣
方面ヨリ新タニ來ルベキ輸卒一隊ヲ其支庫ニ配屬ノ豫定ナリ。該隊ノ貴地
ニ着スルハ早クモ十日ノ後ナラン。

同二十一日 鐵嶺前田支庫長へ電報午前八時 遼陽發

今後第三軍ノ爲メ小塔子ニテ渡ス可キ三個師團分ヲ三面船ノ交付高ニ合シ
テ五個師團分ヲ毎日高力屯ヨリ三面船ニ送レト藤田へ命令シ置ケリ○右三
面船ニテ五個師團分ヲ第三軍へ渡シ得ル迄ハ小塔子ニ於ケル交付高ハ是迄
ノ通りトス。

同二十一日 仁川碇泊場司令官ヨリ電報午後五時五分 大連受

十永田丸貴庫買上ダニ際シ、船主ト船價ヲ協定セラル、ニ當リ、買上價格ニ修
繕費ヲ含ミ居リシヤ。決定ノ模様及價格承知シタシ。返待ツ。

右返電 午後九時二分遼陽發

答、十永田ハ八千八百圓ニ修繕費千參百圓程加ヘ壹萬壹千圓許リ通價ヲ以テ
仕拂ヒタリト記憶セリ。詳細ハ實際取扱ヒタル營口支庫長金子主計正ヨリ
返電セシム。

同時營口金子支庫長ヘ電報。

仁川碇泊場司令官ヨリ左ノ電(司令官ヨリノ電報全文アリ。取調べ貴官ヨリ
直ニ返電アレ。

八月二十一日 大連本倉庫盤井藥劑正ヘ電報 午後九時二分遼陽發

左ノ通り第三師團第二十七輸卒隊長ニ傳達セヨ。

其隊ヲ遼陽支庫ニ配屬ス、出發ノ準備ヲナスベシ。

同隊ヲ遼陽ニ輸送ノコトハ大連提理部ヘ請求濟ミ。人馬材料ノ員數ヲ明細
提理部ヘ通報セヨ。

同時ニ大連鐵道提理部ヘ電報。

大連ニアル第三師團第二十七輸卒隊ヲ遼陽ヘ輸送セラレタク請求ス。人約
五百、馬四、車百六十、荷物百五十ノ積リ。詳細ハ大連滿倉ヨリ申出デシム。

右ニ對シ、左ノ返電アリ 時三十分遼陽發

第三師團第二十七輸卒隊ハ二十三日大連發第二十三列車ニテ輸送ス。之レガ
爲メ二十四日遼陽發同列車ニ二十七輛ノ空積アリ。貴地ヨリ糧秣ヲ積マレ
タシ。但シ之レニハ支庫ヨリ停車場ニ請求ノ十輛ヲ含ム。

同二十一日 遼東兵站經理部長ヘ左ノ如ク請求セリ。

割麥三萬六千石追送請求ノ件

鐵嶺ニ割麥缺乏セル故左ノ手段ヲ取レリ。

- 一 營口ヨリ三列車約五十日分即チ全軍ノ二日分弱ヲ急送セシムルコト。
- 二 安東縣ヨリ全軍ノ約九日分二百五十日分ヲ大連ヘ廻サシムルコト。

A 八月十日調各軍ノ總計ハ約六百日分即チ全軍ノ二十日分(夫レガ減ジ
テモアル代リニ補給モ致シアリ)

B 昨日滿倉ノ總計ハ約五百六十分即チ全軍ノ約十八日分ナリ。
C A Bノ合計三十八日即チ一箇月餘。

故ニ此際一ヶ月分約三萬六千石至急追送ナル様其筋へ請求セラレタシ。

八月二十一日 三等計手犬塚忠經内地ヨリ大連本倉庫へ到着セル旨報告アリ。
依テ鐵嶺支庫附ヲ命ジ其旨電命セリ。

同二十一日 大連本倉庫へ電報午後十一時一分遼陽發

來ル二十五日ヨリ九月十日迄十七日間毎日大連ノ二十三列ト三十一列トハ

總テ遼陽卸シトナルベキ精米ヲ積ムベシ。此列車ニハ其米ヲ遼陽ニ卸シ同

地ニ元カラアル米ヲ積ミ之ヲ鐵嶺ニ輸送ス。委細郵便(即チ新陳交換ノ件)

八月二十二日 野戰經理長官ヨリ電報午前一時三十分遼陽受

會計検査院へ回答ノ爲メ必要ニ付左ノ件確實ニ取調べ折返シ電報セヨ。

營口ニテ受入タル臺灣米今日迄ニ於テ搗精ノ爲メ拂出シタル玄米ノ總高。

搗精ノ結果白米トシテノ精算總高。

給與其他拂出シ總高。

玄米及白米現在高又與倉少佐ガ「ブツシユ」ヨリ買入レタル柴棍及「ウーフ」米
ノ受入高(玄米ト精米ノ區別其一石ノ代價)

並ニ前記臺灣米ニ關スル同一事項。

(從來ノ報告ハ臺灣米ト支那米ノ區別不明ニ付當部ニテ調べ難シ)

右ニ付即時營口金子支庫長へ左ノ如ク電報セリ。

野戰經理長官ヨリ左ノ電アリ。詳細取調べ直接ニ至急回答スベシ(以下前項
ノ如シ)

同二十二日 鴨軍經理部長へ電報午後六時遼陽發

貴軍用冬服約四千八百捆撫順滿倉出張所ニ到着シアリ。貴部員又ハ兵站經

理部員ヲ派遣受領センメラレタシ。

右ニ對シ左ノ返電アリ二十三日午後八時遼陽受

答、撫順ニテ兵站經理部派出所ヲ開設スル爲メ本日同部員當地(永陵)ヲ出發ス

ベキニ付着ノ上直グ受領スル筈。

八月二十二日 柳樹屯毎田支庫長ヨリ電報午前十時四十分遼陽受

第二旬ニ於ケル追送糧秣船十八艘其積載捆數三十二萬餘。又營口行十五艘アリ。直チニ本船ヨリ載セシモノ約七分揚陸三分ニシテ現今ノ情況輸卒隊一隊苦力若干ヲ備役シ業務差支ナシ。右報告ス。

同二十二日 在營口支庫佐野主計ヨリ電報午後一時五十分遼陽受

大阪上田彌太郎へ問合セノ返(八月十二電報記事参照)
見本見タ。品中等品神戸賣レ値段。

臺灣米玄 一號價 四圓拾錢 二號價 四圓

臺灣米白 一號價 四圓五拾錢 二號價 四圓四拾五錢

柴棍 一號價 四圓五拾錢 二號價 四圓四拾五錢

當地天候不順ノ爲メ氣配良シ跡強含ミ賣行良シ。

同二十二日 宇品貨物廠員長廣主計被服ノ宰領者トシテ來リ遼陽ニテ面會セ

リ。此機ヲ利用シ追送被服取扱ニ關スル數件ノ注意事項ヲ其筋ノ人々ニ申告セシコトヲ希望セリ。

追送被服ヲ經理機關及ビ之ニ屬スル勞働者ノ勞比較的少クシテ豫期セル時期ニ各部隊ニ到着セシメントスルニハ左ノ條件ヲ必要トス。

- 一 種類ニヨリ梱包ヲ區別スルコト。
 - 二 梱包内ノ員數ヲ一定スルコト。
 - 三 部隊區分ヲ明瞭ニスルコト。
 - 四 被服ノ梱包上ニハ難字ヲ用ヒズ簡單ナル符號様ノ標記ヲ用ユルコト。
 - 五 大中小ノ如キモ凡テ簡單ニ表スルコト。
 - 六 本國ヨリ明細ナル部隊別ニ區分スルハ不適當ナリ。故ニ總梱包數ニテ送リ部隊別ハ總經理部ニテ定メ滿倉へ追送セラレ、ヲ可トス。
- 同貨物廠員ノ言フトコロ左ノ如シ。

- 一 今回送付ノ被服ハ大中小ヲ分ツニ梱包上ニ○(大)□(中)△(小)ノ標號ヲ附セ

リ。

二 毛皮胴衣新品二十二萬被服廠ニテ製作セリ。

三 茶褐色絨製外套襟ニ毛布附キ新品二十萬九月中ニ製作シテ送り來ル豫定。

八月二十二日 新民屯藤田主計ヨリ電報午後十一時五分遼陽受

今日奉天へ牛百五十頭十一萬三千五百九十五磅遼濱塔へ三十頭二萬二千七百十九磅〇一磅拾壹錢五厘一頭八拾七圓拾錢〇現在三百三十七頭。

八月二十三日 後備第一師團經理部長へ電報午前八時十分遼陽發

花井主計職務ニ至急遼陽ニ來ル様傳達アリタシ。

同日在營口支庫佐野主計へ電報午前八時三十分遼陽發

成ル可ク速カニ其地ニ於ケル米ノ調査ヲ終へ大連ニ復歸スベシ。

同二十三日 遼陽ニ於テ小野支庫長以下ヲ隨へ「ウーラー」靴製造所ニ臨檢セリ。其狀況左ノ如シ。

一 「ウーラー」靴ヲ四種ニ區分ス。

イ 脊皮製

ロ 胴皮若クハ腹皮製

ハ 臀皮製

ニ 肩皮製

イ 脊皮製ハ四種中最モ見バエ能ク手工モ施シ易キヲ以テ其製作他種ニ

比シテ最モ良好ナリ概シテ前面甲ノ處ニ皺多ク三十七、八ヨリ四十個ノ

襞ヲ生ゼリ是レ他種ニ比シテ革質柔軟良好ナルガ故ナリ。

ロ 胴皮若クハ腹皮製ハ最モ惡質ニシテ薄ク輕キヲ以テ見別ケ易シ。

ハ 臀皮製ハ四種中最モ厚クシテ且ツ堅キヲ以テ其製作ハ脊皮ノ如ク外

觀宜シカラズ此種ノ皮ニテ製セシモノハ凡テ大ナルヲ以テ殊別セラレ

何トナレバ皮革堅キ爲メ屈曲自在ナラズ依テ小サク曲ゲルコト困難ナ

レバナリ。

ニ 肩皮製ハ脊皮ト腹皮ノ中間ニ屬スルモノニシテ脊皮ヨリ外觀宜シク
腹皮ヨリハ較宜シ而シテ薄クシテ輕シ。

二 同靴ノ大サハ大別シテ三種トス。

イ 大一尺一寸

ロ 中一尺

ハ 小一尺以下(九寸五分)

ニ 紐ノ長サ三尺八寸五分幅四分

三 購買ス可キ程度ハ左ノ二種トス。

イ 大ハ百分中三十五

ロ 中ハ百分中六十五

ハ 小ハ購買セヌコト

八月二十三日 辻村遼東兵站經理部長ヨリ電話ニテ左ノ照會アリ。

二十六日ヨリ撫順兵站病院遼東兵站管區ニ入ルニ付同院ト撫順滿倉出張所

ノ糧秣ハ滿倉出張所ヨリ直接交付アリタシ。

右ニ對シ異議ナシト回答セリ。

尙同二十三日遼東兵站監部ノ會報ニ於テ左ノ如ク決セラレタリ。

一 撫順鴨軍兵站病院ノ給養ヲ同所ノ兵站部ニテナシツ、アリシガ不良ノ

爲メ本日以降滿倉出張所ニテ給養スルコト又撫順滿倉ノ出張所及ビ附屬

ノ輸卒隊ヘノ給養モ同様倉庫ニテ自カラ爲スコト。

同二十三日 遼經發第二〇九六號ヲ以テ遼東兵站經理部長ヨリ左ノ照會アリ。

依テ各其出張所ヘ交付方電命セリ。

今般開設相成候左記兵站司令部所要糧秣(加給品及燃料類共)自今左ノ通り貴

庫出張所ヨリ補給セシメラレタシ。

新民兵站司令部ノ分ハ 新民屯出張所

古城子通江口同 三屯子出張所

小塔子 同 小塔子出張所

八月二十三日 第四軍兵站經理部長ヨリ左ノ照會アリ(八月十五日記事參照)

滿倉庶第七九二號ヲ以テ御復牒ノ趣了承目下當部買上支那馬匹ニハ備入支那蹄鐵工ヲシテ裝蹄セシムル爲メ熱鐵ノ裝蹄ハ不可能ノ事ニ有之候尤モ現下蹄鐵工卒養成中ニシテ三個月ノ後ニハ卒業可致ニ付其後ハ本邦蹄鐵ノ補給ヲ仰ギ度夫迄ノ間ニ要スル馬匹四千頭三個月分ハ過般御依頼ノ通り購買ヲ御依頼致度候也

追テ右蹄鐵ハ一時ニ御送付ニ不及候三個月間ニ漸次御調辨ノ上御送付相成差支無之右申添候也

同二十三日 在鐵嶺藤田主計ヨリ電報午後五時十分 遼陽受

午後一時着ス○前田支庫長ニ傳ヘタ。當地暫ラク雨降ラザル爲メ道路良クナリ、運搬其他都合ヨシ○牛ノ狀況ヲ見ル。兼テ聞及ベル通り傳染病ナルコト確實ナルモ、予ノ考ニテハ長途ノ疲勞ニ原因スルト思フ。取敢ヘズ新民奉天間ニテハ各休養所ニ於テ二泊以上ナシタル後發送セシムル様西田(主計)ニ

命シ置ク。

右ニ對シテ、左ノ如ク返電セリ午後七時 遼陽發

答、生牛ヲ途中ニテ休憩セシムルコト同意ナリ。但シ日中ノ行進ヲ止メ朝夕涼シキ間ニ行進セシメテハ如何。同意ナラバ夫々手筈アレ。

同二十三日 一等主計吉井德藏ニ遼陽支庫附ヲ、一等主計矢野透、二等主計坂本初太郎ニ鐵嶺支庫附ヲ命ゼリ。

是ヨリ先キ主計増員ノ件ニ付前田支庫長ヨリ電報アリ。依テ左ノ如ク返電セリ午後六時 遼陽發

答、他ニ差支ナクバ矢野ヲ小塔子へ、坂本ヲ馬蜂溝へ派遣セラル、ヲ望ム○主計職務花井麓三ニ貴庫附ヲ命ズ。同人ハ明日後備第一師團ヲ出發スル筈。被服ハ貴官ノ見込デ着次第小口カラ各軍へ内渡シテ分配セラレタシ。各軍ハ力ヲ盡シテ各師團等ニ送付セザレバ時機ヲ失スル恐レアリ。各兵站經理部長ト篤ト打合セアリタシ。

八月二十三日 大連本倉庫盤井藥劑正へ電報午後八時 遼陽發

遼陽ノ精米ヲ新陳代謝セシムル爲メ二十五日ヨリ毎日大連二十三列ト三十

二列ハ遼陽行キノ精米ヲ積込ム可シ。之ニ積込ム米ハ成ルベク近頃着セシ

品ヲ選ム可シ。○遼陽ノ新陳代謝ハ五十四列車即チ二十七日間ニテ終ル見込

○本件ニ就テ行達モ等ナカラシムル爲メ提理ト協議シ置クベシ。

同二十三日 營口金子支庫長へ電報午後七時二 遼陽發

遼陽ニ多數ノ「ウ」ヲ「靴貯藏」シアリ。之ニ依テ研究セバ大ニ利益アルベシ

ト思フ。業務綜合モ至急此地ニ來レ。

右返電二十四日午前 九時遼陽受

十一時四十五分發ニテ行ク。

同夜一時鐵嶺前田支庫長へモ左ノ如ク電報セリ。

協議ヲ要スル件多シ。貴官ハ業務綜合セ、此地ニ來ルコトヲ望ム。

同二十三日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午後九時 遼陽受

小塔子輸卒隊用天幕五十送リタルニ尙三十不足ノ電アリ。御交付アリタシ。

○牛皮還送ノ件返待ツ。

右ニ對シ、左ノ如ク返電ス同夜二時十 五分遼陽發

答、天幕一張ハ五十人入ナリ。若シ三十人入トスルモ間ニ合フ筈ナリ。都合

ツク限リハ綜合セラルベシ。○牛皮ノコトハ貴官此地ニ着ノ上相談ス。

八月二十四日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前零時五 分遼陽受

本日(二十三日)ヨリ絨衣袴着キ初メタリ。千二梱着ク。

同二十四日 第三軍兵站經理部長ヨリ電報午後三時五 分遼陽受

小塔子滿倉ト當軍ノ糧秣ヲ合セテ見レバ米ヨリ麥ガ二百日分以上多クナツ

テ居ル。オマケニ當軍デハ五分ノ二丈ケ雜穀ヲ買フテ食ハセテ居ルカラ益

麥ノ肩ガ高クナル。御參考迄ニ。

同二十四日 鐵嶺前田支庫長ヨリ電報午前三時三 分遼陽受

輕鐵ノ線路ハ色々困難ノ事情アリタルモ今日(二十三日)四軍ノ兵站監部ト協

議シ、略ボ纏メタ。今朝カラ馬蜂溝ニ行き、今歸ツタ。今夜々行ノ汽車ニテ貴地ニ行ク。

八月二十四日 奉天橋元支庫長へ電報午後七時四分遼陽發

其後、ウーラー^トニ就テ大ニ得ル處アリ。前田金子ノ兩支庫長モ來會研究中。

貴官ハ貴地、ウーラー^ノ見本ト調書ヲ携へ、今夜々行ニテ再ビ此地ニ來レ。

右ニ對シ、今夜十時二十分發遼陽ニ行クトノ返電アリ。

同二十四日 安東縣岡本支庫長ヨリ電報午後八時十分遼陽受

本日酒一石ニ付甲五圓拾參錢八厘、乙拾六圓七錢七厘ニテ大倉組ニ落札ス。

支那米着揚陸中○大連行割麥内千石本日積込ヲ終レリ。二十六日出帆ノ筈。

右ノ酒ハ今回懷仁方面ヨリ逆送シ來リシ損敗品ニテ給與シ難シトテ賣却方申出デアリ。依テ承認シ置キタルモノナリ。

同二十四日 小塔子出張所吉井主計ヨリ電報午後十時十分遼陽受

當地第三軍兵站部ヨリ借入レノ輸卒隊及ビ監視隊共全部本日限り引揚ルコ

ト、ナレリ○揚陸業務ハ明日ヨリ遼東兵站部ニテ實施セラル糧秣ノ受授ハ河岸ニ於テシ船頭ヲ揚陸ニ使用スルコトヲ止メ、司令部輸卒隊ト協力シ、倉入運搬ヲオスヨトニナレリ。委細實施ノ上報告ス。

同二十四日 在鐵嶺支庫萩原獸醫正ヨリ電報午前八時十分遼陽受

昨日第一軍糧餉部蓄牛所ヲ視察セルニ二百四十ノ内五十頭ノ鷺口瘡アリ○

又第二軍三百三十三頭ノ内六十ノ病牛アリ。倉庫ニモ十五頭アリ。

右返電二十五日午前九時遼陽發

貴官鷺口瘡ニ關スル調査終ラバ直ダ遼陽ニ來ルベシ。

同二十四日 奉天支庫長ヨリ電報午後十一時遼陽受

昨日着ノ牛九十二鐵嶺へ、二十五鴨軍へ前送、外ニ前送ノ見込ミナキモノ三殘シ置ク○本日百十五着ク。内鷺口瘡十六、外ニ途中預ケニ、斃死三、現在百七十五頭。

同二十四日 遼陽支庫ニ於テ會報ヲ開ク。其要領左ノ如シ。

一 倉庫員以下ノ使用法

或ル一事業ヲ輸卒隊ニ屬スルモノ、ミニ依リテ整理セシムルトキハ此輸卒隊ガ他ヘ轉屬ノ際忽チ差支ヲ生スベシ故ニ庫手ノ如キ者ヲ交ヘテ使用サレタシ。

又倉庫員ハ服裝ヲ正フセザルベカラズ舊劍ヲ帶ビテ顧ミザル如キハ外觀ノミナラズ威嚴ヲ損スルヲ以テ注意ヲ要ス。

二 給養

爾今撫順滿倉出張所ニ於テ左ノ部隊ヲ給養ス。

遼東兵站病院

滿倉出張所

同附屬輸卒隊

之ヲ給養スルニ當リテハ分量ノ検査加給品ノ交付等ニ付主任者自カラ關リテ之ヲ爲サザル可ラズ然ラザレバ到底満足ナル給養ヲナシ難シ。

三 酒保品

酒保ナルモノハ各兵卒ガ軍隊ヨリ給養ヲ受クルノ外自己ノ嗜好ヲ充サントテ給養外ノ物品ヲ購買セント欲スルニ由リ設ケラレタルモノナリ故ニ將來軍隊ニ於テ凡テノ物品ヲ満足ニ給養シ得ルニ至ラバ酒保ナルモノハ其必要ヲ感ゼザルニ至ルヤ必セリ。

四 清潔ト整頓

A 個人ノ事ニ在テハ大抵相應ニ之ヲ爲スト雖公共ノ事ニ就テハ其思想至テ缺乏セリ倉庫開設以來日ヲ經ルニ從テ整頓清潔亦之ヲ完全ニセザルベカラズ。

B 被服ハ必ず倉庫内ニ入ル、ヲ要ス止ヲ得ズシテ一時屋外ニ置クコトアル時ニハ必ず下敷ヲ設ケ雨覆ヲナサザル可ラズ。

C 倉庫品ノ新陳交換
之レハ一時ニ爲サズトモ各部隊ヘ交付スル時常ニ注意シテ古キモノヨ

リ交付スルコトニ勉ムレバ可ナリ。

D 總テ物品ノ交付ハ直チニ其物品ヲ受領シテ他所へ運搬シ去ルニ非サレバ交付スベカラズ。

交付シテモ運搬力ナキ爲メ猶數日間无トノ位置ニ放置スル如キ時ハ決シテ交付スベカラズ。

E 缺損品ノ處分

腐敗品若クハ濕潤品ヲ他ノ良品ニ混ズルトキハ其害ヲ他ニ及ボシ易キヲ以テ勉メテ早ク除去セザルベカラズ。

又物品ヲ検査スル倉庫員ハ常ニ探筒、秤、尺度等ヲ準備シ置カザル可ラズ。

五 倉庫間ノ通路及溝

A 之ヲ兵站司令部ニ請求シテ作ルコト若シ同部ニ於テ應ゼザレバ倉庫自カラ之ヲ作ルコト。

B 倉庫地ノ内外ニ雜草繁茂スル杯ハ外觀ノ惡シキノミナラズ其倉庫員ノ性能ヲ表現スルニ似テ最モ不可ナリ故ニ常ニ之ヲ除去シテ清潔ナラシムベシ。

塵溜ノ如キモ場所ヲ一定スルヲ要ス。

六 補給ト給與

A 事實ニ於テ補給トハ倉庫ヨリ倉庫ニ交付スルコト給與トハ倉庫ヨリ消費部隊ニ交付スルコトナリ。

B 補給關係ニ於テハ受渡ノ際梱包内ノ減量ヲ計算セズ梱包ノ示ス所ニ從テ受授ヲ爲スコト。

補給ニ於テハ例セバ事實ノ所要八十石トスルモ之ヲ豫算スルニハ百二十石ト計算セザルベカラズ。

C 給養ノ時ニ於テハ例ヘバ精米ヲ交付スルニモ一俵ヲ二斗入トスルモ二斗アルモノニアラザレバ十俵交付スベキ所ヘ十一俵交付シ其減耗ノ

差ハ減量ニヨリテ缺損トナシ處分スベキナリ其他ノ物品總テ斯ノ如シ給養ノ事實具備シ各兵ノ口腹ニ定量ヲ充シテ満足ヲ與フルコトニ勉メザルベカラズ。

七 輸卒隊ニ對スル處置

- A 軍紀風紀ヲ嚴守セシムルコト。
 - B 教育ヲ爲スコト(例ヘバ倉庫ノ仕事ガ出來ル様ニ教フルコト)
 - C 給養ヲ満足ニスルコト(支庫長出張所長ハ屢、自身ニ臨檢スベキコト)
 - D 宿舍ヲ清潔ニシ空氣ノ流通ヲ能クスル如ク窓ノ如キモ十分ニ設クルコト。
 - E 衛生ニ注意シテ洗濯、入浴、斬髮等ヲ十分ニセシムルコト。
 - F 被服ノ破綻セルモノハ速ニ繕フ様ニ注意スルコト。
- 八 其地所在ノ各部隊ト倉庫員トノ關係ヲ圓滿ニスルコト。
- 九 其任地ヨリ各地ニ至ル交通其他。

各地ニ至ル距離道路ノ狀況沿道諸部落ノ物産價格人情風俗或ハ其他屯在軍隊等ノ有無ヲ調査シ置クコト。

十 報告

日々ノ業務ヲ報告スルト共ニ其他ノ調査見聞セル事項ヲモ報告スルコト。

十一 注意

糧秣ノ準備高ニ就テハ各品種ヲ揃ヘル様ニ注意スルコト。
不揃ノモノハ之ヲ倉庫長ニ報告シ且ツ意見ヲ申出ヅルコト。

八月二十四日 午後二時撫順出張所長高橋主計遼陽ニ來ル。同主計ヨリ左ノ申出アリ。

撫順倉庫ニ於テ給養ヲ開始スルニ就テハ生牛十頭乃至二十頭ヲ飼養シタシト。

右ニ付電話ヲ以テ總經理部ヘ交渉セシニ差支ヘナシトノ事ナルヲ以テ奉天支庫ニ命ジテ生牛ヲ撫順ニ送付セシムルコト、ナセリ。

猶玉子四千ト鶏七十貫匁毎週一回ノ割ニテ大連ヨリ送ラレタシトノコトナリ
シモ大連ニハ品少ナキヲ以テ營口ヨリ送ラシムルコト、セリ。
薪炭ノ請求ニ對シテハ大連ヨリ送ラシムルコト、セリ。

八月二十五日 鐵嶺前田支庫長遼陽ニ來リ報告スルトコロ左ノ如シ。

一 小塔子滿倉支庫 先日降雨中輸送シ來リタル糧秣ノ中甚シキモノハ六
分通り吹ノ濕潤セルモノアリ又目下揚陸シツ、アルモノモ尙一艘(平均二
百五十噸積)ニ付二十噸位腐敗ニ近キモノモ間々アリ其原因ハ各所ニ於テ
研究シタルニ水垢(船底ニハ必ズ薪ヲ積ム筈ナルモ積マザルモノアリ)及ビ
雨天ノ際疾風側面ヨリ來ルトキ雨覆ヲ透入スルモノ、橋ノ周圍ヨリ流入ス
ルモノ、船夫ノ出入スルニ當リテ多少雨ノ吹ヲ濕ス等ニ因ルモノ、如シ。
野積糧秣モ上部ニ雨覆(天幕)ヲ張リアルノミニテハ強風雨ニ對シ吹ノ濕潤
スルコトナシトセズ。

總テ濕潤シタル糧秣ニ對シ應急ノ處置ヲ講ジツ、アリ。

一 通江口兵站司令部 濕潤セル糧秣ニ對スル處置ハ適當ニ實施セラレツ
ツアリ。

通江口附近ニ於ケル密輸出入ハ以前ニ行ハレタルコトアルモ監視嚴密ニ
ナリタル爲メ今ハ其形跡ナシ。

一 支那車輛柴河(鐵嶺ノ北側)ヲ流ル(通過)ノ情況 第四軍用ノ支那車輛ハ鐵
道橋ノ上流約二百米突ノ徒涉場ヲ通過第四軍ハ軍橋アルニ係ラズ(シツ、
アルヲ目撃セシニ水流中深キ處ハ車軸ヲ沒ス從テ車上ノ下積ミ糧秣ハ濕
潤シ且ツ右岸ノ將サニ水流ヲ離レテ堤防ノ傾斜ヲ登ラントスルトキ車臺
ノ後部ガ水ニ浸サレ隨テ糧秣モ若干濕潤ス之ニ反シテ鐵道橋ノ上流約二
千米突ニアル在明橋第一軍ハ構造頗ル堅固ニシテ幅六米突ヲ有シ車輛ヲ
通過セシムルヲ以テ第一軍ハ糧秣ヲ濡スノ憂ナシ柴河ニ止マラズ何レノ
軍橋ニアリテモ其保存等ノ關係ヨリ支那車輛ノ通過ヲ許サザルコト多シ
トス斯ノ如クナルヲ以テ糧秣ノ濕潤ハ免カレザル所ナリ。

一 馬蜂溝ノ輸出入 輸入品ハ支那雜貨ニシテ六月盡日ヨリ本月十九日迄ニ營口ヨリ來リシモノ二百三十四隻新民ヨリ來リシモノ三十九隻アリ其荷主中會社組織ノモノハ遼河運輸公司及ビ日本水運會社ニシテ和盛號管理人秋太萬治ナル者間輸入シツ、アリ其他日本人ノ名前ニテ輸入ヲ許サル、モノアリ。

輸出 營口兵站司令官ノ許可證ヲ有スル水力公司管理人伊藤幸藏ナルモノ大豆四十艘ヲ英守屯ヨリ輸出シタルコトアリ目下通江口ヨリモ許サル、許可セラレタルハ船數百艘ノ處目下ハ五十艘モアルナラント謂フ。橋梁監視兵ノ賄賂一件ハ今尙ホ其跡ヲ絶タズト云フ。

一 糧秣ノ濕潤ニ就テハ間、批難ノ聲ヲ耳ニス併シ倉庫ニ於テ格納中ニハ極メテ少クシテ多クハ輸送途中ニアリ今日迄巡視シタル所ニテハ各軍ノ糧秣輸送中其保護ニカヲ用ヒツ、アル程度大ニ差アリ糧秣ノ出納ヲ司ドル者ノミヲ責ムル能ハザル點頗ル多シ。

雨天ノ際ニ於ケル陸上輸送ハ濕潤スルコト多カルベシ之レガ豫防方法ヲ講ズルノ必要アリ。

一 遼河ニ於ケル支那「ジャンク」ハ以前ニ比シ各地ニ碇泊シアル數減少シタルモ其運轉未ダ十分敏活ト云フベカラズ。

屢、幹部ヲシテ兵站線路上ヲ巡視セシムルトキハ意見ノ交換及補遺ニヨリ業務上ノ敏活ヲ計リ無益ノ勞力ヲ省キ大ニ利益アリト信ズ。

同時ニ奉天橋元支庫長ノ報告スルトコロ左ノ如シ。

一 奉天支庫ノ野積ノモノハ下部ニハ厚サ二十珊薪ヲ敷キ其上ニ糧秣ヲ集積シ外部ハ「アンペラ」ヲ二重ニ掛ケ其上ニ更ニ天幕ヲ張リテ雨露ヲ防ギアリ。

總ベテ糧秣ハ部分検査ヲナシツ、アリ罐詰類ノ如キハ時トシテ一々外部ヨリ打診シ瓦斯ノ發生セルヤ否ヲ検査セリ後方ヨリ送り來ル糧秣中濕潤腐敗セルモノハ極メテ少シ。

八月二十五日 遼東兵站經理部長ヨリ左ノ通牒アリ。

七四〇

總經理部長ヨリ遼東兵站經理部長へ電報

爾今加給品中ノ清酒一人一ヶ月定量ヲ一升(缺損料ヲ除キ)ニ改ム右ニ依リ各軍其他へ補給方取計ヒアレ。

右即日大連本倉庫並ニ各支庫出張所長へ通達セリ

同二十五日 遼東兵站監部ヨリ廻狀ヲ以テ左ノ通牒アリ。

兵站監宛電報 同日午後三時三十分遼陽發

第四師團第十八隊(目下三家子ニアルモノ)ヲ大連ニ又同二十三輪卒隊(目下草河口ニアルモノ)ヲ鐵嶺ニ前進スルコトヲ命ジタリ此兩隊ハ來ル二十五日何レモ舊任地ヲ出發スル筈但第四ノ十八輪卒隊ハ海路輸送ヲナスコトニ付目下交渉中又第二十三輪卒隊ハ二十九日遼陽ニ到着シ爾後ノ行軍ニ就テハ御指揮ヲ受クベキ旨命ジ置キタリ

編成第二十三隊騎兵中尉生島與平、四小隊特務三、軍曹一、十八隊輜重兵中尉渡

部瀬平、三小隊曹長一、軍曹一。

右ニ付、大連本倉庫へ左ノ如ク電報セリ。

新ニ滿倉ニ轉屬ノ第四師團(以下略)前項ノ通り〇二十三隊遼陽鐵嶺間鐵道輸送ハ請求中。

尙同時ニ鐵嶺支庫長へモ其旨通達セリ。

同二十五日 奉天支庫ヨリ電報 午前十一時五分遼陽受

當地兵站部ニ牛疫アルニヨリ繫牛所ヲ他ニ移セト萩原ヨリ申來レリ依テ第一號野積地西方森林中ニ設置シ本日着ノ分ヨリ入レルコトニスル。

八月二十六日 前日來遼陽ニアリシ前田金子橋元高橋ノ各支庫長出張所長本日孰レモ歸任セリ。

同二十六日 三等主計竹下止戈雄ニ「ウーラー」靴調査ノ爲メ復州、蓋平、海城地方へ出張ヲ命ズ。

同二十六日 新民屯井戸川少佐ヨリ電報 午後零時五分遼陽受

牛ノ購買ヲ中止セララル、ト聞ク。果シテ然ルキ。種々苦心ノ結果漸ク今日
ノ盛況ヲ見ルニ至リタルニ如何ナル事情アルニモセヨ、後來尙ホ之ヲ購買ス
ルノ必要アレバ、今一時中止スルニ至ラバ、今後ノ購買頗ル困難ナラジ。依テ
多少ニ拘ラズ購買ヲ持續セラレテハ如何。

右返電 三十七日午前
十時半 牛家 屯發

答、牛買入ヲ中止セシニアラズ御安心アレ。

八月二十六日 在海城竹下主計ヨリ電報 午後十時
遼陽受

海城ノ靴屋ハ十五軒、其製作力總計ハ一日二百五十。値段ハ昨年同様既製品
一斤票貳圓四拾錢、紐ハ別、現在五千、製作品質共採用シ得。大サハ九寸五分乃
至一尺三分ニシテ一尺一寸ノモノハ一モナシ。此品ヲ買取レバ買入取極メ
ク翌日ヨリ一ヶ月七千五百ノ製作力ヲ利用シ新注文ヲ命ジ得ルモ、買ハザレ
バ資金ノ關係上鐵道ニ使アル海城ノ製作力ノ全部ヲ失ハザルヲ得ズ。是レ
遼西ヨリ輸入六ツカシクナリツ、アル時一考スベキコトナリ。九寸五分モ

ノモ實際支給ニ方リ必要ヲ生ズルナラン(數人ノ兵卒ニアタリ試ミラレタシ)。
故ニ次ノ契約締結ヲ兵站部宛ニテ直グ電命ヲ乞フ。下官ハ此返電ヲ手ニセ
シ後最近ノ汽車ニテ蓋平ニ行ク。

契 約

- 一 前記現在品五千九月一日納受渡シ場所兵站部前、値段ハ九寸五分乃至一
尺三分込ニテ票壹圓五拾錢(紐共)ニテ買入ル、コト
- 二 新規注文ハ九月三十日納一尺二分ノモノ參千五百値段ハ票壹圓五拾錢
一尺一寸ノモノ三千五百、貳圓何レモ紐共

注意 契約一ト二トハ聯結シ離シテ其一ツノミ行ヒ得ズ靴屋ハ飽迄目方計
算ヲ固執ス然ルニ皮ノ場所ト質ノ異ナルニ從ヒ既製品ノ目方色々ナル故單
價ノ極メ方ト値段ヲ引カセルコトニ就テ非常ニ苦心セリ尻ト肩ノミヲトリ
腹ヲ捨ル様ナコトハ値段ノ上カラ益ナク皮ノ利用ノ上カラ無理ノ事ナリ。
今日ハ工場ニ臨ミ皮ノ裁方、縫方、仕上グ迄實見セリ値段ノ押引ト

工場視察ノ爲メ早朝カラ日暮迄費セリ○新規注文ハ大中平均壹圓七拾五錢。

右返電午後十一時遼陽發

答、現在品五千買入ル、コト、新規注文七千同意直グ契約アレ○此後ハ貴官ノ至當ト認ムル所ニヨリ買入ト注文トヲ適當ニナスベシ。予ハ今夜十二時立チ營口ニ行ク。電報ハ營口ニ送レ。

八月二十六日 大連本倉庫ヨリ電報午後十一時遼陽受

冬服ハ輻重ヲ除ク外約三分ノ二鐵嶺へ送付セリ○残りハ命令來ル迄前送見合セヨキヤ○輻重ノ分ハ明日ヨリ送ル豫定。

右返電二十八日午前零時

冬衣袴ノ内約三分ノ一留置アル品ヲ前送スベキカ否ニ付テハ鐵嶺支庫長ト協議ノ上取計ヒアレ○防寒被服モ同様トス。

同二十六日 曩ニ鷺口瘡調査ノ爲メ新民ヨリ奉天鐵嶺方面へ出張セシ萩原獸

醫正遼陽ニ來リ報告スル所アリ。依テ陸軍省軍務局長へ左ノ如ク電報セリ。

鷺口瘡ハ鐵嶺及ビ奉天附近ニ蔓延シ病勢漸次増加ノ狀アリ○目下疑似症ト認ムベキモノ奉天以北ニ於テ二百五十頭アリ。故ニ各軍ニ補給スル爲メ牛ノ輸送路ヲ變更スルコトニ調査中(八月十六日記事參照)

同二十六日 大連本倉庫ヨリ電報午後十一時遼陽受

石井部長ヨリ木材運搬用トシテ「レール」半哩程借受露西亞町ニ敷設シタシト申込ミアリ。應ジテヨキヤ○「レール」ハ今一哩バカリ豫備ノモノ現在セリ。

右返電午後十一時遼陽發

左ノ如ク石井部長ニ答ヘヨ○御依頼ノ「レール」半哩貸スコト承諾ス。

八月二十七日 倉庫長ハ午前一時半遼陽ヲ發シ、同日午前八時三十分營口支庫ニ到着ス。

同二十七日 在蓋平竹下主計ヨリ電報午後十一時五分牛家屯受

蓋平ノ靴屋十五軒現在品一萬七千(九寸五分以上)言ヒ値一斤貳圓五拾錢○新

規注文一月間ノ製作高約六千〇海城ノ買價ヲ標準トシテ一斤貳圓ニテ買入
レントスレドモ談纏マラズ。急グハ不得策ニ付交渉ヲ兵站部ト有力ノ實業
家劉氏ニ托シ置ケリ。

今日ハ知縣ノ交替ニテ市民動搖セルト遠距離ナルトノ爲メ意外ニ時ヲ費セ
リ〇今夜十時半發南瓦房店ニ往ク。

八月二十七日 遼東兵站經理部長へ電報午後九時五分 家電發

營口ヨリ前送高〇本月十六日ヨリ今二十七日迄平均毎日水路約七日八分、關
外約五日二分トナル〇水路ハ一兩日以來船ノ集リヨキ方ナリ。

同二十七日 遼東兵站經理部長へ電報午後九時五分 家電發

搗精所ニテ得タル糠六百八十石アリ。病馬等ノ給養ニ充テラルレバ妙ナラ
シ。

同二十七日 安東縣支庫長ヨリ電報午後九時十五分 家電受

割麥大連送リ豫定ヲ更ニ早メ殘リ全部只今來多ニ積込ミ本船鎮海丸ニ送リ

ツ、アリ。本船ハ明日出帆ノ筈是ニテ一萬石濟ム。

同二十七日 大連磐井藥劑正ヨリ電報午後十一時五分 家電受

主計職務取扱一等計手首藤内藏治、同花井麓三、同羽田豊、十九日附任三等主計。

八月二十八日 奉天總經理部長へ電報午前十一時三十分 家電發

絨衣袴各軍へ交付スベキ區別書ヲ貴部ヨリ直ニ鐵嶺支庫長へ急送アリタシ。

猶爲シ得レバ差向キ交付ニ關スル要點ヲ同支庫長へ電報アリタシ〇鐵嶺支

庫長へ此返電ヲ乞フ。

同時ニ鐵嶺支庫長へ左ノ趣旨ノ電報ヲ發ス。

絨衣袴各部隊へ交付命令數ノ内譯書其他ハ總經理部ヨリ直接送ルコト、ナ
ル〇予ハ今朝立ツタ。

同二十八日 倉庫長ハ關外鐵道ニテ同地方巡視ノ爲メ營口ヲ出發セリ。

右出張中糧秣ノ補給及ビ被服ノ追送交付ニ關シテ鴨軍ノ分ハ撫順出張所長高

橋主計ニ其他一般ノ業務ハ鐵嶺前田支庫長ニ相談ノ上處理スベキ旨大連本倉

庫へ電命セリ。

七四八

八月二十八日 總經理部長ヨリ各軍へ補給スル冬服ノ員數明細表ヲ大連本倉庫へ送付セラルル○依テ之ヲ鐵嶺支庫長へ郵送セリ。

右ニ付翌日大連本倉庫ヨリ鐵嶺支庫長へ電報時二十九日午前十時二十九日午前十時發

防寒服ハ新古ノ上中下ノ順ニ送リ始メテヨキカ○絨衣袴ノ交付命令内譯書ハ書留ニテ送ツタ。

右ニ對シ左ノ返電アリ時二十九日午後十時五分大連受

絨衣袴冬襦袢袴下ヲ先キニ略衣袴防寒被服ノ順ニ送ラレタシ○防寒被服ハ貴電ノ通り。

同二十八日 在南瓦房店竹下主計ヨリ當地ヲ終ラバ唐家堡鞍山店ノ西方ニテ靴ノ產地ト聞クト牛莊ニ行クト營口支庫へ報告アリ。

同二十八日 遼陽小野支庫長ヨリ倉庫長へ電報午後十二時營口支庫着

生牛皮ノ鞣シ賃ハ五圓又ハ五圓五拾錢ト稱シタルモ鞣シニ要スル藥ヲ給シ

(此鞣ハ敗品ヲ用フ)一枚參圓八拾五錢ニテ約定セリ。出來高ハ一月一千枚○「ウーラー」靴ハ昨日一昨日ノ兩日商人ニ變裝シ各商店ヲ調べタルモ軍票下落ノ理由ニテ大一足貳圓貳參拾錢中貳圓位先ッ當地ノ相場ナリ○尙明日取調べノ上此邊ニテ注文ノ豫定○品ハ嘗テ當支庫ヨリ御覽ニ入レタル見本ノ上等以上ナリ。

八月二十八日 大連本倉庫ヨリ鐵嶺前田支庫長へ電報午後十時大連發

萬家嶺以南線路ニ故障アリ。十一列ヨリ不通。開通迄營口ヨリ三百三列、三百十一列、三百十九列、各七車宛増加セラレタリ○遼陽ヨリハ元ノ通り。

同時ニ遼陽支庫長へ電報

萬家嶺以南線路ニ故障アリ。十一列ヨリ不通トナレリ○貴地ヨリハ鐵嶺支庫長ノ要求ニ應ジ送リテヨシ。

同時ニ營口金子支庫長へ電報

萬家嶺以南線路故障アリ。十一列ヨリ不通。右開通迄營口發三百三列、三百

七四九

十一列、三百十九列ニ各七車ヲ増加セラレタリ。尙各倍數迄貨車ヲ増シ得ルトノ事カリ。差支ナキヤ返。

八月二十九日 被服率領トシテ出張セシ佐治第二師團第二十三輸卒隊長ヨリ電報午前八時五十七分大連受

汽車不通三日停車ノ豫定○貨物異狀ナシ。

同二十九日 鐵道提理部ヨリ電報午前十一時十分支庫着

萬家嶺南方ノ橋梁開通スル迄遼陽ヨリ四列車ノ糧秣ヲ輸送ス。其列車番號

ハ第七、第十五、第二十、第三十一列車トス。積込準備アリタシ。營口發定期ノ

四列車ヲ運轉シ、各三十輛ヲ聯結ス○右八列車共鐵嶺行。

次ヲ遼陽支庫長ヨリモ亦左ノ電報アリ午前十一時五十分營口支庫着

二十九日十一列ヨリ汽車不通ノ爲メ提理部ト協議ノ上、二十一、二十五、二十九

一ノ四列車ヲ差立テ此列車ニハ鐵嶺支庫ノ要求ニ由リ麥ヲ前送スル豫定。

同二十九日 高力屯出張所村岡主計ヨリ大連本倉庫へ電報午前十時五十分大連受

當出張所ニ有ル停滯貨物約四十萬梱アリ。星田司令官ヨリ兵站監ニ報告セシ結果參謀長ヨリ左ノ電アリ。御指揮ヲ待ツ○兵站業務報告見タ。其地ニ滯リアル糧秣ハ遅クモ九月中ニ前送終ラザレバ其後ノ前送困難ナリト思ハル。就テハ之ヲ九月中ニ前送終ル如クセバ一日平均約四個師團分トナル。故ニ之ニ關外ノ分ヲ合セバ貴地ヨリ日々發送スルモノハ約十師團分トナル。此内五師團分ハ三面船其他ハ馬蜂溝ニ向ケ送ルコトニセバ豫テ其地兵站部ニ配當シアル千二百二十九艘ノ船ニテ運搬シ得ルト思ハル。貴地兵站司令官ト協議ノ上速ニ實行セラレタシ。

右ニ付大連本倉庫ヨリ鐵嶺支庫長へ移電セシニ同三十一日鐵嶺支庫長ヨリ左ノ返電アリ午前八時十分大連受

高力屯ノ停滯糧秣ハ馬蜂溝へ前送ノコトニ取計ヘリ。本件ハ去ル二十八日遼東兵站參謀長ト協議濟ミ。

八月三十日 第四師團第十八補助輸卒隊長以下四百三十八名到着セリ。

右遼東兵站監部へ報告セリ。

八月三十一日 鐵嶺前田支庫長ヨリ大連本倉庫へ電報十午八時五分大連受

絨服ノ残り悉皆至急送ラレタシ。之レガ爲メ糧秣貨車減ジテモ差支ナシ。
同三十一日 長屋雇員ヨリ遼陽支庫ニ於ケル副食物検査報告書ヲ提出セリ。

明治三十八年八月三十一日

雇員 長屋 熊 槌

滿洲軍倉庫長 日 匹 信 亮 殿

報 告

罐詰類

急送ヲ要スルモノ及ビ手入ヲ要スルモノ共ニ解相總打診ヲナシ良否ヲ選別シ良品ハ整梱ノ上不良品ハ蓋付ノ儘共ニ支庫遼陽衣糧部ニ引渡セリ其品目數量左ノ如シ。

品 目	納 期	納 人	總打診相數	良罐相數	不良罐相數
-----	-----	-----	-------	------	-------

練 罐	三十七年九月	大阪 今井勢兵衛	二、二九	一八七	三二
携帶用鶏罐	三十七年四月	東京 小山喜三郎	一六二	一四五	一七
鮪 罐	三十八年二月	北海道函館水産組合	三〇五	二六四	四一
百二十夕入牛罐	三十七年九月	名古屋 山田 才吉	一六四	一五七	七
秋 刀 魚 罐	三十七年十二月	千葉縣 正木清一郎	二二	二〇	三
小 魚 罐	三十七年十二月 三十八年一月	茨城縣 鐵 傳 七	八三七	六四二	一九六
合 計			一、七二二	一、四一五	二九六

鹽干魚類

當支庫ニテハ鹽干魚ヲ手入スベキ設備ナキ爲メ開罐ノ後整罐スル能ハズ依テ急送品ノ手入ヲ要スルモノ及ビ廢品共總テ發送ヲ見合セ當支庫ニ於テ給與ノ際開罐シ良否ヲ取捨スベキコトニセリ其品目數量左ノ如シ。

品 目	納 期	納 人	總相數	不良豫測
-----	-----	-----	-----	------

開	干	鱈	三十七年十月	北海道	大島登三郎	八七一	給與ヲ急ケバ不良品ナカラシ
同	同	同	三十七年七月	大阪	小林 鹿藏	一九九	同
同	同	同	三十八年二月	東京	報効義會		
剝	海	老	三十七年十月	大阪	瀬良 善吉	同	斷
萬	引	三十七年七月	廣島	吉村伊三郎	一〇四五	五割ノ不良品アラシ	
同	同	三十七年十月	廣島	古田 幸吉			
同	同	三十七年七月	大阪	小林 鹿藏			
千	む	ろ	三十七年七月	大阪	小笹善兵衛	二二五〇	七割ノ不良品アラシ
開	干	鱈	三十七年十二月	大阪	小林 鹿藏	二八一五	全部不良品ナシ

左記ノ物品ハ検査後集積場整理ノ結果現出セシモノナリ從テ検査報告書ニハ記載ナシ。

品目	納期	納人	總捆數	廢品豫測
飛魚	三十七年七月	廣島 山本文吉	三七五	三割ノ不良品アラシ

干燥野菜類

千	鮓	三十七年十月	大阪	小笹善兵衛	四〇	二割ノ不良品アラシ
千	鯖	三十七年十二月	鹿兒島	島津 久喜	三五四	全部不良品ナラシ
同	同	三十七年十二月	鹿兒島	鹽干魚組合		
同	同	三十八年六月	大阪	小林 鹿藏		

品目	納期	納人	總捆數	廢品豫測
割菜	三十七年十一月	廣島 川本 政藏	二五	給與ヲ急ケバ不良品ナカラシ
同	三十七年七月以前	製造ニシテ木箱ノミニテ罐裝ナキモノ	全部不良品ナラシ	
若布	同上	七百捆		

以上

滿洲軍倉庫殘務整理所藏版

東京麴町區麴町隼町四番地

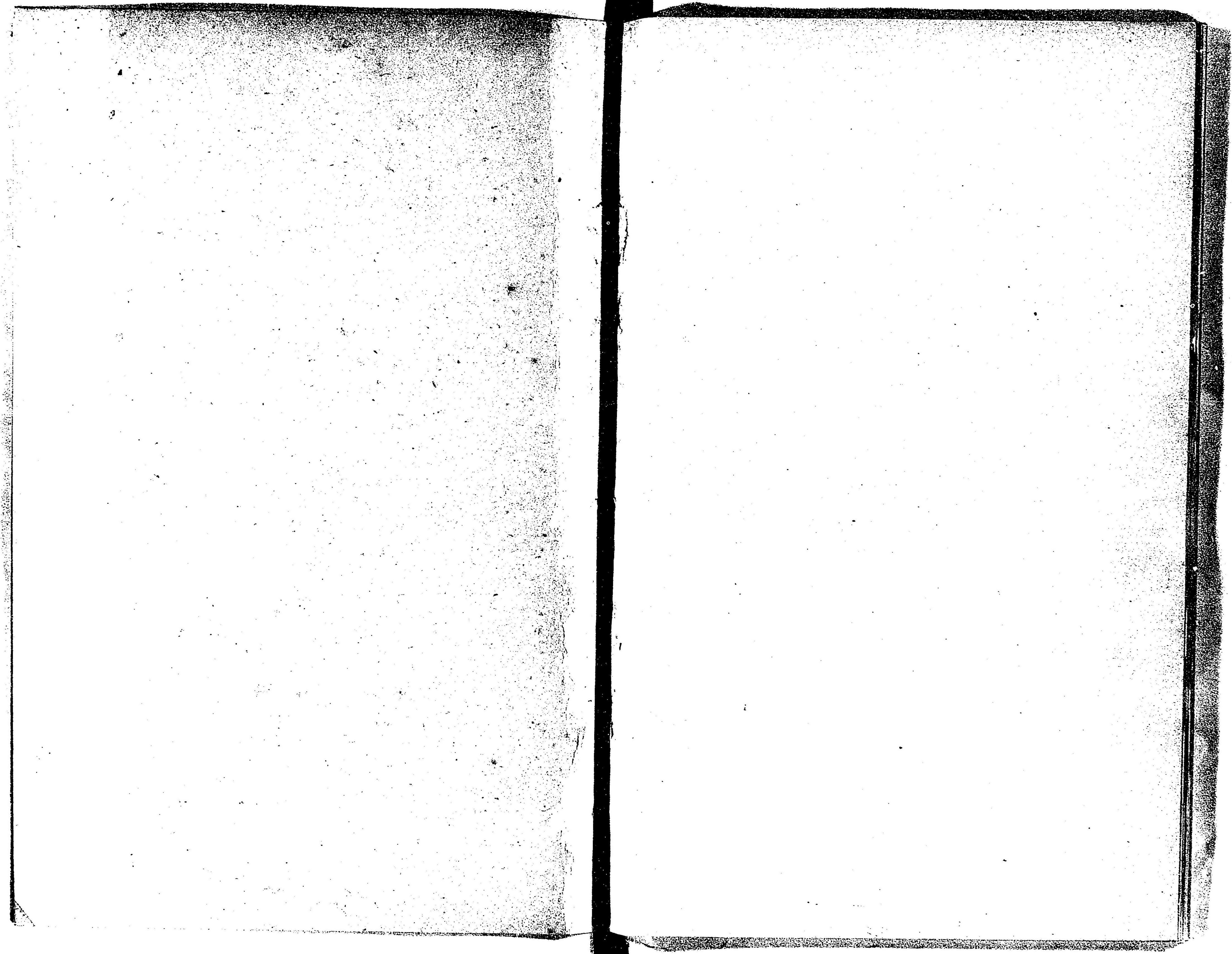
印刷者 小林 又 七

電話番町壹六貳九番

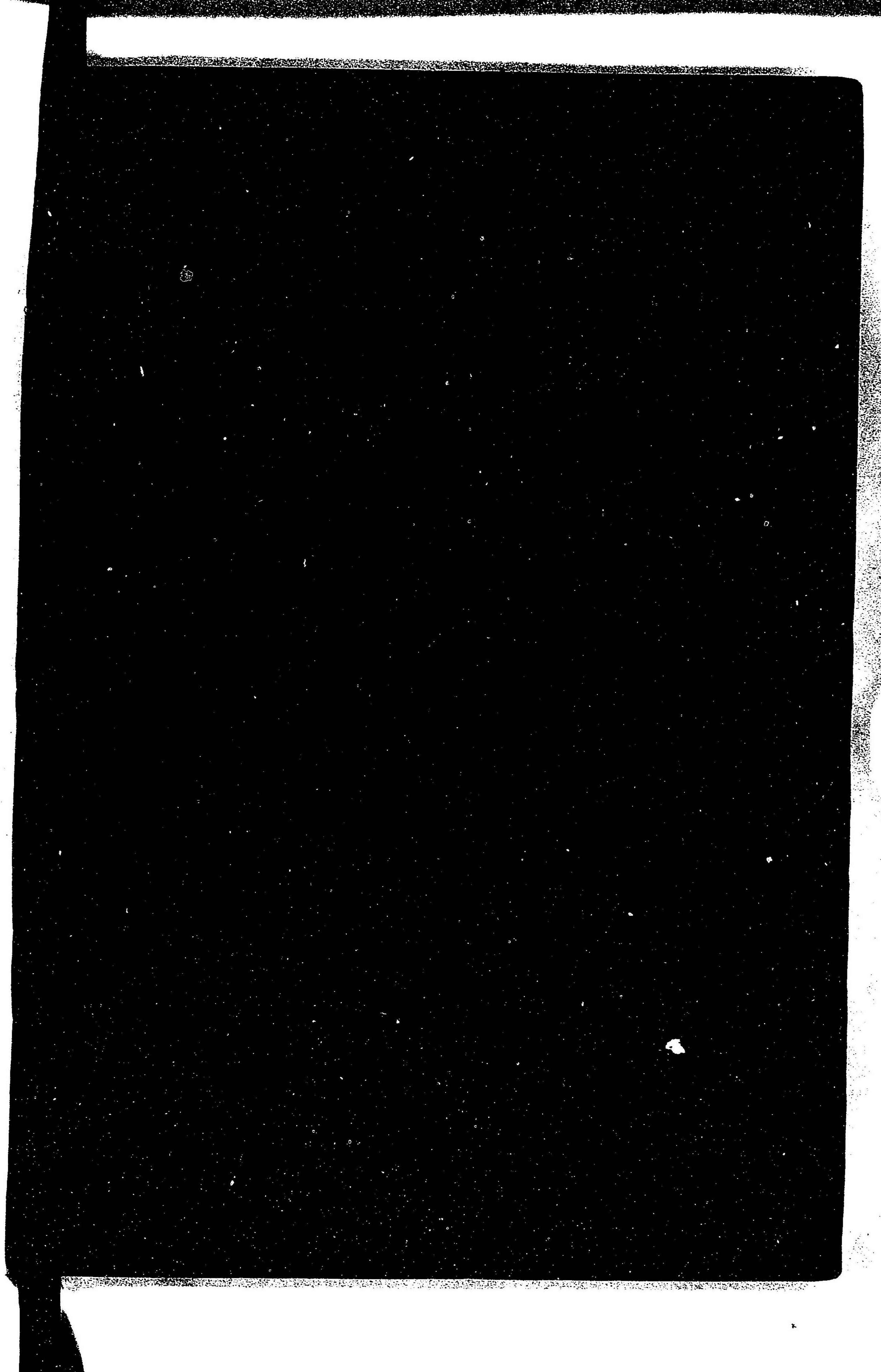
陸軍省構内

印刷所 小林 又 七 工場

電話新橋九四壹番



CL
NO. 12009



051655-004-3

395-M178m

滿洲軍倉庫業務報告

滿洲軍倉庫殘務整理所／編

M41序

BFB-0449



